

(二)かゝる間に西歐の自由商業運動益々盛に千八百六十年乃至千八百七十年の間にその高潮に達せり。英蘭に於ては「アダムスミス」及び「ハスキントン」の思想愈々劇烈なる運動を生じ、「ヴィクトリア」女王の登極と共に入閣したる「ホイッグ」黨及び千八百三十二年議會に入り來れる中流階級は「トリリー」黨よりも更に此思想に接近せり。商業及び工業の進歩は何等改變せられざる舊商業系統をして年々頽廢甚しきが如き觀あらしめたり。千八百四十年には尙ほ幾多の輸出入禁止あり、未製品課税あり、多くの輸出關稅あり。加之千八百四十年には財政缺陷の爲めに一切の關稅を約八プロセント引き上げたるあり。穀物關稅滑尺率は相場變動を緩和せざして却てこれを劇甚ならしめ、從て徒らに投機を刺戟せり。大製造業者は穀物關稅を以て工業及び輸出品の生産費を膨脹せしむる因となし漸く益之を訴ふるに至れり。千八百三十七年には「マンチェスター」に穀物關稅反對同盟成り、千八百四十二年巧妙なる煽動家「コブレン」及び「ブライト」の指揮の下に年々一千萬磅までの犠牲を供してこれが輿論を惹き起さんとする計畫に出でたり。幾分の改良を加へんとする「ホイッグ」黨閣員の計畫はこの大勢に應ずるの力なし。この時調

査に基き豁然意を決せる「トリリー」閣員「ピール」は千八百四十二年關稅引き下げの財政的前立條件として所得稅を施行し、千八百四十二年及び千八百四十五年乃至千八百四十六年の間に「ホイッグ」黨並に彼に忠實なりし眼識ある「トリリー」黨員の助力を俟て大關稅改革を斷行したり。千八百五十三年及び千八百六十年に於ける「グラッドストーン」の關稅改革は則ちこれを承けたるものなり。かくて千八百五十級に亘れる複雑なる開稅率は極めて簡單にせられ、僅々最も有利なる財政關稅たげに限られ、輸入禁止及び輸出關稅は撤せられ、農業保護關稅は悉く廢止せられたり。小麥關稅は千八百四十九年乃至千八百六十九年の間尙ほ毎クォーター「一シルリング」なりき。航海條例は僅かに沿岸航行權を英蘭人に保留して千八百四十九年に撤せられ。一切殖民地は英蘭と爾他國家とを同列視することを得たり而して英蘭も亦殖民地生産物の特別扱を廢したり。原料及び未製品は原理上には自由と宣言せられ、精製品は千八百四十二年に高々二〇プロセントの關稅を支拂ひ(絹織物は尙ほ二五乃至四〇プロセントの關稅を課せられたり)、千八百五十三年には僅かに一〇プロセント、千八百六十年には全然自由となれり。財

政關稅も亦消費及び關稅收益を増大すべしと信ぜられたる限りは輕減せられたり。

もとより英蘭と雖もこれを以て完全なる自由商業を實行したるにはあらず。關稅統制あり著大なる財政關稅依然として撤せられざるなり。千八百六十年以來締結せられたる商業契約は嚴密なる意味に於て抽象的自由貿易の精神を實現したるものにはあらず。然り而してこれ等の商業契約と言ひ千八百四十二年乃至千八百六十年の關稅改革と言ひ皆英蘭の爲めに計りて有效なる處置たりしや疑なし。これが實行に當りたる政治家は截然たる自由貿易主義者たり宇宙調和を信じたる樂觀主義者たり以て廉價に購入し高價に販賣し得べきを期せり。然りと雖もこれ等政治家は主として當代の潮流に順應したるのみ、蓋し彼等政治家は大英國は自今世界上に毫も商業航海上の大敵を憂慮するを須いず、經濟上幼稚なる爾他全世界に對し大英國は世界商業上常に覇權を握れる仕事場たり取引所たるべし現在に於て既に然り將來も亦然るべしと信じたればなり。爾他世界は到底農業的なること高々二三の工業製品を供給するに過ぎざること―これ

彼等政治家の確信して疑はざる所以なりき。

(ホ) ナポレオン三世は富裕資本家を後循となし極端なる保護關稅政策を實行したる「ルイフィリップ」の政策が瓦解したることを目撃し。既に皇帝となりて後は國家民衆を主眼とする商業政策を實行せんと欲したり。これが準備として彼は千八百五十三年の暴騰を機として穀物關稅を撤し、穀物商船に對する噸數關稅及び船旗附加稅を廢し、家畜關稅を引き下げたり。これを始めとして工業關稅制限の意味にて幾多の改廢あり。立法議會はこれに反對したり。然れども商業契約上に立法議會の協賛を要せず且つ政治上英蘭に接近せんことを欲したれば、彼は佛蘭西國民經濟學者「ミシユル・シニヴァリエ」及び「コブデン」をして千八百五十九年に英蘭と商業契約を締結せしめたり。この契約は千八百六十年一月二十三日批准せられ、而して歐洲新自由商業政策の基石となれり。先づこれが結果として現はれたるは千八百六十年の「グラッドストーン」の關稅法なり。次で英蘭及び佛蘭西と爾他國家との間に締結せられたる幾多の自由主義的契約は皆これに基けるものなり。

英蘭佛蘭西間のこの契約の結果は佛蘭西の輸入禁止を撤し、佛蘭西へ向け英蘭商品の關稅を高々三〇プロセント、千八百六十四年來は二五プロセント(從價稅)となせり。英蘭はこれに對し葡萄酒關稅を大に輕減し且つグラッドストーン條例を施行せり。英蘭商品に對する佛蘭西の新特別關稅はその後個々商品に就て規定せられ、而して燃糸關稅は八乃至一〇プロセント、織物關稅は一五プロセント(從價稅)となり、從價關稅は概して變じて特別從量關稅となり、原料品に對する關稅は廢止せられたり。燃糸及び織物に對する輸出獎勵金は撤せられ、穀物關稅滑尺率は全然低率の確定關稅に變じたり。從來高率なりし佛蘭西の一般關稅は爾他國家に對し變なし。苟くも富裕なる佛蘭西市場との取引に參與せんと欲する者は、佛蘭西と英蘭に等しき契約を締結せんことに奔走せざる可らざりき。英蘭も亦千八百六十年直に法律を以て一般にその關稅を引き下げ、幾分は政治上の理由より幾分は向後十年間現關稅引き下げの責任を負ふべきの豫想に依り幾分は又英蘭市場にて應募(國債に對し)すべき約束其他に依り諸國を誘致せんことに怠らざりき。

佛蘭西は最惠條約及び關稅契約を千八百六十一年にベルギエンと、千八百六十二年及び千八百六十五年にプロイセン及び關稅同盟と、千八百六十四年伊太利及びシウイットと、千八百六十五年ニデルランド、ハンザ都市、メクレンブルグと、其後に至りてシウエーデン、西班牙、葡萄牙、澳地利とも締結したり。大英國は千八百六十二年にベルギエンと、千八百六十三年に伊太利と、千八百六十五年に獨逸及び澳地利とその契約を締結せり。

(ハ)獨逸關稅同盟にてはプロイセンは千八百五十一年以來關稅を輕減せんとし、而して大工業及び中部諸州は寧ろ關稅を引き上げんことを希望せり。千八百四十八年以來沿岸諸市の間に自由商業同盟の成立あり。千八百五十八年以來國民經濟的會議はこれと同一精神を以て頻りに活動し、通過關稅、食料工業原料及び補助資料に對する關稅を撤廢し、工業關稅を輕減せんことを要求せり。農業主として東部の大地主はその對英蘭輸出の關係より自由貿易主義をとり、鐵關稅の爲めに不利の地位に立てりと信じたり。英佛の契約は千八百六十年佛蘭西と商議を開くべき機會をプロイセンに與へ。千八百六十二年三月十一日に成立

したる對佛蘭西商業契約(佛蘭西が十分の讓歩をなさざりしにも拘らず)はプロイセンの爲めに頗る好都合なりき、蓋しこれに依て關稅同盟は確實に自由貿易政策に轉じたればなり。プロイセンは保護關稅主義の中部諸州に對しこの契約に準じ關稅同盟契約を改變すべしと宣言せり。從來奧地利が享けたる特別利益、將た又機會を捕へて關稅同盟に加入せんとしたるの希望はこの契約と共に斷絶せられたり。プロイセン議會は殆んど佛蘭西契約を承認することに一致し、中部諸州は長く爭議したる後千八百六十五年に讓歩し、政治的手段に依りて、ピスマルクに致されたる奧地利とは千八百六十五年四月十一日に自由貿易主義の最惠國條約の締結あり、これが結果として奧地利の特別地位は撤せられたり。關稅同盟とベルギエン、英蘭伊太利との關稅契約及び最惠國條約は千八百六十五年に更に爾他諸國とのそれは千八百六十八年乃至千八百七十年の間に締結せられたり。千八百七十年及び千八百七十三年の二回の自動的自由貿易主義的關稅改革は獨逸に於ける該運動の結末なりき。千八百六十九年の新關稅法は自由商業の精神及び新交通技術に順應して關稅行政を改變したり。此の如くして千八百六

十年乃至千八百七十年の獨逸關稅政策の方針は大體に於て正當を失はざるにもせよ、尙ほ此改變方針は寧ろ國內の議會政策及び黨派政策、對外政策の動機、や、誇張せられたる抽象獨斷主義に基き、而して獨逸工業の狀態を事實に照して調査したる結果にあらず、加之關稅同盟の財政上の利害を誤り關稅引き下げに對し他國をして交惠的關稅讓歩をなさしむること能はざりき。而して最後に千八百七十三年乃至千八百七十七年の鐵關稅大輕減は、該世紀に於ける大經濟恐慌の豫想せられし當時に決行せられたるものなり。是れを以てこれを觀るに千八百六十九年乃至千八百七十七年の獨逸は自由貿易を幾分誇張し極端に陥れるものと言はざる可らず。

さりながら政府も輿論も差當りはこの顯著なる自由貿易主義の改變に満足したり。北米合衆國に於いても亦南方共和主義の貴族は木綿及び其他の粗生産物を高價に輸出し製造品を歐羅巴にて廉價に購買せんと欲し、これ等貴族優勢にして千八百三十二年乃至千八百六十年の間に漸次に自由貿易に傾けり。其後保護關稅主義に逆轉したりし時にも關稅は差當り餘りに高率にあらず千八百七十

年には約一〇プロセントに引き下げられたり。露西亞も亦千八百三十四年以降主として千八百五十年及び千八百五十七年にその保護關稅を輕減し、露西亞、ポレン間の國內關稅障壁を千八百五十一年に撤したり。シュウエーデン、ベルギエン、ニデルランド、デネマルク亦皆自由貿易運動に與かれり。シュウイツにありては千八百四十九年まで各州個別の關稅ありしが、千八百四十九年の關稅合同を以て低率の通過關稅及び輸出關稅と極めて適度の輸入關稅とを實施せり。佛蘭西、伊太利、獨逸、澳地利と自由主義契約を締結し、之を以て千八百年に至るまでシュウイツの自由貿易主義系統は確立し且つ存続したり。ビエモントはカザールに依りて千八百五十五年乃至千八百六十一年の間に全然自由貿易主義をとり、伊太利は其後千八百六十年乃至千八百七十五年の間に西歐一般の自由商業契約を締結したり。

り。差當り吾人は自由主義時代の統計を掲げて、而後これが逆轉に論及すべし。
二百六十五 自由商業時代の評價、第十九世紀の商業統計的體貌。上來の陳述に依りて既に明白なるが如く、文明國一般及びこれに關聯して殆んど全世界は自由貿易主義契約を締結し關稅を輕減し其他國際交通の障害を排除したるが、文明國家のこゝに出づるもとより動機と原因とを一にせず。最も發展し且つ富裕なりし舊文明國例へば英蘭の如きさてはベルギエン及び佛蘭西は自國の優勝力に依頼し、而して千八百五十年乃至千八百七十三年の隆昌時期に當りてその最早外國競争に對する保護を曩時の如く必要とせざること、その舊禁制、關稅及び航海條例が寧ろ自國の富を増進せしめずして却てこれが障害たることを看取せり。農業を主とする國土例へば露西亞、北米合衆國、澳地利、伊太利、デネマルクの如きは其粗生産物輸出を促進せんと欲し、猛烈なる工業競争に對しては當時未だこれを危險視せず却てこれを利益と信じたり。二者の中間に位置する國家例へば獨逸の如きは自由商業に依りその工業及び工業輸出并に農業を促進すべき屈竟手段と考へたり。それ斯の如く諸國の政策に影響せる政治的動

機は千態萬狀を呈せるなり。「ナポレオン」三世は自ら民心を收攬し兼ねて英蘭の意を迎へんと欲し。プロイセンはその同盟者と葛藤を生ぜざらんが爲めに千八百十八年毫も對抗關稅を實施せず、千八百五十一年乃至千八百六十五年の間自由商業政策を施行し、地稅をして關稅同盟に加入せざらしめたり。「カール」は自由商業に依りて「ナポレオン」三世を籠絡せんと欲したり。半開貧弱の國家は幾分強國に強制せられたる政治的壓迫に屈服し、幾分はその舊封鎖が最早不可能なること、國債其他の資本流入、鐵道及び概して文明制度を享受し實施せんとすれば多少從來よりも開國せざる可らざることを看取せり。

等しく自由貿易政策に立ち入れる原因動機、これの如く多端多岐、而かも亦別に諸國に共通の根本思想あるあり。既に自由貿易論の大綱は多少ながら何人にも侵染し、遂に千八百四十年乃至千八百七十年の間に頑強なる保守主義者、猛烈なる舊制辯護者も亦舊重商主義の大半が野蠻殘忍愚昧將た笑ふべき商業嫉視なることを洞察し。長期の歐洲平和時代、鐵道建設時代、大工業發達の時代に於て國際的分業の餘慶は幾分何人にも感知せられたり。駭々乎たる經濟隆昌時代

は何處にこれを觀るも外國競争の壓迫は著しく減滅せり。最も聰明なる政治家「ハルデンベルヒ」、「ハスキントン」、「ピール」、「グラッドストーン」、「ナポレオン」三世、「カール」、千八百七十年以前の「ビスマルク」、「アンドラシ」等が自由商業主義に加祖せるも亦偶然にあらず。歐洲學界も亦殆んど一般にこれと傾向を一にせり。國際法上、行政法上及び國民經濟上に自由商業の良果は既に業に之を認め得べく、而して何は兎もあれ千八百五十年より千八百七十年に至るの時期に於ては則ちその結果の顯著なること掌に指すが如きあり。吾人はこれよりこの三方面に亘り自由商業の結果に就きて少しく詳述を試みんとす。

一、(イ)諸國の相互關係及び之を秩序せる國際法は第十九世紀の間に其第七八世紀に於けると比し面目を革新せり。國家相互の競争てふ觀念は漸次に褪色し、強大國家が世界商業霸權を暴力的に爭奪せんとする傾向も亦著しからず。さらでだに佛蘭西は千八百十四年乃至千八百十五年の間かゝる霸權爭奪の舉を放棄せざる可らず。大英國は千七百九十三年乃至千八百十五年の戦争に依りて殖民地領有を大に擴張し、商業政策的優勝權を著しく増大したるが。今や千八

百十五年乃至千七百七十年、内政問題に力を集中し、外に對しては平和的世界主義的態度をとり、大膽なる對外政策を斷念したるの觀あり。獨立せる北米殖民地及び西班牙及び葡萄牙の羈伴を脱れたる中米南米の新國家社會は英蘭と自由交通を開き爲めに十分の販路を提供せり。然り、幾ならずして政治論も亦自由貿易に影響せられ、殖民地及び大海軍は母國の爲めに徒らに負擔なるのみて主張を生じ。進歩せる殖民地は千八百四十年來殆んど全く獨立し、而して英蘭は殖民地を放棄し而かもこれを以て利益を得べしと豫期せらるゝに至れり。露西亞はポーレン^①を持って餘し、北米合衆國は千八百〇三年大ミシシッピ^②流域を、ナポレオン^③より買ひ受けて却て苦惱の種を増せり。其後の西部へ向て發展したるは差當り歐羅巴の多く關知せざる所なり。千八百十五年乃至千八百七十年の間全國際社會は時に大小の區別こそあれ契約的一大政治國たり、而して内政將た平和競争に全然没頭し得たり。

國際法は曩時よりも緩和せられたるの觀あり。沿岸及び漁業領域を除外例として海洋の自由は認められたり。黒海も千八百五十六年には萬國の商船に向て

開放せられ。スエーデン^④關稅は千八百五十七年に撤せられたり。海賊業は消滅し、私有船に海賊狀を交付することは一般に廢せられ、何れの處にも戰時漁業船を掠奪す可らざることは宣せられ、多くの國家は戰時私有船に對する軍艦の拿捕權を斷念し。英蘭と雖も千八百五十六年戰時に於ける中立國船舶の自由權を承認したり。

(ロ) 舊時の苛酷なる外人法は第十九世紀の初葉三分の一期に既に頽廢したれども、文明國に於ても尙ほ全く廢止せらるゝに至らず。プロイセン^⑤は千八百十八年尙ほ露西亞を拒斥し、ポーレン^⑥代理人がオストゼー^⑦諸市の商社に加盟せずしては其處に商業を營むとを許さず、千八百十八年對デネマルク^⑧の商業契約に於てもポーレン^⑨露西亞商品の商業上にこれ等都市民の持權を保障せり。然れども千八百二十年乃至千八百六十年の間に徐々として、千八百六十年以來は急劇に且つ一般的に、内外商人及び工業者は益同一視せられ、滞在、商業、工業經營、幾分は土地財産所有上にも區別を撤せられたり。言ふまでもなく露西亞、ルーマニエン^⑩、東亞細亞に於ては今日尙ほ多少拘束的外人法の依然として實施

せらるるあり。而かも少なくともこれに幾分の制限を附し、或る商業地に對しては此等の國家と雖も開放的態度をとれり。かくの如くして千八百六十年乃至千八百八十年の間屢世界交通上經濟上には何等内外人の區別なきが如き觀を呈したり。千八百八十年以後は著大なる逆轉現象を惹き起したること又贅するを須ひず。

(ハ)殖民地は從來母國の爲めにその經濟上の利益を壟斷せられたるが、千八百七十年乃至千八百二十年の間既にこのことは輿論上に不當と認められたり。この弊に對し「アダムスミス」は幾多過激なる痛語を發し、もとよりこの領域に對しては甚しき誇張論に陥りたれば「トレンス」、「ロッシャー」及び其他學者より個々の點に於て反駁せられたるもの多し。されども「アダムスミス」の痛語は大體に於て正鵠を穿てり。舊系統は國際法上殖民地を虐待し經濟上にこれを障害したるものなること疑なし。西班牙の殖民地系統は一切西班牙人に殖民地に入り來ることを許可し殖民地間の商業禁制を廢止したることに依りて既に千七百六十五年以來解體せり。英蘭のそれは千七百八十三年の平和以來到底維持す可らざる事態

となれり。從來英領西印度諸島はその穀物及び木材の供給を自由主義なる「イングラント」に仰ぐべからず英領なりしかナダより仰がざるべからざりき。これ極めて不自然の騰貴を來たす所以なり。「ナポレオン」時代にありては本來の英蘭殖民地に於ては舊制限を保留したれども從來外國殖民地にして一時占領せられたる處にてはこれを撤去せり。大體に於て舊禁止及び強制規定に代て特別關稅系統は行はれ、依て間接には英蘭とその殖民地との商業を促進せんとせり。其後千八百四十六年乃至千八百五十三年の間にこの系統も撤せられたり。これと同時に東印度會社は其の獨占と濫用とを漸次に廢し、千七百六十七年來政府は株主の徒らに配當多からんことを望むに對して支配人を保護し、千七百七十三年以後は國王より命ぜられたる太守これを支配し、千七百八十四年以後はこれが爲めに一大臣を設け、千八百三十三年その茶商業及び日本支那商業の獨占權は撤せられ、千八百五十七年乃至千八百五十八年の間に印度は英蘭王直領の殖民地となれり。こゝに於て「アダムスミス」が絶對的商人會社の政府は最も惡劣なる組織形式なりと喝破したる語は遂に事實となれり。大殖民地を領有せる其

他の諸國主として和蘭も亦これに倣はざる可らざりき。即ち印度の商品は獨り
和蘭に於てのみ販賣せらる可らずとなし、特別殖民地關稅は千八百六十五年に
輕減せられ、千八百七十二年に撤廢せられ、和蘭に於ても亦法律及び關稅は平
等となれり。殖民地殆んど一般に爾他(母國以外)歐羅巴人及び歐羅巴商人の自由
に入り來ることを認むるに至れるは自由商業時代に於ける國際法上の最大進歩
の一なり。

(三)殖民地系統の變動と等しく舊航海條例の撤去も亦自由貿易主義の優勢とな
りたる一結果なり。この兩者は相提携し互に規定せり。舊航海法は諸國殆んど
一般に殖民政策の一部分なりき。英蘭の航海條例は千七百八十三年以來尙ほ著
しくは獨立戰爭の間に緩和せられざる可らざるに至り。プロイセンが千八百二
十二年の沿岸航行權をプロイセンの船舶に保留し、我に不利なる航海條例を施
ける國土に對して對抗條例を實行するや、これを機會として英蘭航海條例は更
に除外例を設て該條例緩和に關し英蘭對隣國の契約を觀るに至れり。千八百三
十九年乃至千八百四十八年の間は尙ほ英蘭に差別船舶關稅あり、千八百五十年

には英蘭へ向け外國船の間接航行することも認可せられ、千八百五十四年には
その沿岸航行までも自由となれり。英蘭の漁業獎勵金は千八百三十年まで存續
し。低廉海上運賃及びこの目的の爲めに自由航海競争は千八百二十年乃至千八
百七十年の間諸國殊に英蘭に於ては緊急必要事項と認められたり。英蘭の改革
に先ち既に爾他諸國は幾分一般に内外船の區別を廢し、幾分は沿岸航海を除外
例として、これを同一取扱とせり。少なくとも最惠條件を規定したり。實に久し
く航海保護法を實行し來れる佛蘭西に至るまで千八百六十年以來自由主義をと
り。千八百六十七年には外國船に對する噸數關稅を廢し、千八百六十九年には
間接航海に對する船旗附加稅を撤去したり。而して近時幾分舊主義に逆轉した
るが如しと雖も、而かも千八百八十一年、千八百九十三年、千九百〇二年の法
律に則り佛蘭西船舶に對する造船獎勵金及び航海獎勵金の形式以外には出でず。
大體に於て且つは諸國殆んど一般に依然として航海交通の自由あり。千八百四
十六年乃至千八百四十七年及び千八百八十一年獨逸が世界諸方より獨逸へ向け
直接航海の場合をその間接航海(英蘭、和蘭等を経由して)に對し優遇せんとした

る舉は何等の効果を收むること能はざりき。かゝる差別的課税は獨逸の爲めに有利なるよりは寧ろ有害なりとは一般の認むる所なりき。

二〇八

(ホ)殖民地立法及び航海立法上の改革に依りて國際的交通を自由ならしめんとはその關する所僅かに海上權力に過ぎざれども、國際的商品取引上の變動改革は實に一切事項に關し、幾ならずして外人取扱外人法にも勝れる意義を示し來れり。輸出入禁止の撤廢、通過關稅及び殆んど凡ての輸出關稅の廢止、輸入關稅の輕減は自由商業改革の主眼たり。其一部分は一國の法律に依りて規定せらるれども大部分は則ち國家相互の商業契約に俟たざる可らず。然り而して殆んど凡ての商業契約に附帶する模型的國際法的形式は極めて重要なるものなりき。商業契約は古來よりこれあり。最古の商業契約さては中世時代の商業契約の眼目とする所は概して外人法の緩和に過ぎず、その内容は個々の關稅引き下げなり、商業戰爭及び封鎖の平和的條項なり。重商主義時代に於けるものは商業漸次にその意義を高め來るに伴ひ單に大國家の間に締結せられ、而して個個都市は則ち關せざりき。今日と雖も商業契約の主要内容は國家相互間の旅客、船

舶及び商品の入國一般將た裁判保護の秩序なり。罕れには關稅、輸出入禁止に亘れども、その場合には則ち差別法及び最惠條約を締結し、他國に同一特權を認可せざることも亦屢約束せらる。千五百五十三年乃至千七百四十年の間一系の列の土耳其佛蘭西通商條約に依り佛蘭西人が東部商業を獨占したるが如き即ち是れなり。不信の精神、壟斷の傾向この契約に支配し、この故に自由主義國民經濟の自然法説は一切の商業契約を不當と認めたり。然れども漸次に個々契約の締結ありて、一、外國は或る個個の地點に於ては内國人と、二、其他の地點に於ては則ち最惠條約國民と同一視されたり。例へば西班牙人は千六百五十九年佛蘭西に於てこの第二項の權利を認められ、最惠條約國民即ち和蘭人及び英蘭人と同一に取扱はれたるが如きこれなり。この國際法的形式は千六百六十年乃至千八百六十年の間に徐徐に廣汎に布延せられ、それに伴て内國民と同一視せられざる地點に於て外人は少なくとも相互に同一權利を認めらるべしてふ觀念は愈一般に流行せり。これ平等權利及び平等競争の増進を意義せるものなり。それ然りと雖も千八百六十年に及ぶまでこの原理の流行は未だ以て認むべく

二〇九

もあらざりき。プロイセン及び關稅同盟と雖も法律上若しくは事實上に聯邦を差別取扱せる幾多の契約を締結したり。千八百五十三年に於ける埃地利條約、千八百四十四年に於けるベルギエン條約の如き即ちこれなり。かくの如きは曩きにも屢これあり、即ち交惠的に他國に許したる讓歩は將來最惠條約國に對し逐一に即ち換言すれば特殊の交惠的讓歩ありたる場合にそれに對して交惠的に讓歩せんとするの見解をとれり、千八百三十九年に於ける希臘「プロイセン」條約の第十一條、千八百二十八年に於ける獨逸「北米合衆國」條約の第九條の如き皆これが實例たり。

既に千八百六十年以前に歐羅巴の商業契約は個々開放條項を一般に承認せんとするの傾向をとりて愈最惠條項を廣く適用したるが、一般に輸出入關稅を撤し、通過關稅を禁止し、關稅率をなるべく廣く引き下げこれを十年乃至十二年間有效ならしめんとするが如き一般的傾向をとりしは漸く千八百六十年乃至千八百七十年の間に在り。苟くも第三國に承認せられたる最惠條項を直に且つ何等交惠的條約なくして一般最惠國に許可すべしてふ意味に於ける最惠條項は實

にこの時代に始めて實行せられ、主として漸く千八百六十五年以來のことに屬せり。かくの如くにして今や二三の關稅率輕減契約に伴て十數若しくはそれ以上の最惠條約の成立を觀たり。これが結果は國際的關稅の輕減なり、殆んど凡ての差別關稅の撤去なり、國際的競争場裡に於ける一切關與國の平等對立なり。獨斷主義的自由商業論者は「アダムスミス」と等しく千八百七十年に至るまで一切の商業契約を攻撃したるが、今や嘗て「リスト」が看破したるが如く、諸國民は商業契約に依り漸次に益、自由世界交通に引き入れられんず形勢を示し。こゝに千八百六十五年乃至千八百八十年の間に始めて最惠商業契約は根本的に自由商業の理想を實現すべき唯一の手段なりてふ學說を生ずるに至れり。實にこの最惠商業契約が凡そ自國の利益に顧み且つは自由主義の爲め當時の世界的傾向の爲めに自由開放政策をとらんとしたる諸國の間に關稅を輕減せしめ關稅條約を締結せしめたる状態に察して疑もなく自由商業の理想を實現すべき唯一の手段たりき。諸國の政府は相互の利益を打算し平和的協定に出づるに遺漏なく、且つ又あらゆる方面に極端に失せざりしが故に、最惠商業契約の影響する所有利

にその結果良好なるありき。然り而して經濟上の發展相匹敵したる單に自然關係上に相異ありたる諸國家間に締結せられたる場合に、この商業契約の效果最も顯著なるものありき。當時の實際を觀察するに經濟上幼稚なりし國家は或は全然この契約に與からず、商業契約を締結したるものと雖もその條約多からず。若し幼稚國家にして廣くかゝる商業契約を締結したる場合には、その結果次第に強大國家が獨占的に若しくは少なくとも主として利益を收むることを感知せずんばあらざりき。

一步を進めてこれを精察するに苟くも有利條件を第三國然り舊契約國にも直に何等の交惠契約なくして承認せんとする所謂最惠條項規定なるものが時に惡果を伴ふべきこと、この規定には始めより多少の除外例あることを看過する能はず。多くの契約に於て若しくは殆んど一切の契約に於て、それが自國臣民との對等同列關係に及ぶや則ち除外例あり。外人の行商、外人の沿岸航行を禁止するが如き、外國漁業船を自國民のそれと同一視せざるが如き、外人株式會社の設立に或る條件を附し屢嚴重にこれを制限するが如き皆これが實例たり。更に

一般的最惠條項より除外せられたるものは、或る國境交通條項、或る海上輸入に對する關稅引き下げ、或る加工交通條項、遠隔未開國に對する條項の如きあり。既に千七百八十六年英蘭はその佛英契約より葡萄牙を除外し、千七百七十二年葡萄牙はその獨逸との契約よりブラジルを除却せり。千七百七十一年のフランクフルト平和契約は佛獨間の永久最惠條項を協定したるが、その範圍は將來兩國が歐羅巴の六大國に對して承認すべき條項に限れり。近時關稅同盟は到底最惠條項に依りて成立す可らずと稱せらる。

千八百七十五年以來保護關稅的潮流の復興するに伴ひ、最惠條項契約に對する不信益加はり、而かもこの不信は多くの場合に於て理由あり。兩國が形式上に最惠條項を承認し、而してその一國は高率の保護關稅然り極端の保護關稅を保留し他國は漸次にその關稅を輕減すとせば、後者は必ず利益を壟斷せらるるの感なくんばならず。これと等しく最惠條項に關する歐洲の習慣と規定とは亞米利加のそれと著しく齟齬し、亞米利加は將來苟くも他國に讓步する場合には必ずこれに對する交惠條項を要求するに歐洲のそれは然らず、依てかくの

如き抑根底を異にする契約は始めより殆んど不可能たり、豫じめこの原理上の齟齬に關し詳細なる規定なくんばその結果は必らず確執爭議を免かれざるなり。これに就ては尙ほ本冊後段 **二百七十一** に論及すべし。

二、重商主義の行政法上に無能力なりしとが其没落に與て力ありたるは吾人の既に觀察したる所なり。悖德、密賣、關稅率の支離滅裂、虚偽の申告を促せる從價關稅、統制の不完全、官廳の買収—凡そ此等の墮落は第十八世紀の末葉に至るまで枚擧に遑あらざりき。「ピット」の關稅技術上の改革、千七百九十一年の佛蘭西關稅法、千八百十八年のプロイセン關稅法は以て關稅行政を改善し、關稅率を統一秩序し、從價關稅に代ふるに從量關稅を以てし、極端なる密賣を排除し、官吏社會を廓清し、國家内の商品運動を自由ならしめんとする重要な轉動機會なりき。これ等の個々進歩、これ等の點に關せる現今諸國の逆轉政策若しくは復雜稅率、從價關稅等の近時復興等はここに立ち入りて詳述すべき餘白なし。たゞこゝにはこれ等進歩の大半が千七百八十三年乃至千八百七十五年の自由商業と關聯し、而して爾後再び保護關稅主義に逆轉したるにも拘らず尙ほ大

體に於て維持せらるゝことを主張するに止まる。

三、大體に於て千八百四十年乃至千八百八十年の間に起り個々にはそれ以前に現はれたる國際商業秩序のこの驚くべき變動は總じて經濟上に如何なる結果を生じたるか。從來狹隘範疇に跼蹐し或る地方或る商品のみに限られたる一方的分業は今や非常の擴張を效し舊時の面目を革めたり。従つて大工業、大量交通、貨幣經濟、經濟競争は曩時に比し遙かに劇烈となれり。一切の經濟的生產は著しく社會化し、總生産、人口、消費は嘗て久しく期す可らざりしまでに増大すること可能となれり。諸地方、諸州、諸國の全經濟狀態は益以て分化せり。今や始めてたゞ單に少量の食料品のみならずその三〇プロダクト然り七〇プロダクトを外國より輸入する工業國とその收穫の大半を輸出する農業國との發達あり。富裕地方と貧弱地方との懸隔は益甚しきを加へずんばあらざりき。然り貧弱地方は嘗て限局せられたるその自然上及び交通上の營利機會が開放せられ緩和せらるゝに應じて益増加せる例も屢これあり。

それ然りと雖も自由貿易主義の狂氣者流が苟くも消費、人口、富の増進を一

に國際自由商業に歸因せしむるが如き、これ言ふまでもなく非常の誇張ならずんばならず。自由商業はたゞ交通技術上の進歩及び運賃低減と相俟て始めてこの結果を効せるのみ。千八百四十年乃至千八百七十年の間諸國に於て農業の隆昌を効せる主要原因は道路及び鐵道の修築に在り。而して諸地方間分業の進歩及び分業の生産力増進もその一半然り恐らくその著大部分、最も自然的にして且つ最も確實なる部分は國際自由商業に因せずして國家内に施行せられたる從來の正當なる制限に由れり。今日の國家及び帝國は概して千七百八十九乃至千八百七十四年以來始めて事實上に自由國內市場を發達し、即ち佛蘭西及び北米合衆國は千七百九十一年以來、大英國及び愛蘭は千八百〇一年乃至千八百二十五年以來、露西亞及び墺地利は千八百十五年乃至千八百五十一年以來、シウイットは千八百五十年以來、獨逸は千八百三十三年乃至千八百六十七年以來、伊太利は千八百五十九年乃至千八百七十年以來、シウエーデン ノルウエーゲンは千八百二十四年乃至千八百七十四年以來、カナダは千八百六十七年以來然りしが如し。従て營業の自由及び移住の自由の結果として交通範域將た生産力に増進を効せ

る所―是れ千八百年乃至千八百八十年の間概して諸國國民經濟上の隆昌の原因にして、國際的自由商業は寧ろ此隆昌の原因にあらず。殊に廣表三〇〇〇〇〇平方キロ、人口一千万乃至三千万を越ゆる大國家の場合を顯みるに、小國家が外國貿易と稱する所の半ば若しくはそれ以上は實に國內商業の範疇に屬せり。既にこの事情のみを以てこれを觀るも外國貿易の一般膨脹に關する統計數字は國民の富の増進を表示すべき尺度として決して確實なるものにあらず十分なるものにあらずなるなり。總輸出入の一人宛額の如きは言ふに及ばず―この一人宛額はベルギエン、シウイット、デネマルク等の小國にありては自然違常の高率を示すべし。輸出入一人宛額如何と顧みるに、千八百八十六年乃至千八百九十年シウイットに於ては四二九マルク、ベルギエンに於ては三七二、獨逸に於ては一三八、北米合衆國に於ては九六マルクを示せり。それは兎に角第十九世紀の間六大國に於ける輸出入商業の貨幣價值概觀(下表)を批閱するは徒事ならざるべし。この統計數字はシエール、ライトゲン、其他學者の最も的確なる編纂に準據し、最近時の分は信憑すべき「ゴータ」のホーフカレンダーを以てこれを補へり、

反覆繰説を避けんが爲めに千九百年乃至千九百〇二年までの統計は下段に接して附記したり。

第十九世の間六大國の輸出入概観

大英國及び愛蘭

百萬磅單位

年	輸入	輸出	總和
一八〇〇年	二八	三四	六三
一八二五	四四	五六	一〇一
一八四〇	六七	一一六	一八四
一八六〇	二一〇	一六五	三八五
一八八〇	四一一	二八六	六九八
一八九〇	四二一	三二八	七四九
一九〇〇	五二三	三五四	八七七

一九〇一	五二二	三四八	八七九
------	-----	-----	-----

佛蘭西

百萬フラン單位

年	輸入	輸出	總和
自一七九八年	二六八	二五四	五二二
至一八〇〇年	四一〇	五四四	九五四
一八二五	七四七	六九五	一四四二
一八四〇	一八九七	二二七七	四一七四
一八六〇	五〇三三	三四六八	八五〇一
一八八〇	四四三六	三七五三	八一八九
一八九〇	四六九八	四一〇九	八八〇七

プロイセン * 關稅同盟 ** 獨逸 ***

貴金屬を以てする特殊商業
百萬マルク單位

年	輸入	輸出	總和
一七九五年*	一五三	一五九	三一二
一八二八年*	二五五	三一八	五七三
一八四〇年**	五〇三	五四八	一〇五三
一八六〇年**	一一一三	一〇五九	二一八二
一八八〇年**	二八七六	三〇九九	五九七五
一八九〇年**	四二七二	三四〇九	七六八一
一九〇〇年**	六〇四三	四七五二	一〇七九五
一九〇一年***	五七一〇	四五一三	一〇二二三

北米合衆國
百萬弗單位

年	輸入	輸出	總和
一八〇〇年	七一	九一	一六二
一八三〇	七二	六三	一三五
一八四〇	一二四	九八	二二二
一八六〇	三六二	三七三	七三五
一八八〇	七六一	八三三	一六一四
一八九〇	八二三	八八一	一七〇四
一九〇〇	九二九	一四七〇	二三九九
一九〇一年	九二五	一五七一	二四九六

露西亞 (フィンランド及び亞細亞領を除く)
百萬ルーブル單位

年	輸入	輸出	總和
一八二四—一八二八年			

ポレンを除く	—	—	一〇七
一八四四—一八四八	—	—	—
ポレンを除く	—	—	一七〇
一八六一	一四三	一六〇	三〇三
一八七一	四一四	三一	七二五
一八八〇	五六〇	四七六	一〇三六
一八九〇	三六一	六〇八	九六七
一九〇〇	六二六	七一六	一三四二

埃地利—ウ—ン—ガ—ル—ン

輸入	輸出	總和
一八三一年	六九	八〇
一八四七	一三四	一一八
		二五二

一八六〇	二三一	三〇五	五三五
一八七八	五七九	六九八	一二七七
一八九〇	六五一	七七五	一四二六
一九〇〇	八七〇	一〇〇四	一八七四

尙ほ、アドルフワグナーに依れば總商業（輸出入）の百萬マルク單位は次表の如きものあり。

大英國及び愛蘭	獨逸	佛蘭西	北米合衆國
一八六〇年	二一七三	三三三九	二八三四
一八七三	六七四六	五八七四	五一三八
一八八五	五八〇五	五七九一	五五五九
一八九〇	七六八三	六五五二	七七七八
一九〇〇	一〇七九六	七〇四五	一〇四〇七

上表の概観はたゞ商業發展に關して大凡その概貌を示すに過ぎず。個々國家の統計數そのものは或は概算商品價値に基くもの或は申告商品價値に基くものありて完全に比較し得べき限りにあらず。統計調査方法、統計表示の貨幣(紙幣なるか金屬貨幣なるか)、幾分は又國土境界の上に諸國殆んど一般に變動あり。重量に至りては屢貨幣表示價値よりも非常に錯綜せり、例へば千八百八十年乃至千九百年の獨逸に於ける總交通は、貨幣表示價値にて六十億マルクより百億マルクに増加し、噸數に於ては三千萬より七千七百萬に増大せるが如し。實に諸國の統計系列は其間に類似の原因あれども更に重大なる獨特原因ありて嚴重なる意味に於て到底直接比較を容さず。殊に輸出額(價値額)は諸國を通じて輸入價値額の統計行き届きたるに對ししかく信憑するに足らず。然りと雖も尙ほこの概観統計より多少の解決を得るは強ち不可能ならざるなり。

差當り吾人の眼に映ずるは、千八百年乃至千九百年に於ける違常の商業進歩が露西亞に於て一對一三、英蘭及び佛蘭西に於て一對一四乃至一五、プロイセン獨逸に於て一對三四、北米合衆國に於て一對一四九の割合をなせることな

り。この統計より察して今日經濟的欲望充足の大部分が國際的となれることは否む可らず。若し外國より商品を輸入することが經濟上に極めて有利ならざりしならんには商業は恐らくしかく増進すること能はざりしなるべし。又第十八世紀の國際法及び重商主義制度を以てしてはしかく昂進すること不可能なりしならん。それ然り、而してこの増進率が六大國の間に甚しく齟齬を呈せるは、獨逸及び北米合衆國の示せる著大増進率が千八百年乃至千八百五十年の間この二國が經濟上英蘭及び佛蘭西に對し遙かに及ばざりし事情に坐することを忘る可らず。「アドルフワグナー」の比較統計に依り現今世界商業上諸國の地位如何と顧みるに、千九百年大英國は百七十五億マルク、獨逸及び北米合衆國は百〇七億マルク及び百〇四億マルク、佛蘭西は七十億マルクの順序となれり。

個々國土をしてその外國貿易を増進せしむるの機會は多岐多端、而して決して單にその富の程度若しくはその經濟的進歩の調子にのみ應ずるものにあらず。海國は小なるもその商業の發展比較的に最も著大、大帝國にして版圖あらゆる氣候に亘りありとあらゆる土地産物を産するものはこれに反してその商業比較

的に最も微弱。或る意味よりこれを觀れば商業の著大増進はその國土の不幸状態を暗示せり、換言すれば即ち原料、鐵及び石炭、羊毛及び木綿、食料品に缺乏せることを説明するものなり。國家の地理學上の領域特色及び國境形相の如何に依り他國に比して遙かに著しくその國土の大半を外國交通に向はしめ。例へば千八百十五年のフロイセン、千八百三十四年乃至千八百七十年の關稅同盟の如き廣表を有する一切の國家にとり、將た國內關稅の制限撤去せられたる一切の國土にとりては長時期外國貿易に何等著大の増進なく主として國內交通の増進を觀るあり。されば外國貿易の増進は常に種々の原因に坐する極めて復雜の結果にして、其間たゞ單に望ましき原因のみあるにあらず。それ然りと雖も増進は寧ろ進歩を。停滯若しくは減退は寧ろ不健全なる經濟状態を指示すてふ命題は眞理たるを失はざるなり。

外國貿易を支配せる幾多原因の中にてその時々々の商業政策は僅かに一原因たり而して屢最も重要な原因にあらず。外國商品に對する需要、國民の支拂能力即ち對價を提供し得べきの可能は常に國際商業の方針を決定すべき重大原因

たり—常に然り。若しこの最後の純經濟的原因にして強大なれば、政策上保護關稅封鎖を實行する場合にも商業は著しく増進す。貧弱國土はあらゆる自由商業を實行しつゝも何等著大なる輸出入額を示さざるなり。大英國の總商業は千七百八十七年乃至千八百四十年の間封鎖系統の下に三千四百萬磅より一億八千四百萬磅に増大し、千八百四十年乃至千八百八十年の間自由商業の下には一億八千四百萬磅より六億九千八百萬磅に増加したるのみ、從て前者は一對五乃至六、後者は一對三乃至四の割合なり。更に佛蘭西商業は千八百二十五年乃至千八百六十年の間に九億五千四百萬フランより四十一億七千四百萬フラン、換言すれば一對四に、千八百六十年より千八百八十年に至る間には八十五億〇一億萬フラン、換言すれば一對二の増加を示せり。其後千九百年までは僅かに八十八億〇七百萬磅の増加ありしのみ。これに由てこれを觀るに保護關稅と經濟的需要と何れが重大原因なるかは常に疑問ならずんばあらず。然れども苟くも自由商業政策は商業増進を刺戟し、苟くも保護關稅政策は則ちこれに反するは自然の理數なり。而して兩政策共に生産並に交通の方法に影響を及ぼし從て國際商業

の個々部分と方向とに作用せり。されば商業統計より經濟上及び商業政策上の目的を斷定すべき經濟上の至大問題は、この統計を商業の方向と商品の種類とに就き詳細に研究したる後にあらざれば解決す可らず。こゝにこれ等の研究に深く立ち入ることは餘白の許さざるを遺憾とす。

吾人が上來掲げ來れる統計より推理し得べき總結果は次の如きに出でず。歐羅巴の商業統計は千八百年乃至千八百四十年の間進歩著大ならず。これ當時富及び交通共に著大ならず且つ保護關稅政策の實行せられたる結果なり。次で千八百四十年乃至千八百八十年の間は非常の増進あり、これ自由商業に俟つこと勿論なるも恐らくそれにも増して爾他原因より效されたる結果なり。千八百八十年乃至千九百年の英蘭及び佛蘭西は多少停滯状態を示せるが、これ(少なくとも英蘭に就て言へば)決して單に商業政策の結果にあらずして却て根本的に爾他原因より説明せざる可らざる現象なり。露西亞、北米合衆國、澳地利は千八百八十年乃至千九百年の間、それぞれ高率の保護關稅を課したるにも拘らず進歩を示せり、蓋し農生産物の輸出及び其他の發達に因せるものなり。獨逸はそ

の外國貿易に極めて顯著なる増進あり、從て獨逸は少なくともその保護關稅に依て阻止せられざりき。これ主として原料品、殖民地商品及び食料品に對するその購買力に因し、工業品輸出、資本貸出、並に大海運業に依りこれが支拂に應ずることを得たるに依れり。

かく論じ來りて吾人は既に千八百七十五年乃至千九百年の新時代に突入せり。この新時代の商業政策變動に就てはこれより節を改めて説明せざる可らず。要之自由貿易時代の主要成績は舊商業政策的競争を緩和し、國際法上に大國際商業を可能ならしめたる點に於て空前の進歩を示せることに在りて存せり。今やこの運動は多少停滯し、競争劇烈なる新時代の展開となれり、然り新時代の展開となれりと雖も第十七八世紀のそれとは根本的に性質を異にせり。(譯者曰、凡そ舊思潮、舊主義の復興、將た所謂逆轉運動の批判に當りて、今の新時代が第十七八世紀の商業競争と一見等しきが如くして其實大に然らざる所以に顧みなば啓發する所決して尠少なからざるべし。歴史は反覆す、而かも世界未だ嘗て全然同一の二本の樹あらずと言ふが如く、そのまゝに反覆する歴史は何處にも

これを認む可らず、永劫の進展、無窮の轉動これの裡に在りて存せり、實際生活然り、思想豈それ然らざらんや。敢て一言する所以なり。

二三〇

二百六十六

第十九世紀の末四分一期に於て高率保護系統に逆轉せる露西亞及び北米合衆國。千七百八十年乃至千八百七十五年の間は自由貿易思想に風靡せられたるが、千八百七十五年より今日に至るまでの間にこの思想は時に一弛一張の差こそあれ要するに衰頹を來たせり。今や世界は保護關稅の新時代となり、然り重商主義の新時代となれり。凡そ經濟上及び其他の點に於て諸國の間にあるとあらゆる差別あるにも拘らず、通じて一様の傾向を示し來れり。そのこゝに至れる必らずや多少の一般的大原因なくんばあらざるなり。

版圖に大小ありたれども而かも何れも餘りに廣大ならず勢力相匹敵し少くとも互に相尊敬したる諸國は久しく比較的停滯せる均勢狀態を以て平和を維持したるが、今やあらゆる戦争、領域擴張、國家統一競争、侵略及び殖民地争奪に狂奔し、巨大國の發達となり、未だ文明國より領有せられざりし世界は新たに分割せられんとす。新交通道路は内外に開けて一切經濟關係はこれが爲に變

動を蒙れり。かくして緊張及び競争の新時代となり。諸國家が陸海軍を發達し、殖民地を争奪し、戦争手段に訴へんと熱狂せる狀千八百七十年以來眞に驚くべきものありき。關稅の大増率は殆んど何れの國家に於ても既に財政上の見地より到底避く可らざりしが如し。

千八百四十年乃至千八百七十五年の大隆昌時期は一般に周約的農業と大交通と新大工業とを發達せしめ、大に人口を増加せしめたるが、其後舊文明國に於てこの當初の大進歩は同一歩調を以て持續すること困難を告げ。更に周約的農業と工業と販路とを開拓し、愈増加せん人口を生存せしむること益困難を感じたり。競争は内外に劇甚を加へ、恐慌はそれ自體は微弱なるものなれども千八百二十四年乃至千八百六十六年のその如くに急速に回復せず。これが救濟方法を講じたる結果はこゝに外國競争の拒止てふ形式を以て現はれたり。

千八百四十年乃至千八百七十五年の隆昌を效せる大變動の中にて最も顯著なりしものは食料品大交通なり。大農業國主として北米及び露西亞は今や（ノルトゼー）及びオストゼー沿岸領域さては塊地利及びウンガルンを捨て、新たに人口

稠密なる工業國主として英蘭に向け穀物輸出を開始したり。大農業國はこの輸出に依りて大利潤を占め、從て又幾ならざるに此等大農業國はこの穀物輸出に對する支拂手段として輸入國の工業製造品を受取らんことを欲せず、自國の工業を發達せんと欲し、これが爲めに保護關稅を施行したり。これより競争頓に劇甚を加へ、旁々以て一方的工業國若しくは一方的農業國の運命果して如何なるべきかの大問題を生じたり。

こゝに於て一般に新利害と新權力團と商業政策及び國際法の新問題とを産み、而して凡そ國權の本來の自然的結果は表面に現はれ來りて、即ち國權は國民經濟上の大目的の爲めに供用せられ、自由貿易時代の世界主義的理想は過去の夢となり。教義的自由貿易論はその權威を失墜し、これと類似せる獨斷的保護關稅說に依て代はられたり。勢の然らしむる所玉石を辨別するに違あらず、則ち千七百八十年乃至千八百七十五年の間に發達したる萬世不滅の眞理までも併せて否認せられ蔑視せらるゝに至れり。

吾人はこゝに最も強烈に反動政策を實行したる二大國即ち露西亞及び北米合

衆國の商業政策を觀察せんとす。

(イ)千八百六十八年の露西亞關稅率は尙ほ適度の保護關稅なりき。露西亞の外國貿易は千八百六十一年乃至千八百八十年の間に低率關稅を以て三億〇三百萬ルーブルより十億三千六百萬ルーブルに増大せり。その穀物輸出は千八百七十二年乃至千八百七十八年の間に倍額以上に増加し、露西亞へ向け獨逸の輸出は千八百六十三年乃至千八百八十三年の間に四倍に増加したり。然れども土耳其戰爭は財政上の缺乏より露西亞をして憂慮すべき紙幣經濟を餘儀なくせしめ。外國資本を以て高價なる鐵道を急設せしめ。外國に利子を支拂ひたる結果として貿易均衡極めて不利の状態に陥り、關稅收入は以てこれを補充すべくも見えざりき。千八百七十八年一月一日以來關稅は金貨支拂となり、これ既に三三プロセントの増率を意義したるに、千八百八十年には更に一〇プロセントの増率あり。獨逸に對する不興はベルリン會議以來益甚しく、パンスラヴォ黨は歐羅巴殊に獨逸より露西亞を開放せんと欲したり。先づ大藏大臣 Pungo は幾百萬の貧困農民を解放し救濟し有力なる手段を以てこれが實現を期したり。然れども

皇帝が一旦の場合には猛烈に西に東に突破進撃せんと決心し殊に陸海軍を増設して以て攻撃的權力政策を採るに及んで、こゝに更に優勢なる手段に訴へざる可らざる必要を生じたり。これが方法として一切の租税を極度に引き上げ、財政關稅も亦増率し、原料品及び未製品にも高率の關稅を課し、^付鐵工業、機械工業、織物工業、砂糖ビール化學製品工業に高率の保護關稅を課し、これを要するにありとあらゆる新設立の大工業に高率の保護關稅を加へ、遂に千八百九十一年六月十一日の新關稅は千八百八十一年來の一切引き上げを編成して尙ほもこれを從價稅六〇乃至一五〇プロツェント然り二〇〇プロツェントに増率し、以て北米合衆國よりも甚しき高率保護系統を制定せり。戻關稅及び輸出獎勵金を實施し、輸入減輸出増をあらゆる犠牲を供して敢行せる、同時に露西亞鐵道を完成し、鐵道貨率を輕減し、信用を發達せしめこれが利用を低廉ならしめたる、東方、波斯、支那、中央亞細亞へ向け露西亞の輸出を増加し、千八百八十七年三月の法律に依り總西部諸廳に於て嚴重なる外人法施行に逆轉し、以て外人の土地財産取得を禁じ、西歐人主として獨逸人の手に經營せらるる幾多企業を露

西亞化せんとしたる！凡そ此等の規定方針は露西亞經濟政策及び財政政策の目的にして實に今日に至るまで露西亞は苟くもこれが實現に努力せり。

傍若無人の大藏大臣二人出で、その後なるウイッテは千八百九十三年乃至千九百〇三年の在職にして「ジッロ」式の財政的天才なるが、此等の輩に依り敢爲なる擴張政策を實現せんが爲めにあらゆる犠牲を供して貨幣を調達せんとする一系統は能く發達し得たり。主として後なるウイッテはあらゆる事業創立を促進しカルテルを創設し而して私的營利生活と信用制度と財政とを悉くその權力に收め而かも大製造業者の私的營利衝動に對して最も廣汎にして最も有利なる機會を開けり。最も重要な工業殊に鐵工業及び織物工業は特に千八百九十一年乃至千八百九十八年の間に巨大進歩をなせり。露西亞工業の年生産額は千八百八十七年乃至千八百九十七年の間に十三億三千四百萬ルーブルより二十八億三千九百萬ルーブルに増大したり。外國資本の流入せるもの夥しく、配當は一〇〇プロツェントに上れること一再にあらず。其後千八百九十八年乃至千九百〇二年の間に外國資本家は四分の一に減じ多くの取引業は衰微したるが、而かも尙ほ

工業は殆んど一も閉鎖せられずその時々他の資本家殊に露西亞資本家の有に轉じたり。露西亞の輸出は千八百六十八年には二億二千六百萬ルーブルなりしが今や増加して七八億ルーブルとなり。輸入は現に主として事業新設立に缺く可らざる材料及び機械に止まり、露西亞に於ける消費品は殆んど全く露西亞製に限れり。露西亞帝國は千八百十年乃至千八百九十九年の間に千八百萬平方キロより二千二百四十萬平方キロ、人口四千二百萬人より一億二千八百九十萬人に増加し、版圖は極北より熱帶圈に延び、その木綿需要の三分の一は自國の産なり。露西亞は千八百七十年乃至千九百年の間鐵道建設に依りて始めて統一感情と活動能力とを發達し、外國資本の夥しき流入に依りて大隆興を效すことを得たり。然れども今や露西亞は又昔日の露西亞にあらず、殆んど暴力を手段とする商業政策、外人政策、侵略政策及び殖民政策に依り外國の資本主義的羈絆を一舉に脱せんと計れること歴然たり。

言ふまでもなく國債は莫大額に達し、殆んど政治上の危機をも生ぜんとする衆態に在り。國債利子、鐵道、株式其他に對する利子として千八百九十六年既

に年額一億五千萬ルーブルを外國に支拂はざる可らざりき。これが爲めに生計費増大し、相場悉く暴騰せり、若しこの巨大債務なかりせば鐵道會社及び工業會社の成立は數百萬ルーブルを節し得たりしならん。租税は國民を壓迫し。西歐文明教育を受けたる少數階級の下には幼稚なる幾百萬の蠻人あり、農民階級の大半は破産し而して半ば餓死せんとす。太公の一人秘密旅行に依りて諸州危急の實情を調査し皇帝に報告して曰、吾人は露西亞を危機に陥らしむる冒險よりなるべく速かに免かれざる可らずと、これを動機としてこの全系統の首腦は革職せられたり。輿論も亦露西亞が立憲政治を開始するより以外に方法なかるべく然からずんば遂に滅亡を免かれざるべきを信じて疑はざりき。

遮莫、露西亞が千八百八十二年乃至千九百〇四年の保護系統とその東方侵略とに依りて經濟上に隆昌を效せることは世界史の一大事實たるを失はず。猶ほこれ第十六世紀及び第十八世紀に於ける西歐のそれに等しき重商主義政策なり。露西亞は鐵道建設時代に權力及び富の増進を必要としたり。工業上の保護關稅政策はかゝる時代に誤謬にあらずりき。然れども能く適度を守りて徐々に實行

したらば更に良好且つ健全なる結果を擧げ得たりしなるべく。果して然らば農民を窘蹙せしめず、租税を臣民より誅求することもなく、國民經濟組織をしかく救ふ可らざるまでに資本主義的危險に陥らしめず、國家をしてしかく債務を負はしむるの必要なかりしならん。これ農民の八三プロセントを犠牲に供し、工業家、商人、及びこの輩と結托し私腹を肥やせる少數官吏の利を計れる急進政策なり。これ内に悖德分子を混じ外に未だ輿論の覺醒なく健全なる自治行政を擧ぐべき強機關を備へざる官僚專制主義にして始めて能くすべき一政策なるなり。

(口) 全北部亞細亞を領有せる東方巨大帝國の商業政策と並馳せるものは千八百六十年より今日に至るまでの北米合衆國商業政策なり。北米合衆國に於けるも亦露西亞に於けるが如く、鐵道建設時代に伴て農業大に擴張し、これと關聯し商業政策に依りて駁々たる工業發達を效さんとし、遂に帝國主義的侵略政策を實現せり。十三の新英州に英蘭の羈絆を脱せるミシシッピーに至るまでの領域を加へて、こゝに千七百八十三年乃至千八百〇三年の間に合衆國は建設せられた

るが、千八百年に於けるその廣袤約を二百萬平方キロ餘、その人口約を五百萬餘。尙ほこの外千八百〇三年に購はれたるミシシッピーメキシコ間の佛領ルイジアナもこれに等しき廣袤あり。其後千八百四十五年乃至千八百九十年の間に大平洋に達する大領域を獲得し。千八百九十年には七百二十萬平方キロ、千九百年には九百三十八萬平方キロ、その人口は千八百五十年に二千三百萬、千八百八十年に五千萬、千九百年に七千六百三十萬(この内八百二十萬人は頓に増加せるネーデルナリ)と註せらる。かくの如くして沃野千里天産物限りなく自然に良交通手段を備へ之を舞臺として道徳政治上、技術上及び精神上最高文明の傳説に教養せられたる歐洲來住者の淘汰あり、以て統一的文明系統及び國家系統を效し、その大規模なること又これに次ぐものあらざる偉觀を呈せる眞に偶然ならずと言ふべし。

合衆國商業政策の端は本冊 **二百六十四** に吾人これを指示したり。合衆國商業政策を支配せる事實は通じて、一、關稅が合衆國の主要收入たりしこと、二、今日に至るまで農業をその經濟生活の大本とし粗生産物が外國貿易の主要素た

りしこと、三、然れどもそれと別に工業を促進せんとする保護關稅未だ嘗てこれなき場合あらざりしことなり。既に合衆國の建設者、「ワシントン」、「ハミルトン」、「ジエファソン」、「マディソン」ハ保護關稅主義者たりき。千八百三十二年乃至千八百六十年の所謂自由貿易時代に於ても、よし當時南部諸州殖民貴族が支配し歐羅巴へ向け出來得る限り自由商業を希望したるあれども、尙ほ關稅率は關稅負擔商品の從價二〇乃至二五プロセントを下らざりき。千八百四十年乃至千八百六十年の間—西部へ向け膨脹し、鐵道建設せられ、カリフォルニアの金坑發見せられ、人間及び資本の流入増加したる結果として—非常の隆興あり爲めに英蘭競争は毫も著大の壓迫を生ぜず。千八百三十七年乃至千八百三十九年の恐慌並に千八百五十七年のそれは言ふまでもなく短期間若干の關稅引き上げを來たせるのみ。

されば若し合衆國統一の爲め千八百六十年乃至千八百六十五年の奴隸制度の爲め及びこれと關聯せる財政缺乏の爲めに市民戦争を惹き起すことなかりせば合衆國は恐らく依然として自由貿易政策を撤せざりしなるべしとは或る學者の

主張せる所なり。余謂ふにこれ恐らく然らざるべし。然れども合衆國が自由貿易主義より保護關稅主義に變化したるの時期はそれが爲めに延期せられ且つ保護關稅主義そのものもしかく極端に陥らざりしなるべし。合衆國人口の中心地點たる北東部に政權が移轉し、大恐慌あり、歐羅巴との利害競争益劇甚を加へ大經營、トラストの發達あり、國家を指導せる階級の資本主義的組織を發展せるあり—凡そ此等の現象は財政上の必要と相俟て以て關稅引き上げを迫り來れり。

千八百六十年の所謂「モリル」關稅は既に市民戦争前に羊毛工業及び鐵工業を幾分特に保護したり。關稅の平均率は千八百六十二年に三七二プロセント、千八百六十四年に四七〇六プロセント。而して其後千八百七十二年には約一〇プロセントの關稅引き下げあり。千八百七十五年にはこの引き下げを更に逆轉したり。個々の關稅引き下げは千八百八十二年に至るまで毫も著しきものあらず、千八百八十三年關稅平均率は三八プロセント、個々に就て言へば五乃至二〇〇プロセントなりき。千八百八十七年には相場的一般下落に對し變動なかりし關

税率は四七・一〇プロセントに引き上げられたり。當時概して歐羅巴の競争は毫も著大壓迫を感ぜられざりき。蓋し麵粉原料輸出は既に千八百六十一年乃至千八百六十四年に極めて巨額に上り、千八百七十一年乃至千八百八十三年の増加驚くべきものありしを以ての故なり(千八百三十年に七百萬弗、千五百五十年に千三百萬弗、千八百六十年に千四百萬弗、千八百七十年に七千二百萬弗、千八百八十年に二億八千八百萬弗をなせり)。八十年代に於てこの輸出盛況は多少逆轉し、西部へ向け農業殖民も墓々しからず。政府所有の良土地は漸く終りを告げんとし、さりとて鐵道所有の廣大土地を強制的に一舉に耕地となさんことは不可能たり。取引停滞は容易に脱せらるべくも觀えず、而して既にトラストはその發達の端を開けり。こゝに於て忽ちの間に工業發展を效すべき手段として關稅引き上げ政策に出でたり。關稅輕減を主義とする民主黨と高率關稅を標榜せる共和黨との競争は一切政策の中心點となり、政府に立てる共和黨は苟くも名目上嘗て軍人たりしもの及びその寡婦に對して年金を増加して以て投票を買收し(年額年金千八百七十七年には二千八百萬弗にして千八百九十七年には一

億四千七百五十萬弗に増加せり)、既に長期間を經過せる今日再び始めて民主黨より出でたる大統領クリーヴランド(千八百八十七年)の關稅改革を復興せんことを妨害し、而して千八百九十年「マッキンレー案」通過せしめ以て極端なる高率保護關稅を施行せり。然れどもこれが結果は甚しく計畫企圖と齟齬し、相場は爲めに騰貴し、トラスト活動の横暴に對する不平は益々甚しく、千八百九十三年に至りて恐慌勃發し、依りて一見保護關稅が賃銀を騰貴せしむるが如く思はれた結果を生ずること明かに不可能となり、民主黨は再び勝利を得るに至れり。然れども民主黨も亦千八百九十四年の「ウィルソン案」を以て僅かに若干の關稅率引き下げを實行し得たるのみ。共和黨は「マッキンレー」の下に再び政府をとり、而して千八百九十六年の「ディングレー案」に依り千八百九十年の原則に逆轉したり。

千八百九十年の關稅法は關稅法規定の輸入商品に對し從價平均四八・六プロセントを課し、千八百九十四年のそれは四一・七プロセント、千八百九十六年のそれは五四・五プロセントを課せり。最も重要な工業品は千八百九十六年に五〇乃至九〇プロセントの關稅を課せられ、多くは從量稅及び從價稅を并用したり。

羊毛の如き最も重要な工業原料品及び未製品も亦高率關稅を課せられ、穀物及び其他種々の食料品も亦その例に漏れず——蓋し此等食料品は個々の國境を越え主としてカナダ國境を越へて入り來りたればなり。關稅行政將た價值申告吟味は千八百九十年及び千八百九十六年最も嚴峻を極め、他に類例を認む可らざるまでに勵行せられ、關稅官吏自らその多くの規定を緩和せんことを計れる程なりき。然れども他國にて財政源泉と見做されたる幾多商品にして千八百九十年乃至千八百九十六年の關稅に免除せられたるものあり、例へば千八百九十六年に於ける茶、カフエー、ヴァニル、ポロネンの如し。これ蓋し中部亞米利加及び南部亞米利加諸國に誘致手段としてこの自由を提供し、それ等をして北米工業に對し交惠的讓歩をなさしめんとし、若しこれを承認せざれば我より提供せる自由も撤せんと計りしなり。この關稅も歐羅巴の工業品輸出に大打撃を加へ、個々重要な亞米利加工業をして一時相場の騰貴に依り非常の進歩を效さしめたり。その輸入を禁止したるや著しきものあり。此關稅は議會を通したるが、これ全然優勢なりしトラストと多數黨の爲めに利用し得る限り多くの關稅を施行

したる黨派政策との結果のみ。然り而してこの運動は歐羅巴に對して亞米利加を獨立せしめんとする國民思潮と迎合し、その結果も亦大體に於てこの政策と矛盾せざりき。製造品輸出も亦著しく増如し、例へば鐵及び鋼を原料とする生産物の輸出増加は千八百八十六年に千四百七十萬弗、千八百九十年に千四百一十萬弗、千八百九十七年に七千〇三十萬弗、小麥及び小麥粉輸出の増加は千八百七十年より千八百八十年に至るまでは年額二百三十萬噸、千八百八十一年より千八百七十年に至るまでに年額三百七十五萬噸、千八百九十一年乃至千八百九十九年のそれは四百八十四萬噸を示せり。

北米合衆國は千八百六十年乃至千八百八十年の間歐洲最惠條約と絶縁したるが如く其後の時代に於ても亦これに對して冷靜なりき。「ディングレイ」案の條項は少數商品に對しては一定引き下げ契約を認め、二〇プロテクトを極小限として一般的關稅輕減契約をも承認したるが、實際協定に當りて然かしたるもの多からず。佛蘭西及び葡萄牙と締結したる契約の如きは殆んど毫も關する所なし。合衆國は低率關稅を施行せる國家と最惠條約を協定し而して自らは著大の讓歩

をなさざらんことを力めたり。嘗て外人移住を自由に許可し加之これを促進したりし合衆國は今や嚴重なる禁止政策をとり、先づこれを支那人に適用し次では歐羅巴人にも應用せり。外國船に積載せられたる商品に對する自由取扱は、千八百十五年及び千八百二十八年の法律が規定したる所なりしが、千八百六十年以來亞米利加の海上商業不振を來たせるに依りて改變せられ、既に千八百六十四年以降は外國船に積載せられたる一切の商品に對し一〇プロセントの附課關稅を徵集するに至れり——尤も交惠條約國は此限りにあらざりき。千八百八十四年以來は噸數料法を施行して亞米利加内の他港より來れる船舶を保護し、千八百九十一年以來は郵便補助金を給し、而して近時造船材を自由輸入に依て補助せられたる造船業を更に内國船補助金の計畫を以て補充せんと欲せり。それにも拘らず大鐵道王及び大銀行王はこれを以て足らずとし、英蘭汽船會社の大部分を買收し、これを亞米利加汽船會社と併合して以て大「モルガン」汽船トラストとなし、世界海上商業の上に北米合衆國を雄飛せしめんことを期し而して能くその力を備へたり（千九百〇二年乃至千九百〇三年）。

凡そ此の如き計畫は千八百四十五年乃至千八百五十三年の間に大にその版圖を擴張し、爾他亞米利加を益々直接若しくは間接に合衆國に隸屬せしめ、全亞米利加より歐羅巴人を驅逐し。太平洋に覇權を唱へんとする努力を以てその高潮に達せり。カナダ併合の希望は大に準備せられたり。千八百二十四年來垂涎嚚ならざりしキューバは西班牙より略取せられ、ハワイ、ポルトリコ及びフィリピンは併合せられたり。セントドミンゴも亦これと運命を等うせんとせり。英蘭人は千八百五十年の契約に依りて兩大洋を通ずる運河に對し權利を失ひ、將來のパナマ運河（今は現在の事實となれり）は徹頭徹尾合衆國の權力に屬することなれり。合衆國政府は殆んど全國民の歡呼の裡に帝國主義的大殖民政策及び侵略政策を開始せり。合衆國は今やその昔羅馬人がシリ、カルタゴ、希臘、小亞細亞及びシリを隸屬せしめずんば止まざらんとしたると同一の問題に遇着せり。羅馬の當時貴族はこれ等領域を糾合し妥當なる同盟系統を組織せんと欲したるが、貪慾飽くなきブリアカ（前揚説明）はこれを屬州となし政治上經濟上にその限りなきの慾を満足せしめずんば止まざりき——今北米合衆國を顧みるに、千八

百二十三年西班牙の亞米利加殖民地を保護せんことを目的としたる神聖同盟に對して發表せられたる所謂「モンロー主義」は、たゞ單に獨立亞米利加州に歐羅巴の干渉を容さず、又亞米利加は新世界に於ける歐羅巴の殖民地及び屬州さては歐羅巴の問題に干渉せずと言ふに過ぎざりしに、今や則ち然らず全亞米利加は亞米利加人從て北亞米利加合衆國の權力範圍にして且つ亞米利加は歐羅巴、亞米利加、濠洲及び亞細亞の凡ての葛藤に干與せざる可らずとなす。

合衆國の權力とその廣大版圖とその富とは世界活動場裡に於ける亞米利加の地位をかくの如く變動せしめ、巨大なる發達、國民的自負心、勢力將た政治的能力及び經濟的能力の餘力は、以て保護關稅系統、トラスト、侵略政策、并に黨爭、國家生活上の不祥狀態、政治的自由に對する危險を敢行せしめたり。この國民的進歩の行程上に二思潮の軋轢あり。一は合衆國建設者に發せる舊政治道德的理想主義にして、この理想主義は今日尙ほ普及し殊に舊新英州に活潑なり、例へば「ロイズヴェルト」の如きこれが代表者なりと謂ふを得べきが如し、二は成金黨の貪慾にしてたゞ以て一時の利潤を眼中を置き、凡そ原則の如きは犠牲

に供して物ともせず、一に百萬富豪たらんことに狂奔せり。官職任命上の掠奪系統、選舉賄賂(千八百八十八年その大統領選舉の爲めに投じたる所實に六百萬弗)、政黨買収(ニューヨークのタマニョール)は皆この貪慾主義の現象なり。この貪慾主義は千八百九十年の保護系統を助成し、愈侵略及び併合に狂奔し、ネーデルの權利を剝奪し、取引界に益新たなる大恐慌を惹き起し、少數者の爲めに相場を人爲的に騰落せしむ。實に合衆國の政權が成金黨の手に歸するか若しくは將來の憂慮をも忘れざる健全分子に保留せらるかは將來の大問題なり。保護關稅系統が再び合理的に輕減せられ他國に對して妥當なる商業政策を實行するに至るべきかも亦この問題の如何に繫かれり。更に侵略政策及び帝國主義が少數大資本家の悖德寡頭政治を現出するか若しくは全く專制政治を生ずるか、將た侵略政策愈進みて大戰爭を惹き起し、而して既にメキシコの半ばを併合したりし時「アレキサンダー・フロンボルト」に依て豫言せられたるが如く合衆國それ自體の分裂に立ち至るべきかも亦この大問題に依て決せらる。嘗て西班牙人、次では佛蘭人及び英蘭人を刺戟して大功業を立てしめ而かも亦敢て不正殘忍な

日本のこと
を証す
そのもの
十七

る政策を實行せしめたる世界商業覇權の觀念は、今やヤンキー世界を眩惑せしめ歡喜せしめ昏迷せしむる所の新幻象たり。事態かくの如くにして愈進まば、嘗て古代及び中世時代に地中海上に、千五百年乃至千八百十五年の間大西洋上に演ぜられたる世界商業覇權の爭奪戰が、必らず合衆國がその領海と認むる大平洋上に合衆國と爾他強國との間に決せられざる可らざるの時代の到來する蓋し遠からざるなり。然り而して獨逸のこの爭奪戰に對する關係は英蘭、露西亞、佛蘭西、支那及び日本^{*}の如く濃厚ならざるべし。

尙ほこゝに歐羅巴人種より成れる大國家はその最も専制主義なる最も民主主義なることに別なく等しく最も高率なる保護關稅と最も攻撃的なる侵略政策とに出づることを一言るは極めて重要なり。共和的民主政并に絶對専制主義はその究極に於て歸一するものなり。

三百六十七

佛蘭西の新保護關稅政策。佛蘭西はその舊文明に屬すると工業の舊發達なると人口停滯せると皆農業を以て新たに勃興せる二巨大國露西亞及び北米合衆國に比し全然反對すれども、その千八百八十五年以來高率保護關稅

に逆轉したるの一事は二大國と殆んど匹敵せり。佛蘭西はもと小市民及び小農民より成れる一富裕國土なるが、千八百十五年以來は幾たびか政變ありたるにも拘らず常に大地主大製造業者及び大銀行家の富豪政治なりき。舊重商主義政策は「ナポレオン」二世及びその後の二政府より過重視せられ、「ナポレオン」三世、ディクタトルに至りて始めて重商主義系統を緩和したれども二百六十四ホ參照、政治の實際を支配したる多數の人々は保護關稅政策に依らざる可らざることとを確信せり。千八百五十一年「ティエール」が國際分業を批評せる語は今尙ほ人心を支配せり。曰、吾人は佛蘭西の葡萄酒、絹織物、さては贅澤品を以て英蘭の石炭、鐵、木綿に打ち勝つこと能はず。佛蘭西國土の性質上一切の工業部門を一樣に發達せしめざる可らず。抑自由商業は一切を偶然に放任せんとするもの、神の意を損ふや甚しと。

既に六十年代に於て苟くも小停滯起る毎に保護關稅政策に訴へたり。千八百七十年乃至千八百七十一年の戰爭の後は國債額に増加し關稅引き上げは止む可らざるの必要となれり。「ティエール」大統領たり、而して保護關稅主義の木綿紡績業

者 Puyyer-Quertier はその大藏大臣たり。彼は「ビスマルク」と「フランクフルト」に會し獨逸に對し數年間の商業契約に代ふるに永久的最惠條件説を以て提議せり、蓋し「ビスマルク」が保護關稅の即時引き上げを妨害し永久的最惠條件に就ては敢てこれを阻止せざりしを以てなり。

千八百七十一年の法律案は原料に對する高率關稅、織物に對する報償關稅、輸出關稅、保護關稅主義の海運政策を目的とし、大體に於て議會を通過したるが、千八百七十三年乃至千八百七十五年の間契約國の抗議に依りて失敗に終れり。これが爲めに法律上に有效なりし間接輸出獎勵金と外國原料品に對する admission temporaire とは愈勵行せられたり(外國原料品に對する證明書は協定せられ且つ濫用せられたり)。「ティエール」は千八百七十三年に大統領の職を去れり。大統領「マクマホン」(千八百七十三年乃至千八百七十九年)の下には政府は何等確固たる方針を示さず。千八百七十四年には露西亞に對し、千八百七十七年には西班牙に對して商業政策上の讓歩をなし、爾他國家との契約を遷延せんとし、遂に千八百七十七年乃至千八百七十九年間に僅かに若干の引き上げを期せる新關稅を準備

したり。最高商業委員及び立法部は商業契約系統の持續を主張せり。其後千八百七十九年乃至千八百八十一年の間保護關稅思潮優勢となり、議會委員は多くの重要な關稅を政府關稅以上に引き上げたが、尙ほ大臣 Thiers は保護關稅主義の工業黨に對し能く農業黨及び自由貿易論者の多數を結合し得たり。千八百八十一年五月七日の關稅法は無契約國に對する一般關稅を含み、平均して從來の契約關稅率より二四プロセント高率なりき。新契約關稅率はたゞ少しく引き上げられたるのみ。されども最も重要な工業關稅及び鐵關稅に於て概して千八百七十九年の獨逸關稅率よりもやゝ高かりき。而かも工業原料及び食料品は大體に於て依然自由に、たゞ家畜及び葡萄のみ課稅せられ殆んど全く從價稅を廢せり。千八百八十一年一月二十九日の法律は言ふまでもなく造船獎勵金航海補助金に對する國民の希望に讓歩し、而して家畜、穀物、粗製糖の如き議論喧かりしものは之を佛蘭西が單獨に外國と協定したる契約關稅項目中より除き以て保護關稅論者の歡心を買はんとしたり。然れども總じて「ナポレオン」の關稅系統は能く維持せられ、而してベルギエン、伊太利、葡萄牙、シユウエーデン、ノル

ウエイゲン、西班牙、シウイツ及び埃地利と新たに締結せられたる一系列の最惠條約及び關稅契約はこの關稅法に關聯せり。英蘭は特別佛蘭西法律に依りて最惠條件を取得し、獨逸は千八百七十一年の平和條約に依てこれを收めたり。

これ「ピルス」の勝利なりき（ピルスはエピルス王なり、羅馬共和國とアスクルムに戰て勝ちたるが、其結果は敗者に禍せずして却て勝利者たるエピルスに禍せり、無益の勝利を意味する語なり、譯者云）。千八百八十二年の大恐慌、千八百九十年まで打ち續きたる不景氣は保護關稅運動を愈劇烈ならしめ、農業と大工業とは結托し、葡萄栽培者は害蟲に依り自由貿易論者より保護關稅論者となれり。議會は千八百八十四年に砂糖關稅の引き上げ、砂糖輸出獎勵金を、千八百八十五年には小麥關稅の三フラン、千八百八十七年には五フラン、并にこれに類似せる家畜關稅の引上げを通過せり。千八百八十八年には伊太利と猛烈なる關稅戰爭を開始し、Thiersはその職を退けり。全契約系統の撤廢、最大限關稅率最小限關稅率の確立—これ千八百九十年乃至千八百九十二年間の暗語なりき。利害當事者は全問題を解決すべき權力を擁し、政府は轉覆し、これに代て議會委

員長、メリネ局に當れり。元老院は議會よりも更に著しく保護關稅引き上げに左袒せり。

千八百九十二年一月十一日の佛蘭西關稅法は無協定國家に對する極大限關稅と協定國家に對する極小限關稅とを規定せり。この極小限關稅に於ても從來の契約關稅に於けると等しく協定國家に完全なる自由を認むべき多くの關稅率を缺如せり。今後は商業契約の締結を許さずたゞ極小限關稅の承認若しくは拒絶に對する協定あり得べきのみ。極小限關稅は從來より約四〇プロセント、極大限關稅は六〇プロセントの増加を觀たり。或る原料品は依然自由なりしも、農業關稅は著しく引き上げられ、幾ならずして更に又増率せられたり。例へば千八百九十四年に小麥が七フランに引き上げられたるが如き、千八百九十八年の小麥關稅の如きこれなり。歐羅巴以外の商品にして歐羅巴諸國を經由したるもの、歐羅巴商品にしてその原產地以外を經由したるものには比較的高率の關稅を課せられたり、關稅戰爭に對する關稅引き上げ及び輸入禁止あり。アルゼリアの併合は千八百六十七年に始まりて千八百八十四年に宣言せられ千八百九十

二年に完了せり。千八百八十七年に印度支那の併合あり、千八百九十二年の法律に依りて爾他若干殖民地の併合あり。詳言すれば佛蘭西商品は其地に關稅を免除せられ、外國商品は其地にて佛蘭西關稅を課せられ。それにも拘らず此等併合殖民地の個々殖民地生産物は佛蘭西に於て財政上の理由より高率の關稅を課せられ或は極小限關稅の半額を課せられたるものもあり。この目的は幾分舊關稅系統を復興し、殖民地に母國の特權を行使し殖民地をして母國にその交惠條件を容さざらんとせるものなり。二つの新航海法(千八百九十三年及び千九百〇二年)は千八百八十一年のそれよりも更に造船及び佛蘭西商船の航行を獎勵せんことを期し、乃て以てこの高率保護關稅系統を補充せり。

この高率保護關稅系統はもとより佛蘭西外國貿易を撲滅せざりしも又毫もこれを促進せしめざりき。千八百九十二年乃至千九百〇一年の間(九年間)製造品輸入は其前九年に對して殆んど停滯し、食料品輸入は平均年額千八百八十三年乃至千八百九十一年の間の十五億〇四百萬フランより千八百九十二年乃至千九百〇一年の間の十億四千五百萬フランに減退し、それにも拘らず小麥相場は一

八二六フランより一六三六フランに下落したり。肉及びバターバターの下落はこれより更に甚し。穀物消費及び穀物生産は共に増大したり。工業は千八百九十八年に至るまで殆んど停滯し、其後たゞ僅かに世界的好況に參かれるのみ。高率小麥關稅はアルジールアルジールよりの自由輸入に依りて幾分調節せられたり。隣國との關稅協定は容易に進行せず。伊太利との關稅戰爭は航海に就ては千八百九十六年まで、商業交通に就ては千八百九十八年まで持續し、シュウイツとの關稅戰爭は千八百九十二年乃至千八百九十五年の間に亘れり。この兩關稅戰爭は佛蘭西國民經濟に致命傷を與へ、これ等兩國と佛蘭西以外の隣國との永久的交通を増大せしめたり。然り而して單に不可變的最小極限關稅の提供は爾他國家との協商の場合に於けると等しくこの場合にも亦到底不可能の方法たること事實の上に明白となり。愈以て關稅率を讓歩變更せざる可らざりき。

或は曰、千八百九十二年の系統は佛蘭西をして何等著大の發展を效さしめざりしも、佛蘭西はこれに依てその農業及び工業を安泰に維持し得たり、この系統は佛蘭西の人口停滯事情、その資本家的精神、商人及び工業家の創業心の缺

乏に順應せるものなりと。然れどもこの洵美廣大なる佛蘭西國は其の期間に廣袤八十九萬平方キロ人口六百九十萬(幾ならずして二三百萬にも増加すべき)アルジール及びチュニス^二を第二の佛蘭西とし、其外に廣袤九百萬平方キロ人口五千二百六十萬を越ゆる大殖民地を建設したり。佛蘭西は尙ほ大なる將來を開發すること不可能にあらざりき。然れども内閣の變動何れも僅かに數閱月、而してこれが後楯たる多數黨の離合明日を期す可らず、加ふるに木綿紡績業者、製糖業者及び其他の利害當事者の眼識豆大、關稅立法及び商業立法の改變に臨みて祖國を憂へずして自家囊中を探り國民經濟の將來如何を慮るに違あらずして今日の相場をこれを念とす—佛蘭西の運命かくの如くして危からざらんこと難しと言ふべし。露西亞及北米合衆國を觀るに最近商業政策は殘虐を極めたれども尙ほ大規模なりき、佛蘭西のそれは則ち聰明なる大膽と言ふべし。然れども千八百八十八年以來の佛蘭西商業政策は姑息にして淺慮、その高率農業關稅に於けるよりは寧ろ議會多數の思潮とその現世界經濟に對する無智とに於て殊に然るものあり。北米合衆國に對する他國との共通關係例へば「マッキンレー案」は宜しく

拒斥せらる可かりしに、佛蘭西は敢てこれを拒斥せず、而して二三の些細なる特別利權を冀求せり。シウイットに對する有害無益の關稅戰爭は根本的に獨逸に對する愚昧なる嫉視に發せり。乃ちシウイットに對しては毫も讓步せざらんとし、若し然かせば獨逸をも利することゝなるべしと信じたり。千八百九十年乃至千八百九十二年の間、新商業契約に對する畏怖は、悉く以てこの新契約より恰かも千八百八十一年乃至千八百八十三年の如く永久的最惠條件を基礎とし再び獨逸に利益を占めらるべしとの疑念より起れるものなり。かゝる感情を以て健全なる大政策を期せんとする到底得べからざるなり。

二百六十八

中部歐羅巴主として獨逸の新商業政策。上來觀察したる諸國は未だ嘗て全然自由商業に轉じたるものにあらず。二大農業國家に就てはその自國の工業を發展せんと欲したることは自然なり、佛蘭西に就てはその嘗て第十八世紀に於ける和蘭の如く停滞状態に在りしを以ての故に保護關稅主義を採るに至れることは自然なりと言ひ得べし。

然れども爾他歐羅巴諸國殆んど一般にその程度に多少の差別こそあれ自由商

業より保護關稅主義に轉じたり。未だ殆んど近世技術を知らず外國の製造業及び商業に支配せられたる西班牙が千八百七十七年に高率の保護關稅を施行し、諸國に先んじて極大限關稅及び極小限關稅を規定したる、新王國ルーマニエンがその英蘭及び塊地利に隸屬しこれが爲めに利益を壟斷せられし自由商業時代より一轉して千八百八十六年に保護關稅を制定し塊地利と關稅戰爭を開き而して千八百九十一年更にその關稅を引き上げたる—これたゞ從來の如き純農業状態の徒らに他國の爲めに利益を壟斷せらるゝことを覺醒したる徴候のみ、然れども政策變動の潮流はこれに止まらず、伊太利、シウヰツ、塊地利ウングアルン次ではシウヰデン、ノルウヰゲン、ベルギエンも亦自由主義を捨て、保護政策に轉向せり。而して和蘭及びデネマルクは小海上商業國及び中間商業國として自然獨立保護關稅がその困難なる位置を救済する所以にあらざることを看破し、これに加ふるに獨立保護關稅を施さんには廣袤餘りに狭く、而して差當りは政治上の嫉視ありて爲めに大國に倣ひ保護關稅を施行することは能はざりき。

(イ)農業を立國の基礎となせる伊太利はカザール及びビエモントの政策を踏襲

して自由商業政策を實行し來れるが、既に千八百七十年より千八百七十四年の間に財政及び工業獎勵上の理由より自由商業の效果如何を調査し。それより千八百七十八年五月三十日にや、高率の新關稅實施となり。又同時に概して濫用せられたる從價關稅を變じて從量關稅となせり。千八百八十七年に再び調査を遂げ千八百八十七年七月四日に一般關稅率に非常の引き上げあり、その結果佛蘭西と商業戰爭を惹き起せり。爾來伊太利は自ら石炭及び鐵を産せざるに能く工業上主として織物工業上に隆昌を效せり。

塊地利ウングアルンは、その獨逸に於ける特別取扱(千八百五十四年乃至千八百六十五年)が關稅同盟の締結したる西歐最惠條件契約に依りて無効となりしや、その商業契約に依り千八百六十五年乃至千八百六十九年の間に急進的に自由商業運動に投じたり。ウングアルンの穀物輸出の必要及びその農業經濟上の隆昌は自由商業に邁進せり。工業關稅の一般的大輕減は千八百六十七年乃至千八百七十五年の間に幾多工業上の退嬰的企業を撲滅せしめ、同時にこれが刺戟となりて技術上の進歩と専門分化とを促がせり。この變動過程と千八百七十三年以來

の恐慌とは又商業政策上に轉動を惹き起し。奥地利は既に千八百七十六年に商業契約を豫告し、千八百七十八年六月二十七日の關稅法は三十七種の商品主として燃絲及び織物の關稅を著しく引き上げ、一切の關稅を金貨支拂規定に依りて約そ一五プロツェント引き上げ、非最惠國に對しては一〇プロツェントの附課稅を課せり。ウングアルンも亦自由商業主義より漸次に農業保護關稅主義に轉じ、たゞ今次未だ東部競争地に對し何等穀物關稅及び小麦粉關稅を實施する所あらざりしのみ。奥地利のこの專斷行動は奥地利と獨逸との間に商業政策上の敵視を醸成すべき前兆となり、この敵視は千八百七十六年乃至千八百九十年の間に亘り屢關稅競争を惹き起さんまで切迫し、たゞたゞ最惠條件の撤廢を延期せることに依りその都度辛うじて勃發を避けられたり。ベルリンに於てもウインに於ても保護關稅熱益劇甚となりたる結果として、總じて些細の錯誤を妥當なる交讓に依りて協定し若しくは當時に於て今日よりも更に容易に成立し得べかりし關稅同盟に依りて協定すべき相互了解と能力とを缺けり。千八百七十九年の獨逸關稅は奥地利をして千八百八十二年それよりも遙かに高率なる家畜關稅穀物

關稅を實行せしめ一切のハンブルグ奥地利商業をフイウメ及びトリエストに轉向せしめんとする計畫を立てしめたり。それに對し獨逸が更に幾分の引き上げをなすや、その結果は再び千八百八十七年の奥地利關稅となり、該關稅率は利害當事者それ自體の要求以上に出で、ウングアルンはこれを以て獨逸に對する一時の威嚇手段と考へたり。一切の農工業生産物は非常の引き上げを蒙れり。この誇張政策は千八百九十一年獨逸と締結せられたる十二月契約に依りて拘束せられたるか。この契約は大體に於て該政策に毫も多大の變更を及ぼさず主として千九百〇三年までこれ以上に引き上げることを禁止したるに過ぎざりしが故に、該高率保護關稅は今日まで持續し、爲めに工業上顯著なる新發展を效せり。然れども亦これが結果として東方隣邦と關稅戦争及び確執を生じ、而してこれ奥地利が商業上需給上殊に依頼せざる可らざる地方なりしを以て看過す可らざる大事件なりき。千九百年乃至千九百〇三年の新契約準備に當りてはウングアルンに於ても奥地利に於ても曩時より一段保護關稅主義に傾けり。而して國法上に獨立せるこのウングアルンと奥地利とは相互に敵視し。ウングアルンは極めて高率

の農業關稅を欲し、ルーマニエンとの商業を不可能ならしめんとし、これが結果は墾地利のみ不利の地位に陥りウングアルンは毫も關係せず。これに反し墾地利はその新工業を將來に亘りても高率工業關稅に依りて保護せんと欲し、ウングアルンはウングアルンそれ自體の工業を創建せんと欲するが故に關稅統一あるにも拘らず間接に墾地利工業製産品の消費を妨止するの狀態に在り。

小シウイツはその工業發展し而して千八百五十一年の極小限關稅規定を實行したるが隣國の關稅系統に依りて眞に憫むべき狀況に陥り、千八百五十一年ウアルデニエンと、千八百六十五年佛蘭西と、千八百六十八年伊太利及び墾地利と、千八百六十九年獨逸と自由商業契約を締結するに及んで漸くこの急地を脱したり。フライこれを形容して曰、かくの如くして歐羅巴商業政策の我に有利なる波動はシウイツに一浮木を流れ來らしめ、千八百六十八年乃至千八百六十九年の間シウイツはこの浮木の乾燥せらるゝを見て喜べりと。次の十年間更に收入増加を必要とし、關稅増率案は未だ法律とならざりしも、千八百七十八年乃至千八百八十三年の間幾多の困難を伴へる契約改廢の爲めに利用せられたり。食

料品、家畜、工業生産品に對し根本的に關稅を引き上げんとする運動は千八百八十二年より千八百八十七年まで繼續し、而して主として關稅引き上げ及びこれと關聯せる讓歩に依り我に有利なる契約を締結せんことを目的とせり。然れども千八百八十七年十二月十六日の關稅率は僅かに千八百九十二年まで契約の延期を可能ならしめたるに過ぎず。千八百九十一年乃至千八百九十三年の重要な新契約の爲めに千八百九十一年四月十日再び根本的に關稅率の引き上げあり、而かもシウイツの大工業が毫も保護を要せざること、農業關稅は生産費を増加せしむること、今日合理的保護關稅政策を實行し得るもの廣大國土にあらざれば不可能なることは識者の判然理解したる所なりき。それにも拘らず農民及び手工は保護關稅を要求し、而して聰明なるシウイツ政策の當路者は外國との協定に際して巧みに攻守關稅 *Tritz und Negationstari* を利用せり。獨逸は千八百九十二年のこの關稅の結果として曩時に比し平均してシウイツに高率の關稅を支拂はざる可らざりき。佛蘭西とはこれが爲めに先きに叙述したる千八百九十二年乃至千八百九十五年の關稅戰爭を惹き起せり。獨逸シウイツの輸出入はこ

の關稅引き上げにも拘らず漸次に増加し、千八百八十五年に三億八千六百萬マルク、千八百九十年に三億五千三百萬マルク、千八百九十五年に三億六千三百萬マルク、千九百年に四億六千二百萬マルクと算せらる。實に經濟的發展それ自體に宿れる力は千八百八十七年乃至千八百九十二年のシウイッ關稅の如き若干の關稅引き上げに打ち勝て餘あるものと謂ふべし。

シウエーデンに於ては幾多の輸出入禁止は千八百三十四年に廢せられ、同時に關稅政策上ノルウエーゲンと合體せり。千八百十七年乃至千八百五十八年の間に自由商業に轉じたり。然るに千八百七十九年乃至千八百八十年の間に財政關稅を引き上げ、千八百八十八年には農工業の保護關稅を施行し。殊に自由商業政策に對する農民の抗爭劇烈なりしが爲めにこの變動を生じ。尙ほ自由商業を代表せるものは多少商人及び労働者の間にこれを認むることを得べきのみ。ベルギエンはその國土の廣袤及び位置に顧み自由商業に依らざる可らず。その工業も亦夙に發展して千八百五十一年乃至千八百六十一年の間に自由商業政策に轉ぜしめ、千八百七十年乃至千八百八十一年の間に完全なる自由商業國となれり。

然れども千八百八十一年五月四日の關稅率は既に千八百六十一年のそれよりも引き上げられ、千八百八十七年ウルトラモンターネン内閣と共に農業工業上の保護關稅を施行するに至れり、されどもこの引き上げは概して僅かに一〇乃至一五プロツェント、個々に就て觀るも二〇プロツェントを越えず。

一般觀察上更に重要なるは特に自由政策を採り來れる兩國英蘭及び獨逸の商業政策に於ける變動これなり。吾人は差當りこれより獨逸を觀察せんとなす。

(ロ)新獨逸帝國が自由商業政策を採るに至れるは政治上並に經濟上の原因に淵由したるとこれ吾人の既に觀察したる所なり。「ビスマルク」は千八百六十七年乃至千八百七十六年の間自由黨と提携して超山岳黨及び保守黨に當れり。「ビスマルク」の財政上の顧問は未だその識見を實行するに足るべき權力を得ず、帝國財政及びプロイセン財政の當局は千八百六十七年乃至千八百七十七年の間餘りに前途を樂觀し、何等著大の改革と收入増加策とこれ起らず。佛蘭西より得たる幾十億の償金はその處置を誤り、千八百七十一年乃至千八百七十三年の間に非常の投機を惹き起し千八百七十三年の恐慌を喚び起せり。それより財界引き續

きて停滯し獨逸は外國商品主として英蘭商品を以て充溢したり。恐慌勃發に次いで直に鐵道運賃を二〇プロセント引き上げたるは恰かも千八百七十三年乃至千八百七十七年の鐵關稅引き下げと等しく大失敗なりき。自由商業主義の帝國議會多數黨はこの經濟狀態を正當に判斷すべき能力を缺けり。

こゝに於て反對黨組織せられ。千八百七十六年には獨逸工業家の中央組合成り、保護關稅主義の紡績業者及び大熔鑛業者は之が牛耳をとれり。英蘭へ向け獨逸食料品輸出の減退及び外國の穀物競争は延いて騎士領所有者の大部分を保護關稅主義に轉ぜしめたり。自由主義は千八百七十三年乃至千八百八十年の間に大體に於て衰勢に傾けり。國家の經濟問題に對する處理方針は獨逸政策の效果及び獨逸國家學の變調に依りて根本的に變動し來れり。國民感情は益昂進し、國民は今や商業政策上關稅同盟時代の如くに悉く外國の意を迎ふることを欲せず。

塊地利、佛蘭西、露西亞の犯せる商業政策上の侵害を不快となし、ビスマルクは差當り報復關稅を實施せんことを竊かに希望せり。帝國議會は不當にも再度まで

相殺協定に關する法律案と鐵關稅廢止の延期とを否決したり(鐵關稅廢止延期には大臣「カンブハウゼン」及び「アヘン」も亦反對したると言を俟たず)。千八百七十六年五月在朝の自由主義大立物「デルブリュック」が帝國内務大臣を辭するに及んで、「ビスマルク」は餘議なく愈、自ら商業政策及び財政政策に執筆せざる可らざりき。「ビスマルク」は千八百七十七年に帝國租稅案を立案せしめ、「ベニングゲン」とこの案に就き且つは氏の入閣に就きて商議せり、この入閣若し事實とならんには、恐らく舊經濟政策との交譲を得たりしならん。「ベニングゲン」及び帝國議會は千八百七十七年暮より千八百七十八年の初にかけてこの提議を否決し、等しく自由商業主義者たりし「プロイセン」大藏大臣「カンブハウゼン」も亦辭職したり。こゝに於て「ビスマルク」は解散を斷行して新たに帝國議會を召集し、この新議會に於ては保護關稅論者遙かに多數を占め、依て彼はその帝國財政改革及び關稅改革てふ二重目的を實現せんと邁進せり。この方針變更の資料を蒐集せんが爲めに織物工業及び鐵工業に關する調査を命じたり。既に千八百七十八年「ビスマルク」は宣言して曰、關稅引き上げは以て新對外協商を有效ならしむべし、僅少の關

二七〇

税引き上げは相場を騰貴せしむるの憂なし、然れどもよしこれあらんとも要は消費者の利害のみを以て決す可らず、生産的の利害を以て更に重要となすと、かくて「ビスマルク」は漸次に報復關稅論者より保護關稅論者となれり。獨逸工業家中央組合の提案に従ひ明かに節減を加へて特別委員より提出せられたる新關稅法案并に關稅法は二百十八票に對する三百三十六票を以て採決せられたり。千八百七十九年七月十五日の關稅法の内容を觀るに、その一般的に關稅を課せんとするの傾向あるにも拘らず、原料たる木綿、亞麻、大麻、羊毛、石炭、獸皮に對して毫も關稅を課せず、穀物に對しては極めて低率の關稅を課し（一〇〇キログラムの小麥及びライ麥に對して一マルク）、家畜關稅は極めて適度に、原料鐵に對する關稅は一マルクにして千八百七十年までと相異なし。鐵半製產品は二乃至二五〇、鐵製產品は七五〇乃至一五マルク。燃糸及び織物關稅は従前より分化し最も精密に差別せられたれども大體に於て一五乃至三〇プロツェント以上には上らず。財政關稅は從價三〇乃至七五プロツェントなり。而して競争關稅規定として獨逸の不利なる場合には倍額までの引き上げを認めたり。此關

稅率は獨逸に於ても取引相互の間に種々雜多の引き上げを結果せり。保守黨及び中央黨はこれに賛同し、「ミニグゼン」も亦大體に於て同意し、曰、この關稅率は適度の保護關稅率なり、これを隣國一般のそれに比するに遙かに低率たりと。千八百十五年及び千八百八十七年の引き上げは主として木材及び穀物に關し（穀物は每一〇〇キログラムに對して三マルク及び五マルク）、官廳はこれが動機を發表せざりしもその實は塊地利^{II}ウンガルン及び露西亞の引き上げに對する報復手段たりしなり。

自由貿易論者及び殊に外國は獨逸商業政策の變更に關して痛撃を加へたるが、この變更は大體に於て正當なるものなりき。この變更の爲めに獨逸の生産に向て當時危険なりし國內市場は安全に保證せられ、獨逸關稅收入は千八百七十七年乃至千八百九十年の間に一億〇三百萬マルクより三億五千七百萬マルクに増大せり。此保護政策に反對せる「シフレ」も雖も該變更が幾分の教育的補償的恐慌緩和的作用を及ぼせるとを承認したり。穀物及び食料品の相場は新關稅の爲めに千八百八十七年までは殆んど騰貴せず、その以後始めて幾分の騰貴を示し

たれどもそれは全く關稅額に達せざるなり。一噸の小麥相場は千八百六十年乃至千八百八十年の間フロイセンに於て二一三五マルク、千八百八十一年乃至千八百九十年の間一七四マルク（コンラードの調査に依る）。一噸のライ麥相場は千八百七十年乃至千八百七十九年の間一六九マルク、千八百八十年乃至千八百八十九年の間一五四マルク（ダーデの調査に依る）。是を以てこれを觀るに生計費増加と言ふが如き現象は毫も認む可らず、たゞ相場下落を幾分調節し輕減したるまじなり―而してこれ農業の爲めに必要なりしなり。千八百七十九年乃至千八百九十二年の間に制定せられたる關稅率は國民經濟のあらゆる部門に著大の保護を加へんと欲したるが。千八百七十七年乃至千八百九十二年の間に顯著なる隆昌を效せるは、夙に獨逸に發展し特別取扱を受け來れる主要大工業に過ぎざりき。この主要大工業は保護關稅の下に合同及びカルラルとなり、依て其地位を高め、組合員に輸出獎勵金を支拂ふに至れり。製造品輸出は千八百八十年乃至千八百九十年の間關稅率引き上げの爲めに敢て困難に陥らず而かも著大の増加も亦これあらず、これ諸國に關稅障壁益嚴重となり而して獨逸が千八百七十九

年の豫想と反し新關稅契約に新關稅を利用せざりしを以てなり。一般の傾向は最惠條約國として對償なくして他國主として佛蘭西の關稅契約に参加せんとし加之最惠條件契約のみ若しくは例へば財政關稅の場合に於けるが如く若干の關稅率讓歩を伴へる最惠條件契約のみを締結せんと欲したり。ビスマルクは關稅政策を愈以て獨逸單獨に處理し並に主として露西亞及び埃地利に對し（報復關稅を増率し）爾他の敵對規定（通過強制、帝國銀行に於ける露西亞證券の拒絶）に依りて益敵對政策を甚しからしめんことに向へり。然り而してビスマルクの政策最も巧妙を極め、對露商業政策上にも露の我に對してなせると等しく我も亦露に對して益報復的手段に訴へたるにも拘らず、千八百八十七年以來露西亞より脅迫せる戰爭を避け得て對露一般政治關係は依然として險惡狀態に陥らざりき―これ言ふまでもなく一見不可能と認むべき難局に處して能く效を奏せるものなり。加之彼は大膽にも宣言して曰、國家相互の一般關係と商業政策上の關係とは常に全然分離してこれを處理せざる可らずと、これ其後ビスマルクの後を繼げる凡庸政治家も亦屢反覆主張したる理論なり。かくの如きは最も非凡なる政

治家にして一時的除外例の場合に能く實行し得べき所たり。一般には一般政策と商業政策とは相提携せり、最も多くの場合に於ては「ビスマルク」と雖も商業政策を一般政策の手段とし、後者を主として前者を従となせり。

「ビスマルク」宰相の晩年十年乃至十一年間の出来事にして商業政策上重大の意義を有せるもの尙ほ二三あり、其主要なるものは即ち獨逸殖民地の獲得、國家補助金を與へて大獨逸汽船會社の發達を促進したること、並に鐵道を國有となせることは是れなり。就中前二規定は相關聯し、何れも曩きに彼が抱懐したる所を實際に適用したるものなり。彼が國際的自由契約に依りて一般に主として英蘭殖民地に於て獨逸人は事實上平等に取扱はるべしと信じたる間、彼は殖民地の獲得を欲せざりき。然るに彼が反覆目撃する所に依り自由商業の所謂平等は單に形式的權利にして實質上の同列待遇にあらざることを認むるに及んで、ここに前見解を翻し殖民地獲得に向へり。曰、汽船會社の保護はその目的主として獨逸郵便を、而して又直接獨逸輸出と全世界に亘りて獨逸商人の保護と名譽とを安固ならしめんとするに在りと。この兩規定は抑、大商業路の安全が國家權

力の後楯を俟たずんば期す可らずと認めたるに緣由せり。鐵道國有は運賃政策を國家社會の手に歸せしめ、國家はこれに依りて一切生産部門を自在に促進し禁止し並に嚴密なる意味にての商業政策を施行す。

「ビスマルク」が商業政策上自由主義より保護主義に轉じたるは千八百七十九年乃至千八百九十年の間大體に於て必要にして且つ有效なりき。然れども千八百八十五年以來彼は餘りに舊重商主義の競争思想に偏し、而して一切商業契約の革新を重要とせる時に當りてその職を去りたるが故に、こゝに獨逸は商業政策上極めて憂慮すべき困難の境に陥れり。殆んど凡ての隣國は獨逸の商業政策を憤れることこゝに歳あり、殊に露西亞、奧地利、佛蘭西を以て著しとなす。佛蘭西は既に千八百九十二年一月一日を期してその一切の契約を改正すべきを豫告し、而して是れ根本的に獨逸がその永久的最惠條件契約を基礎とし佛蘭西の爲めに何等讓歩を提供することなくして佛蘭西對爾他國家の一切契約に均霑せしことを慊たらずとなしたるに職由せり。爾他諸國も亦契約を改正してその關稅率を引き上げたり。かくて千八百九十二年一月一日獨逸は諸國殆んど一般に

於て高率一般關稅を課せられ、さらでだに停滯勝ちなるその輸出の大部分を永久に失はんとするの危機に瀕せり。諸外國一般の思潮は獨逸の專橫商業政策を以て支拂をなさずして外國と共同食卓に列せんと欲するものとなし、斷然これを否認せざる可らずとなせり。

皇帝「ウイヘルム二世及び「カプッヂィ」の下に獨逸は忽ち關稅專斷を撤し、嘗て千八百六十年及び千八百八十一年の佛蘭西に倣ひて歐羅巴商業契約系統の首盟となり、再び十二年間を期して關稅率を引き下げ最惠條件契約を締結せんと決し、先づ奧地利、ウングアルン、伊太利、シウイツ及びベルギエンと、次でルーマニエン、セルビエン、西班牙と、最後に千八百九十一年乃至千八百九十四年の間に露西亞及び北米合衆國との間にこれが成立あり。かくせずんば歐洲一般の關稅戰爭は免かれ難く、これより將來に亘りて一般的に關稅引き上げを競ひ以て一切の國際商業を危險ならしめんこと到底避け難かりしなり。これが背景には更に千八百九十年乃至千八百九十一年の間既に中部歐羅巴關稅同盟の思想熱せるものあり、此思想は始め中歐諸國の君主、政治家及び政策家より熱心に商

議せられたりしが、其後千八百七十七年乃至千八百九十年の間既に諸國は互に關稅を引き上げ盛に敵對政策を實行したれば差當り實行不可能となれり。個々國家は差當り尙ほ餘りに利己主義的保護關稅主義的にして、十二年間に亘りて最も重要な關稅をこのまゝ改變せず而して尙ほ相互的に二三の適度引き下げを承認する以上に讓歩せんとはせざりき。然れどもこれ既に看却す可らざる成效なり、爲めに商業政策上敵視思想の高潮は退轉し、既に開始せられ若しくは威嚇せられたる關稅戰爭も排除せられ(獨逸に對する主として露西亞の千八百九十三年乃至千八百九十四年の險惡なる關稅戰爭の如き)、而して國際的分業國際的資本融通は再び安全に行はるゝことを得たり、妥當なる相互的鐵道政策、河川政策、航海政策、家畜政策等に關する幾多の契約は即ちこの商業契約と關聯せり。

この制限付商業契約も決して容易のことにあらざりき。極端なる保護關稅主義者及び關稅專斷主義者(一國家が自由にその關稅を規定すべしと主張するもの)は何れの國土にありてもこの商業契約に向て痛撃を加へ、自由商業主義者はこ

れを新時代の端として歓迎したるがこの派は何れの處にも少數なり。該契約の締結せらるゝや否や、獨逸人は塊地利人より利益を奪はれたりと稱し塊地利人は獨逸人より利益を壟斷せられたりと號したり。農業競争國に對する獨逸の主要讓歩は穀物關稅を五マルクより三五マルクに引き下げたることなりしが。これ塊地利に於ては過重視せられ、獨逸帝國議會にこれが通過を觀たるはたゞ單に千八百九十一年獨逸に於て物價騰貴し爲めに農業關稅一般の引き下げを迫りしが故のみ。この引き下げはその後に至りても、若し收穫上世界商業上の偶然景況に依りライ麥一キログラムの相場が千八百九十一年より千八百九十四年に至るまでの間に二〇四より一一八マルクに下落せるが如き微かせば、恐らく農民より劇烈なる攻撃を蒙ることなかりしなるべし。この偶然現象の爲めに獨逸に農民團の結合あり、以て千八百九十一年乃至千八百九十四年の諸契約を締結したる政治家に對し農業党の猛烈なる反抗を惹き起せり。嘗て農民が收穫不況若しくはライ麥の缺乏に當りてその國王を殺害したりし如く、歐羅巴に於て反對党が同一理由より大臣を跌倒せしむるの實例は今日尙ほ吾人の目撃する所なり。

り。Thirardが佛蘭西にて職を辭したると同様に今や獨逸に於てもカブリツァイ、フン・マーシャル、フオン・ボエッテ、ヘルは議會保守党及び保護關稅党の攻撃の爲めに掛冠せざる可らざりき。これが後繼者は始め千八百九十一年乃至千八百九十四年の商業契約に反對の意見を吐露したるも、其後數年ならずして自からもこれと同様の商業契約政策を實行するに至り。而して如何に農業党の關稅希望を容れんとするも千九百〇一年乃至千九百〇五年間は嘗て千八百九十一年乃至千八百九十四年に採りたると同様の政策に出でざる可らざることを直に看取したり。よし千八百九十一年乃至千八百九十四年の商業契約はあらゆる關係上に間然する所なしと言ふ可らず、恐らく豫じめ關稅率改正を行ふを更に勝れりとし協定に對し更に準備をなし得べかりしならんとも、尙ほ該商業契約は大體に於て危急より救治したる處置なりき。而して千八百九十七年以來の新契約準備時期を顧みるに、この準備は全く保護關稅論者の利害煽動に壓迫せられ、經濟委員會に於ても殆んどこの派の左右する所となりたるが、其結果は遺憾ながら久しく獨逸商業政策上に確實明晰なる方針を失はしめたり。穀物關稅を五乃至六マ

ルクに引き上げんとしたるは正當なれども、多くの原料品に高率の關稅を課し、必要もなきに幾多の引き上げを計畫し、先づ西班牙、佛蘭西に倣て極大限關稅及び極小限關稅を制定したるは誤れり。かくの如くして極端なる保護關稅を實行せんとするの希望著しく昂進し、宛然關稅率計畫は政府に出でずして大經濟組合の左右する所となれるが如き觀あり。對外協商に當りて政府が二重關稅率を施行せんとしたることは恐らく政府彈孩の因となり權力政府を去りて議會に移るの縁たりしなるべし。關稅案の最も拙劣なる若干の缺點は其後既に帝國宰相及び聯邦に依りて訂正せられたり。關稅率に關する帝國議會の討議は殆んど一年間所謂饒舌委員會(バーシエ)もこの話を反覆使用せり)の間に捏ね廻はされ而して惡變せられ、眞に一つの悲劇なりき。この關稅案は遂に千九百〇二年十二月非常の妨害を受けつゝ惡變せられ増率せられたる委員會の規定形式(政府の規定形式にはあらず)にて僅かに通過せり。帝國議會に於けるこの討議は大議會が良關稅率を制定すること能はざる事實を新たに證明したるものなりき。

遮莫殊に聰明且つ巧妙なる外交折衝に依りてこの關稅率を以てして尙ほ良商

業契約を締結し、從て又大體に於て過重ならざる契約關稅率を制定し得べきは空想にあらず。帝國宰相宣言して曰、余は保護關稅主義農業黨の熱狂に激せられて契約改廢の輕舉に出で關稅戰爭に投ずることをなさざるべしと。現今商業政策上の競争に於ける獨逸の地位は容易ならず。一面には獨逸の農業をして英蘭のそれの如く衰頹せしむべからず。他面には健全なる輸出工業の爲めに外國大市場を保全せざる可らず―現に吾人が外國より輸入せる二三十億マルクの食料品及び原料品に對する補償としても亦この必要あり。吾人は巨大國の高率保護關稅政策と侵略欲とを禁止すること能はず、たゞこれを緩和し我が獨逸と此等巨大國との大交通を保全せんことに努力せざる可らず。我が獨逸は千九百〇二年に大英國へ向け九億六千五百萬マルク、露西亞へ向け三億四千二百萬マルク、北米合衆國へ向け三億八千六百萬マルク、總計十六億マルクの商品を外國へ向け輸出せり。吾人は此輸出を保全し、此等の大國と有利なる契約を締結せざる可らず。然れども吾人はこの目的を愈有效に到達せんが爲めには、同時に獨逸殖民地に於ける良行政及び進歩に依り、獨逸海上力の増加に依り、而して又爾

他中部歐羅巴諸邦と合して商業政策系統の中心たらんことを力め、乃ち以て一方には暴戾なる重商主義に逆轉せんことを抗止し他方には弱小國家を保護しその所領を保護して以て益、我が獨逸を強大ならしめざる可らず。中部歐羅巴に位せる十ヶ國の隣邦に向け獨逸の輸出は(十ヶ國の中にハンブルグ自由港をも含む)千九百〇二年に二十二億七千五百萬マルク、而して益増加せん傾向あり。この増加は相互の利益にして政治上にも經濟上にも何等の危険あらず。加之此等諸邦は皆經濟上獨逸と親密なる關係を結び愈以てあらゆる危険を防止せずんばあらず。千八百六十六年伊太利の統一が一に獨逸の同盟に依りて可能なりしが如く、對奧匈國露西亞戰爭は獨逸ありて始めて禁止せられたり。又若し獨逸が「ナポレオン」三世の希望に同意したりせばベルギエンは今日佛蘭西領なりしならん。和蘭の殖民地は、その獨逸との同盟によりて保護せらるゝと徴せば、今日恐らく或る強大國の領有する所なりしなるべし。スカンチナヴィア兩國と雖も獨逸を以て最上の恩惠者となせしならん。若し獨逸帝國政府にして千八百九十四年以來その千八百九十年乃至千八百九十四年の間に於けるよりも更に一段中歐關稅

同盟の思想を實現せんことに努力し、而して高率保護關稅運動を寛容しこれに阿諛しこれを促進することをなさざりせば、今日我が獨逸は商業政策上に愈優位を占め、經濟上の巨大國に對して現在よりも有力に中歐同盟に對して更に有利なる立場に在りしならん。かくの如きは今日一方には實際上益保護關稅運動を激してこの目的を不可能ならしめ輕々しくも獨逸を關稅戰爭の騷擾に投ぜんと欲する者と雖も且つ要求し且つ希望する所たり。彼等は唯だ須らく過去千八百十六年乃至千八百五十四年の間あらゆる聰明なる獨逸政治家ありたるにも拘らず獨逸關稅統一が一に各邦相互の低率保護關稅を俟て成立したりし事實に回想せざ可らざるなり。

二百六十九 千八百七十四年より現今に至るまでの大英國の帝國主義。大英國が自由商業主義をとりたる所以のもの、その理想主義自由主義が千八百四十年乃至千八百七十年の間、英蘭の商工業、殖民地及び國家政權の優勝力を以てすれば自由商業に訴ふるこそ最も有利且つ安全なるべけれと確實に打算し得たるに在り。この前提雲散するに應じ自由商業に對する信仰も亦其の當初の絶對性

を失へり。然り先づ英蘭殖民地に、次でその本國に。

既に千八百四十二年「ロバートピール」の計畫したる關稅改革は（恐らく「トレンス」の思想に基き）、本來一切の關稅率輕減は外國に對し交惠條件ある場合に限ると、殖民地及び母國相互は再他の一切の保護關稅國に對するよりも特別關係を制定し、以て殖民地と母國との交通自由をして統一的、大關稅系統を組織せしめんことを精神となしたり。然れども自由主義の高潮はこの國民的利己主義的保留を押し流せり。カナダは千八百四十年、濠洲は千八百四十二年以降、南阿は千八百七十年に議會政府を建設し、母國に對しても自由に關稅法を規定し得るの權利を獲得し。たゞ差別關稅のみが禁止せられ、商業契約締結權が母國に保留せられたるのみ。カナダは千八百六十七年、濠洲及び南阿は近時に至りて聯邦組織を立て關稅同盟を組織し、これに依りて愈、獨立の氣運は高められたり。カナダは未だ曾て全然自由主義ならざりしが、千八百五十八年にはその財政關稅を一五プロセントより二〇乃至二五プロセントに引き上げ、而して千八百七十九年には三〇乃至三五プロセントの保護關稅を施行し、千八百八十四年乃至

千八百八十七年の間に更に高率の關稅に轉じたり。濠洲聯邦は或は何等の變動なく、絶對的に穀物輸出に依頼し、近時まで自由主義なりき。或は—主として「ウクトリア」—千八百七十九年乃至千九百年の間に高率の保護關稅に轉じ、而かも千八百九十五年「ウクトリア」の保護關稅は輕減せられ、千八百九十六年カナダの保護關稅黨は破滅したること言ふを須たず。新濠洲共和國は協定關稅制度を採用したるが、これが決定に牛耳を執れるものは「ウクトリア」なるが如し。南阿に於ては財政關稅は主として千八百七十二年乃至千八百八十四年の間に非常に引き上げられ、さながら保護關稅の如き影響を及ぼせり。英蘭は凡そ此等の變動に抗し、千八百七十三年乃至千八百八十二年の間にその王領殖民地たる印度に於て木綿撚絲及び織物に對する關稅を撤廢し以てこれを補はんことに努力せり。然れども大體に於て保護關稅運動を禁止すること能はず。殖民地は母國に對しても亦—その權利を認められざるに拘らず—直接若しくは暗々裡に個々の差別的取扱を保留したり。自由主義に對する信仰の存する限りは、殖民地は何れの日か必らず獨立せざる可らず。然り何れの殖民地もその工業を發展し依て

以て獨立せんと欲することは自然の理數なり。英蘭の自由主義者は殖民地を忽ち自由商業主義に轉せんことを反覆希望して止まざりき。然れども事實は刻刻この希望を空うせしめたり。深慮ありし「ヂスレリ」は既に千八百六十五年下院に於て叫んで曰、英蘭は殖民地を斷念せんとするか然らずんば如何なる犠牲を拂てもこれを領有するの覺悟なかる可らず、これが爲めに要する犠牲を躊躇するが如きことあらんか、英蘭は嘗に殖民地を失ふのみならず英蘭母國に侵入せらるゝの危険ありと。

併合の危機北米合衆國よりカナダ及び英領西印度に迫るに及び、千八百六十年乃至千八百六十五年の間全英蘭は南部黨に加担したり。然り而して合衆國遂に瓦解せずして益進歩し、千八百六十年乃至千九百年の間に北米合衆國の外歐洲大陸の工業も亦愈勃興し來り、英蘭の輸出は先づ一時的に千八百六十八年及び千八百七十三年乃至千八百七十八年の間に停滯し、次で千八百八十年乃至千九百〇三年の間輸出増加の割合は永久的に減退し來るに及んで、こゝに徐々ながら而かも不可抗的に英蘭從來の自由主義は轉動止む可らざりき、コブデン

俱樂部は政府の方針に對して先づ千八百七十四年乃至千八百七十九年及び千八百八十五年乃至千八百九十二年の「ヂスレリ」内閣の間にその權威を失墜し、次で千八百九十五年以來の「サリスベリ」及び「チェンバレン」内閣の下に愈以てその聲價を落せり。

既に千八百六十八年取引界停滯の結果は國際關稅上に交惠主義を要求せる「Fair trade views of trade」組合を生み、千八百七十四年乃至千八百八十一年の間に「Fair trade」の聲漸く高まり、この暗語を標榜せる組合は主張して曰、商業契約は一ヶ年間を期限とすべし、殖民地は最惠契約關係より除外すべし、保護關稅國に對しては輸入税を課し主として英蘭に輸入せらるゝその食料品に課税すべし、殖民地より輸出さるゝ穀物其他は自由輸入とすべしと。英蘭農業の衰頹は八十年代にその端を發し、その消費小麥の中千八百九十年には既に六七プロセントを輸入に俟てり、この状態が英蘭の爲めに危険なることは眞面目なる政治家の看却する能はざる所なりき。「バッキン」曰、現英蘭の如く人爲的條件の下に生活したる國土は史上未だ嘗てこれあらずと。千八百八十七年乃至千八百九十二年の一般

的保護關稅發作に對し英蘭從來の商業政策は何等の効果を擧ぐることはざりき。たゞ以て姑息の手段に訴へ、或は家畜封鎖によりて外國家畜類を抗拒せんとし、千八百七十八年及び千八百八十四年乃至千八百九十二年の間に家畜法を改正し、千八百八十七年の商標法(各商品に獨逸製てふ極印を刻せしめたる法律なり)に依りて我に不利なる獨逸の工業競争を幾分緩和せんとし(その効果は全然擧らざりき)而して獨逸の優勢なることを事實以上に吹聴し英蘭輸出の減退を事實以下に叙述せる警告狀を發せり。

保守黨内閣は二つの點に於て出來得る限り靜謐に一大轉動を準備したり。即ち退歩したる英蘭海軍をその舊時の優位を高め、而して「ヂスレリ」は千八百七十四年乃至千八百七十九年の間に南阿、キペルン及びその他に新殖民地侵略政策を開始したり。次で千八百八十二年には埃及を占領し、千八百八十六年には「ピルマ」を領有し、千八百九十年乃至千八百九十四年の間に東部亞弗利加に「サンジバル、ウイト、ウガンダ、マタベレランド」等の重要なる大侵略を續行せり。大英國の版圖は千八百六十六年乃至千八百九十九年の間に千二百六十萬平方キ

ロより二千七百八十萬平方キロに増大し、約そ千五百二十萬平方キロ即ち獨逸帝國の三十倍大の増加を示せり。その人口は千八百九十六年に既に三億萬、就中歐羅巴人種は五千萬。然り而してこれ「ヂスレリ」、「サリスベリ」及び其他の政治家が常に世界に向て英蘭は何等攻撃的侵略的政策に出でずと公言したる間の出來事なり。彼等英蘭政治家は金力に依り暴動及び海賊の密謀に依り出來得る限り靜謐に出來得る限り大戰爭に訴へずしてその目的を達せんことに努力し、最後には大戰爭をも辭せざりき。例へば南阿に於ける「ボリア」人の壓服の如き即ち是れなり(譯者曰、獨逸の學者に依りて道破せられたる英蘭政策の本體、妙味深しと謂つべきか。遮莫これ單に英蘭政策のみにあらざるべし)。

千八百五十年既に *Edinburg Review* は叫んで曰、*Confugiendum est ad Imperium* と。實に英帝國は「ヂスレリ」に依りて創設せられ「チンバレン」を俟て完成せり。所謂帝國主義はその始め個々政治家及び學者例へば「シロ」並に「フロード」等の如き輩の暗語たり、其後に至りて保守主義者の旗幟となり、今や既に英國民多數の目的となれるが、その内容は一に版圖を擴張し海上權力を増大し、乃ち露西

亞並に北米合衆國の然りしが如くならしめ、依て以て凡ての小國を脅迫し威壓せんとし、二に散在し遠隔せる領土を—其人種上利害上將た經濟狀態及び欲望の上に於けるあらゆる特色異同あるにも拘らず—軍事上及び商業政策上に統一してこれに英蘭貴族を臨ましめ、乃ち此等領土をして英蘭支配の下にその今日の富と文明とを安固に享受せしめんとするに在り。此目的は露西亞及び北米合衆國に於けるこれと類似せる政策に比し難易同日に談ず可らず。蓋し英帝國の領土各部分は互に遠隔し、その個々は既に著しく獨立し、苟くも不當強制は愛蘭及び南阿に容易に危険を勃發せしむべければなり。

千八百九十二年乃至千八百九十五年「グラッドストーン」の自由主義内閣は出來得る限り帝國主義思想の進歩を禁止し、千八百九十五年以來「チェンバレン」を殖民大臣とせる新保守的統一黨内閣は苟くもこの思想を促進したり。吾人はこの運動とその機關たる同盟及び商業との歴史にこゝに立ち入る可らず。さりながらこの聯合主義的思想が千八百九十五年以來著大の進歩を效せるとは争ふ可らざる點なり。千八百九十五年の Australian Colonies Duty Act 殖民地相互の間に交惠的

關稅の施行を承認したり。英蘭にありては他國の保護關稅主義的戻關稅に痛く反對し而して千九百〇二年三月三日遂に國際會議に依りてこれが撤廢に成功したり。獨逸及びベルギエンに對し英蘭母國以外その殖民地に於ても亦母國に於けると同様の最惠條件を保證したる商業契約は千八百九十八年七月三十日を期して改廢すべきを豫告したり—尤もこれに先だつ數年「サリヌベリ」はこの契約を不都合條項と稱し、如何にして英蘭政治家がかゝる條項を承認したるかを理解すると能はずと言へり。カナダは英蘭生産物に對しては關稅を引き下げ、概して英蘭殖民地の生産物に對しては差別關稅を課し、先づ八分の一「プロセント」、次で四分の一「プロセント」、千九百年に約そ三分の一「プロセント」の引き下げをなせり。ニュージーランドも亦千九百〇三年の末葉にこれに倣へり。濠洲はその新統一關稅に於て毫も母國を特別に取扱はず。こゝに聰明周密なる濠洲政治家がカナダ、ニュージーランドの例に倣て英蘭に於ける反對給付即ち差別關稅系統の施行を俟たずして果して能く濠洲に英蘭を特別取扱ひすべきかは疑問なるべし。帝國戰爭同盟即ち換言すれば帝國保護の爲めに殖民地の參加することは始め

大に論議せられたるが今や帝國關稅同盟を當面の問題となすに至れり。この問題は漸次に關稅聯合の形をとり、乃ち殖民地に於ては英國以外の製造品に對して英國の製造品を、母國に於ては外國産に對して殖民地産の最も重要な食料品及び原料品を特別に取扱ふべしと主張せられたり。果して斯くの如くなれば英國は、小麥、羊毛、家畜、肉に對し、それ等が殖民地より來らざる限りは低率ながら課稅し、その結果生計費の多少の増加は茶、カプフェー、砂糖及びこれに類する商品に對する財政關稅引き下げに依りて補償せられざる可らず。「チェンバレン」及び其徒が、英帝國は忽ち瓦解する可らずんばこの新統一手段に依りて益強固にせらるゝか二者その一を撰擇せざる可らずと唱へたるは理なきにあらず。現商業政策狀態の危險は近年愈々認識せられ、國民は製造品輸出の停滯が英蘭海運界の衰頹に依りて今後危險を加ふべく、製造品輸出の減退を資本及び石炭の輸出を以て補充せんことは掛念なき能はざるを感受せり。言ふまでもなく資本輸出は高率有利なる利子を生すべきも、英蘭國內の勞働機會を減削するとは争ふ可らず。「ニコルソン」は既に千八百八十四年に、和蘭がその權力減退し

たる時これと同様の債權國となれることを回想せり。嘗て英國は石炭を以てその輸入の一小部分を支拂ひなるに今や則ちその大部分に充てざる可らず。其石炭輸出は千八百五十年に三百八十萬噸、千九百年に五千八百四十萬噸（四千八百三十萬磅即ち九億八千七百萬マルクに該當す）。これ無謀の舉、果して將來に能く危險なきを得るか。近年亞米利加よりの鐵及び鋼の輸入増加は、巨大トラスト將た輸出獎勵金の結果として英蘭市場相場の三二乃至八四プロセント引き下げられたるに伴ひ、愈々以て保護關稅の希望を切ならしめたり。亞米利加の危險は今日に至りては僅かに數年前までの狀態と全然相異せり。到底は帝國關稅同盟に訴へ、乃ち英國の食料品輸入の途を安全にし、亞米利加露西亞の封鎖の危險を排除し、英國工業の爲めに販路を開拓し、殖民地に於ける他國よりの輸入を幾分減せざる可らず。さてこゝに自然に起り來るは殖民地及び母國に於て差別關稅を如何なる程度に制定すべきかの問題なり。過激黨は既に二五乃至七五プロセントの關稅、然り亞米利加商品の禁制を主張せり。かくの如きは對亞米利加、獨逸、佛蘭西の英蘭大商業を撲滅し、關稅戰爭及び世界商業の攪亂を惹

き起す所以なるべし。自由商港を設けて中間商業の損害を防止し得べきは多く期待す可らず。結局極端なる保護關稅者を抑制せんとする「チェンバレン」の見解とその大勢力とは有望なるべし。たゞ單に英蘭とその殖民地との間に適度の差別關稅系統を立て、爾他の英蘭商業をこれと無關係ならしむるは幾分將來に効果を收むべきこと豫想せられざるにあらず。かくなれば獨逸を障害することも餘り甚しきに至らざるべし。蓋し英蘭人がカナダ、濠洲産の小麥粉のみを消費するか若しくはそれ以上に亞米利加、アルゲンチンの小麥粉をも消費するかは獨逸人に何等關する所なし。英蘭殖民地が英蘭に於て多少の特權を有すると否とに拘らず獨逸は能く英蘭に於て殖民地と工業競争を持続することを得べく、これと同様に英蘭が殖民地に多少の特權を有するともそれが爲めに獨逸は殖民地へ向け製造品販路を全然杜絶せらるゝことなかるべし。英蘭及び其の殖民地は永久に獨逸と妥當なる商業契約を締結せざる可らざらん。

然れどもかくの如き帝國關稅同盟が果して英蘭を救済する所以なるべきかは容易に斷言す可らず。この同盟は曩時の殖民地系統と多くの類似點を有せり。

若しこの關稅同盟にして愈益巨細に亘れば、これが爲めに英蘭は近く外國と廉價に良好に交換し得る場合にもこれを捨て、半世界に散在せるその殖民地と有害無益の交換を強制せらるべし。獨立の氣運は濠洲に於てカナダに於て著大なるものあり、これ等殖民地は進んで英蘭に對しその工業を保護せんことを欲すべし。「アシレー」嘗て殖民地の爲めに述べて曰、少なくとも殖民地はこれ以上に新工業を創設す可らず、寧ろ農業的發展は殖民地をして工業主義の危険と過劇なる社會競争とを免かれしむる所以なりと、これ寔とに然り。然れども血氣縱横なる民主的殖民地が果してこの「アシレー」の助言に傾聽しこれに従ふべきかは疑問なり。

「チェンバレン」は煽動者として大規模に活動せんが爲めにその牛耳を執りたる内閣より退けり。彼は英蘭の政治的偉人なり、その時代と民衆の處置とに通曉せり。若し彼が特にカナダ及び濠洲と英蘭とを商業政策上密接に結合せんとする目的を達したらんには、以て彼は英蘭權力の新建設者たりしならん。吾人獨逸人も亦差當りはこれにより若干の困難を惹き起すべきも、而かも能くこの舉

を歓迎することを得べし。何となれば大英國が獨逸に障害を加へ、その大多數の國民が獨逸隆昌の原因を理解すること能はざるに準じて、英蘭の衰微は露西亞、北米合衆國及びその世界霸權思想より爾他世界に脅迫し來るべき商業政策上の危険を増大するに外ならざるべければなり。獨逸の隆昌及び凡そ小國の發展はこの三大國(英蘭、露西亞、北米合衆國)が互に控制する場合に安固に期待することを得べく、而して人種上文明上及び宗教上に獨逸と相近邇せる英蘭、最善の國家組織形式と最善の社會政策とを備ふる英蘭がその爭霸戦上の優位を失ふ場合は寧ろ然らざるなり。(譯者曰、半ば英人を愚弄せる筆法、痛快又妙味あり)。

二百七十

最近保護關稅時代の評價、最近の理論的爭議、工業國及び農業國の問題。上來個々國家に就て觀察を下せる後こゝに尙ほ吾人の究明を要する二問題あり。一には最近二十五年間諸國商業政策上の大轉動を統一的に説明し而してこれに先てる二時代即ち重商主義時代及び自由商業時代と如何に關係せるかを闡明すること、二には今日商業政策上に論争せらるゝ理論及び爭議如何に一瞥を投ずること是れなり。

(イ)千五百年乃至千九百年の間極めて重大なる意義を發揮せる新商業政策は總じて二系列の大事實を基礎となせり、その一は經濟的事實にしてその二は政治的事實なり。

人的及び地理學的的分業益進み。自足經濟全く頼れて交通經濟時代となるに従ひ、その結果一切の生産は愈益市場及び交通に依繫せざるを得ず。而してこの販路及び交通は社會制度將た又法律的及び國家的競争調節の力に影響せらる。販路及び交通が益國境外に擴大するに應じ、全生産の著大部分は愈對外政策主として商業政策及び殖民政策に俟たざる可らず。嘗てこの政策の所管範圍は僅かに人間の運動、中間商業、遠地に輸送せらるゝ少數貴重品の生産に出でざりしが、前世紀以來益擴張して全經濟的の生産、その方向、その繁榮若しくは少くともその著大部分は一に商業政策の如何に左右せらるゝこととなれり。

舊大國家は既にそれが若干の分業發展せる場合にも、外人政策を除外例とし未だ深く立ち入りて商業政策を實行すべき行政機關を有せざりき。この状態は先づ都市國家に、次で第十四世紀乃至第十六世紀の小國家に、千六百年乃至千

八百年來は歐洲國民國家に、今日にありては文明人種の巨大國家に全く面目を一新せり。貨幣經濟及び租稅制度、官僚及び國家的海上權力の發展したる結果として、こゝに行政裝置益復雜を加へ、以て國境を警護し、一切商業を統制し、關稅系統を實施し、殖民地を獲得し、殖民地の生産及び商業と母國のそれとを連絡結合するを得たり。抑、良財政は良政策の前提なり、而して良財政を確立せんことは國民經濟の急進發展を俟つにあらざんば不可能なり。商業政策はこの目的を達せんが爲め且つは國民經濟の大部分を指導せんが爲めの主要手段となれり。商業政策は常に商業上の理由に基ける戰爭の手段となれるのみならず、國家の權力増大に對しても亦永久的手段となれり。千五百年より今日に至るまで國家の發達並に國民經濟の發展は共に愈緊張し來れる商業政策を基礎となせり。英蘭の海上霸權は今日尙ほ、クロムウェルの航海政策與て大に力あり、プロイセンのそれは千六百四十年乃至千七百八十六年のプロイセン侯の商業政策に淵源せるものあり。佛蘭西國民經濟の特色は今日と雖も、コルベールの法律と、ナポレオン一世の商業政策との痕跡を留め、獨逸のそれは千八百十八年の關稅法の

餘響を存せり。

所謂重商主義時代は宛ながら好奇心を以て經濟的發展の方法に對する商業政策の影響可能程度を凡そ此の種國家的活動の可能範圍以上に遙かに過大視したり。重商主義の計畫は屢不適當の手段に訴へ屢杜撰にして不正當なる方法に出で極めて不完全なる行政機關を以てせるものなり。この故にこれが反動として所謂國民經濟の自然的調和學説出で、乃ち一切の國家的商業政策を非難し、國民經濟相互の一切關係を全然自然力の自由活動に放任すべしと主張するに至れり。第十九世紀主として千八百四十年乃至千八百七十五年の平和時代に於ける自由商業的一幕は即ちこれが結果なり。自由商業は國際法の商業に關係せる限りこれに改善を加へたること測り知る可らず。國民相互の健全なる自然的分業を促進し、又政策を以て何等根本的改變を加ふ可らざる自然的經濟力に對しその當然の權利を認めたるの長所あり。然れども既に平和時代去りて新競爭時代となり、國家發達及び世界的帝國發達の新時代となり、亞弗利加亞細亞及び西班牙領西印度の分割時代となり、弱小頽廢國家を脅迫する新競爭新交通發展の

時代となり、國際的經濟戰に對して鐵道政策、カルテル、トラスト、航海組織及び輸出獎勵金等の新權力手段利用時代となるに及び、自由商業は再び自覺的自動的國家商業政策の後に瞠若たらざらんと欲するも得べからず。この新時代は國家的利己主義てふ不可抗的感情を以て新權力利用に出で苟くも國民的經濟力を糾合して以て國家發達の爲めに猛烈に供用せざれば止まず。新たに勃興せる巨大國家(露西亞及び北米合衆國)は露骨に且つは傍若無人の態度を以て殆んど全く舊重商主義に逆轉し、その財政事情と充溢用途なきに苦しめる力の感情と又ここに逆轉せざれば止まざるものあり。西班牙及び佛蘭西の如き舊文明國は世界的競争に脅迫せられ惶惶自ら衛らんが爲めに關稅障壁を高めたり。爾他諸國はその中庸を採れり。新農業國は保護關稅に依りて自國工業を發展せんと欲したり。英蘭は半ば保護關稅に逆轉し半ば重商主義に轉じて以て殖民地と特別連絡を保たんと欲せり。蓋し英蘭は、その世界商業霸權の危險を感じあらゆる犠牲を顧みずしてこれが擁護に力めたるなり。

最近三十年來個々國家の商業政策に異同を生じたる所以のもの、一は地理的

自然的基礎、版圖の大小、土壤、氣候及び海洋關係、二はそれぞれの經濟史的發展段階、三は隣邦の商業政策及び對隣邦商業關係、四は新重商主義的觀念潮流浸漸の程度、五は國家組織狀態、政黨首領及び政治家の巧拙、六はそれぞれ國家の權力、權力供用の國民的傾向(適度なるか極端なるか)に職由せり。

現代の商業政策潮流を總覽するに、嘗て重商主義次では自由主義の然りしが如く自然の勢にして又或は程度までは有效なり。抑この潮流は現代諸國間の最近權力大變動と新たなる存立利害とに坐せるもの。文明諸國民は既に重商主義及び自由主義の陥りたる誇張と失策と弊害と制限とを重ねたれば、それが過去を殷鑑として今日舊過失を避け得べきを吾人は希望せざる可らず。或る程度まではこの希望空しからざると疑なき所。千六百年乃至千八百十五年の封鎖、輸出入禁止、殖民地虐待及び商業戰爭は今日最早曩時の如く容易ならず。千八百六十年乃至千九百年の間に成立したる商業契約系統は現代の各國專斷主義を以てするも再び破壊せらるることなし。現世界商業は如何なる世界封鎖系統を以てするも再び撲滅せらるゝものにあらざるなり。保護關稅を施行したる英蘭殖

民地は幾分既にその關稅障壁を引き下げんとせり。獨逸は千八百九十一年乃至千八百九十四年の間にその極端なる保護關稅を或る程度に制限し、而して恐らく新契約に依りてこの方針を實現すべし。北米合衆國にありては輸出關係より對外契約を引き下げんとするの傾向益顯著に、露西亞は千八百九十四年始めて關稅引き下げ及び關稅期限契約を承認したり。

それ然りと雖もこの關稅引き下げが果して如何なる程度まで進まんかは差當り問題ならずばならず。これと矛盾せる階級、黨派、國民の利害、極端なる愛國主義及び侵略精神、大藏大臣の財政渴望は驀然として重商主義に逆轉せんことを迫り。狂氣的保護關稅論者は今日苟くも關稅戰爭を必要とし苟くも關稅引き上げそれ自體を有效と認む。大利害組合は論議の眞偽を捨て、金權に訴へ効果を收めんとする運動に汲々たり。黨派將た議會大多數は一に情調と騷擾とに支配せらる。是れを以てこれに處し能く良果を擧げんこと能く目的を意識し遠きを慮るの大政治家ありて民衆これに追從するにあらずんば到底不可能たり。斯學と雖も多く權威あるにあらず。否斯學を代表せる多數者を觀るに、嘗て全

然別種の前提の下に「アダムスミス」が千七百七十六年に唱へたる所、「フリードリッヒリスト」が千八百二十五年乃至千八百四十八年の間に説きたる所を、今日再び徒らに反覆するに過ぎざるなり。

(ロ)自由商業黨は今日獨逸に於ては「ブレンタノー」、「コンラード」、「ロツツ」、「ディーツェル」、「アルフレッドウエーベル」及び代議士「ゴットハイン」等に依りて代表せられ、保護關稅論者の誇張を抗止せんとする所に根據を有すれども、その社會的效果は言ふに足らず、蓋しその餘りに獨斷的にして餘りに抽象的に、又餘りに現經濟史的競争事情に昧ければなり。疑もなくその或る代表者に至りては或る場合に教育的保護關稅、危急保護關稅及び恐慌保護關稅、時に又報復的保護關稅の正當なる所以を承認せざるにあらず。「ブレンタノー」は千八百八十九年(其後はずもとよら然らざるも)獨逸の農業關稅を辯護し、「コンラード」及び「ロツツ」は千八百九十二年の農業關稅を今も尙ほ引き下げざらんと欲せり。さりながら大體に於てこの派の主要論據は依然として消費者の立脚點に在り。一に保護關稅が物價を騰貴せしむることを攻撃せり。而して生産者の利害も亦これと同様に顧慮すべく、否

階級機關及び黨派機關の爲めに寧ろ痛切なること、保護關稅に原因する一時的騰貴の主張が必ずしも重視するに足らざることはその捨て、顧みざる所なり。國家は相場將た市況の一時的利害を忘る可らざると同様に若しくはそれにも勝りて國民の將來將た國民の總發展に著眼するを必要となす。

自由商業主義者の他の主要論據は所謂國際的分業の利益にして「アダムスミス」の唱導せる所に繫かれり。この論據もとより妥當なるを失はず、たゞ或る場合に國民國家的利害の更に重要なこと、現に尙ほ幼稚なるにも拘らず自然的にも政治的にもあらま欲しき國民的分業を促進するの更に重大なるものあることを看過せる缺點あり。國家の版圖廣大なるに應じ現に國民的分業は屢甚だ不完全なることを免かれざれども、これ抑國家を內的に強固ならしむべき前提たり。苟くも國際的分業の促進せられざる可らざることを證明すべき根據如何と察するに、今日「ドイツ」、フランス、及「イギリス」及び其他學者の認むる所は、現今文明國に於て農業生産は收益遞減の法則に準じ工業生産は遞進の法則に従ふ形式に在り。從て又此等學者は人口稠密なる文明國に於て食料品の大生産増加は費

用劇増し且つ割合上愈高率の地代を支拂はずんば能はず、從て生計費の著大増加を介意せずして始めて可能の事たり、然るに同一國家に製造品の生産増加は大經營技術上の進歩及び工業發展能力の無制限の結果として容易に且つ廉價に期待することを得べし。土地豊富地代低廉なる農業國にありては事情これと反對し、從て農業國にしてその廉價なる穀物を工業國の廉價なる製造品と交換すれば、農業國も工業國も互に利益すべしと主張せんと欲するなり。吾人は農業國及び工業國の問題を後段に譲り、こゝにはたゞこの主張が理論上には正當にして實際上には所謂この二原則換言すれば幾多原因の交錯及び反作用あるべきこの平均的運動傾向が現に個々國家に於て果して事實なるか若し事實とすれば其程度如何ならんかが具體的に巨細に證明せられざる以上多く信頼するに足らざるとを一言するに止めんと欲す。土地收益遞減法が如何なる程度まで實際上に制限せらるるかに就ては吾人既に本譯補の第七冊 **二百三十三** に披瀝したり。尙ほこゝに吾人は近時「アルフレド・ウエーベル」の如き自由商業論者にして且つ第十九世紀の間獨逸に於て所謂土地收益遞減の法則が農業技術上有利なる進歩に依

り全く不問に附せられたりと唱ふるに至れることを附言すべし。余も亦獨逸に於ける土地收穫がたゞ單に經營の合理化に依り今日何等費用を増大することなくして二五乃至三〇プロセントの増加を來たすことを得べく、農民教育の進歩を俟たばこのこと容易に得べからざれども恐らくそれ以上にも増加せしめ得べきことを信ず。然り而して舊文明國の製造品費用を農業生産物費用の割合以上に低廉ならしめんことは得べからず。歐洲諸國の生産費用に對し亞米利加のそれが低廉なるに察せば思半ばに過ぐるものあるべし。この故にたゞ單に抽象的爭議を事とせずして事の巨細を研究する者はこの所謂二法則の抽象形式を確信せざるなり。

(ハ)さればとて近世保護關稅論の多くも亦その根據薄弱なることを須たず。自治、專斷規定將た經濟的絶對獨立を極端に唱導するものの如き即ちこれなり。如何なる文明國家と雖も——小國なれば愈以て——今日他國と交通するを要せざるものはあらず。緊切缺く可らざる經濟的權力手段將た放任頽廢が早晚國家に致命傷を蒙らしむるの恐あるが如き生産部門及び生産物を問題とする限り、外國

の羈絆を脱すべしてふ思想は意義あり。然れども保護關稅を辯護しその理由として農業工業及び爾他一切の經濟的利害を同一に取扱ひこれに對して同一の保護を加へざる可らずと主張するに至りては、目的それ自體を減するものなり。各國家がその勞働若しくは商品を關稅に依りて同一程度に高價に販賣すとせば、畢竟利益する國家はある能はず。實際上適用せられたる所謂連帶責任(英蘭に於ては千八百八十年以來、其後再び千八百十六年乃至千八百四十六年、佛蘭西に於ては千八百十六年乃至千八百五十六年及び千八百八十七年以來、獨逸に於ては千八百七十九年以來)は常に議會に多數を制し得たる大地主及び大工業家の聯合なり。頽廢工業部門は將來有望なる物與部門の如くに保護せらる可らず。今日に於ては工業原料品を製造品と同率に保護する國家はあらず。獨逸は今日精製品工業に對し未製品工業の如くに保護を加へず。今日農業保護關稅を實施すべき當然の理由は、現に若しくは嘗て一定工業がしかく保護を加へられたるが故にあらず、現農業をやがては必らず雲散すべき國際競爭の犠牲たらしめざらんこと是れ實に國家社會全體の存立に關するものあるが故なり。

保護關稅は勞働者の保護なり勞銀を騰貴せしめ若しくは歐洲の低賃銀に對し能く亞米利加の高賃銀を維持せしむる所以なりとは殊に北米合衆國に多く適用せられたる議論にして、差當り屢虚飾的に適用せられ、殊に千八百九十年「マッキンレー」案の通過せる時に最も著しかりしが、幾ならずして賃銀は暴落せり。これを歐羅巴に觀察すれば自由商業國英蘭は賃銀最も高く、保護關稅國露西亞は最も低し、「デイルケ」はそのカナダ及び濠洲に關する研究より結論して曰、保護關稅は賃銀を騰貴せしむるともなく又これを下落せしむるともなしと。如何なる場合たるを論せず賃銀額を規定すべき多くの原因の中にて商業政策も亦一つの重要な原因たり、商業政策の中には個々の場合に照し自由と保護とを正當に適用することを眼目となす。さりながら驗知ある勞働者及びこれが理智に通曉せる首領(例へば獨逸に於ける「カルウエル」、「ダヴィッド」、「シッペル」の如き)は當然のことながら最早單に消費者の立脚點のみに偏し苟くも保護關稅を以て物價を騰貴せしむる所以とは認めず、生産者の利害も亦併せ考ふるは斷言し得べし。保護關稅的商業政策は濠洲議會に於て實に勞働者より要求せられたり、蓋しこれ差

當り生産を獎勵し勞働機會と勞働需要とを増大するが故なり。かゝる政策はその目的を達する限り又以て麵粉及肉類の相場騰貴を或る範圍まで堪へ得せしめ然り又能くこれを願望せしめ得べし。

亞米利加の保護關稅論者「ケリー」、「ガウントン」、「バットン」は保護關稅主義の大學に教鞭を報れり等の唱導する所は幾分は舊學說の祖述にして「ハミルトン」、「リスト」及び其他學者に淵源し、幾分は銜學的にして主觀的に、幾多の矛盾を藏し而して亞米利加の特殊事情より誤りて一般的概括論をなせるものなり。「バットン」主張して曰、自由商業は舊國に利に保護關稅は動的國家換言すれば前進的國家に益あり、保護は地代と一切の獨占とを排除すと。然れども事實に徴すれば千八百六十年以降北米合衆國の如き地代と工業獨占(トラスト)との顯著なるものは未だこれあらず。この亞米利加の獨占的巨大組織は斯くの如き巨大獨占組織を發達せざる歐洲諸國をして關稅に依りその投資相場、巨大投機及び市場攪亂を保護せざるを得ざらしめたる一原因ならずんばあらず。

(二)かくの如く商業政策上の理論的爭議は屢從來の軌道を終始し殆んど全く效

果なく勢力なかりしが。工業國か若しくは農業國かて論争は獨逸に於て科學上にも實際にも著大の意義を發展し重大視せられたり。「オルデンベルグ」先づ概括的に且つ獨逸職業統計に準據して問題を提供して曰、諸國相倣て工業國たらんことに營々とし、英蘭は既に千八百四十年來、獨逸は近時これが後を追へるが如きは果して正當なるならんか。劇増人口—例へば英蘭に於ける六〇乃至七〇プロツェントの人口増加—が外來の食料品に依頼し、これが相殺支拂の爲めに益製造品、石炭、資本を輸出せざる可らざるは政治上及び經濟上に國家の大危険なり。若し同時に露西亞及び北米合衆國よりの輸入が封鎖せらるれば大英國は戰爭を俟たずして—餓死せざるを得ざるべし。殊にかゝる工業國發展が將來能く幾何期間持續し得べきかは問題なり。食料品輸出國は早晚その剩餘なきに至り、又幾ならざるに自國の工業を發達すべし。嘗て此等輸出國は債務國として資本豊富なる工業債權國に依頼したるが、この關係は次第に逆となり、場合に依りては農業國は工業國に債務を消却し、遂にはこれを危機に陥らしむべし。獨逸は大英國の踏み入れるが如き左道を反覆す可らず。機に乗じて方針を

一變しその農業を保護し、輸出工業の昂進を制限せざる可らじ。工業國は性情生活を破壊し、財分配を不均等ならしめ、引き續きて健全なる社會政策を實行することを不可能ならしめ、徒らに資本をして暴威を振はしめ、都市及び工業領域に不健全に人口を増加せしめ蝸集せしむるに過ぎずと。

「オルデンベルグ」のこの概括的悲觀的思想は一方には「バロッド」、「ベロフオイグト」、「ワグナー」其他學者に依りて且つ賛同し且つ變化せられ、一方には更に益猛烈に主張せられたり。「オルデンベルグ」が究竟救濟策と認めたる實際的處置は、大體に於て有利なる然り高率なる農業關稅を施行し、工業の大増進と都市及び工業中心地へ向け労働者の蝸集することを禁止せんとしたるに在り。「ブレンターノ」、「ディートセル」、「フリーベル」、「ヘルフェリッヒ」、「アルフレッドウーベル」、「フリードリッヒナウマン」等は「オルデンベルグ」の事實上の舉證とその結論とに反對し、而してその杞憂に過ぎざるべきこと、最近將來に於て工業國は常に容易に外國の食料品及びその製造品に對する外國市場を發見し得べきこと、麩麵對製造品交換の意味に於て世界的分業を出來得べきだけ増進せしむるは即ちあらゆる國家の富

を最も増大せしむる所以一決して一方的の依繋の因にあらずして相互的依繋の縁たることを證明せんことに努めたり。

この兩主張は何れもその見地を大處に置き廣く事實資料を蒐集して互に論争し、その結果はあらゆる方面に覺醒的影響を及ぼせり。兩主張は當初互に甚しく極端に陥りたるが其後屢々相接近し。農業關稅を辯護するものも今や獨逸をして純農業國たらしめざらんことを欲し、工業國を主張するものも適度の農業關稅に對しては最早非難を加へざるに至れり。論争著述の効果は職業統計及び商業變動てふ平行運動の研究となり、輸出工業が果して健全なるか將た不健全なるかの精査となり、食料品對製造品交換に代ふるに製造品對製造品、食料品對食料品の交換形式を以てすること能はざるかの論議となれり。かくて從來と全然面目を革新し一般に精密なる地理的國民經濟的基礎の上に立ち個々工業部門及び農業部門を確證し、食料品輸入及び製造品輸出並にそれに關聯せる結果を吟味せり。

かくの如く基礎確實となりたる以上實際的に少なくとも以前よりも容易に必

然的讓歩を相互になすことを得べし、吾人は獨逸に對し農業關稅上次の如く主張せざる可らざらん。曰、吾人は出來得る限り獨逸農業を維持し、獨立經營せる幾多地主及び借地人を破産の悲境に陥らしめざらんと欲す。吾人は交讓的態度を以て食料品及び地代の暴騰を來さず從て農民の生計困難を告げず而かも同時に相場を下落せしめて或る刺戟を與へ技術的進歩を促して以て質並に量の上に農業生産を増大せしめ得るが如く關稅を引き上げざる可らずと。若し政府にして農業殖民に努力し關稅引き上げは決して富裕大地主の利益を目的とするにあらざること明かにせば、吾人はこの關稅政策を是認し得べきこと易々たらんのみ。

これを概観するに農業國か將た工業國かの論争兩派は理論上には決して一方のみを認せらるべきものにあらず。要は各國家に於て政治上及び經濟上のありとあらゆる原因に影響せらるゝ將來の可能と發展傾向とを問題とし、獨逸に就て言へばたゞ單に農業關稅を幾分引き上げ若しくは引き下げんのみにて必らずしも一方の目的を到達し得べきにあらざるなり。獨逸はよし農業關稅撤廢せら

れんとも英蘭の如く農業頽廢に陥ることなかるべく、而して又獨逸は依然工業國たるべし。

人口稠密なる工業國の食料品問題を安固ならしめんが爲めに關稅よりも重要なは、最近將來に於ては關稅同盟、帝國主義、對殖民地關係なるべし、吾人の既に觀察したるが如く「チェンバレン」の計畫は帝國關稅聯合に依りて英蘭の食料問題を安固ならしめんを欲したり。佛蘭西はアルゼリアをその穀物倉庫となせり。獨逸の爲めにはウングアルン、ルイメニエン及び恐らく尙ほバルカン半島の諸邦を聯合せる中歐關稅同盟は少なくともその必要な穀物輸入増加を容易ならしむるに大に與て力あるべし。

この故に現今商業政策の究竟問題は世界全般に亘れる新關稅障壁の總狀態に關せり。國際分業益開展せる結果として、曩時に屢これありたるが如く、經濟上相互に依繫せざるを得ざる諸國土及諸領域は如何なる範圍まで利害を異にし時に敵視すべき國家權力に屬することを得べきかの問題は惹き起されたり。凡そ小國膨脹して大國となるの過程、凡そ新舊經濟的同盟政策はこの原因より支

配せられざるなし(本譯補の第三冊 **百〇二** 參照)。若しそれ小國家の幾十幾百が大國家と同様に容易に大交通を發展し得べしとせば、嘗てアテチカの海上同盟、羅馬の帝國、第十九世紀に於ける關稅同盟、今日に於けるカナダ及び濠洲の關稅聯合は成立せざりしなるべく、大國が反覆して世界商業霸權を爭奪せんとするの傾向愈劇甚を加ふることあらざるべし。

政治的侵略と同盟政策(關稅同盟)との二途は結局その目的を一にせり。益廣大に愈自由なる市場領域及び交通領域を法律上確實に設定せんこと即ち是れなり。現今の巨大國はこの第一途に進み獨逸は則ちこの第二途に出でたり、中歐關稅同盟も亦恐らく第二途を取るべし。吾人が既に陳述したるが如く千八百八十年乃至千八百九十四年は大勢同盟政策の傾向を取り。その以降この計畫は主として保護關稅運動の爲めに屏息し、宛然一時この政策を是認するものは學者に限れるが如き觀を呈したり。世界的三大國は自然この計畫を敵視し、小國の嫉視と淺慮とは愈以てこれが障害たりしなるべし。能くこの目的を達せんが爲めには眞に遠大敢爲にして同時に節度あり小國家を庇護するの政策に俟たずんばあ

らず(本冊 二百六十八 参照)。恐らく當初はあらゆる過渡段階を經過せざるを得ざるべく。何は兎もあれ差當りは參加諸國に對しその財政關稅と多少の工業關稅とを豫備法として承認せざるを得ざるべし。さりながらこの計畫が愈實現せらるべき蓋然の程度は今日に於ては餘り屬望するに足らざるが如し。然れば則ち中歐諸邦の商業政策上の地位も亦益困難に陥るべきことは確實なり。蓋し關稅同盟が可能にして且つ必要な場合に最善の商業契約と雖ども取てこれに代はること全然不可能なり。

二百七十一 商業政策、商業均衡、最惠條件に關する結論、將來豫想。舊商業政策は共同團體及びこれが支配者の直接利害に依て規定せられたる幼稚なる政策なりき。重商主義及び自由貿易主義を以て時代の利害と觀念とに順應せる理論的系統の發達となり、宛然古今東西に亘りて不朽の真理なるが如くに主張せられ、幾分個々事象に適合し幾分はこれを強制しこれに障害を加へ、而して直接利害に干與するの外商業政策に對しても亦著大の影響を及ぼさんとするに至れり。重商主義は諸國相互の永久的經濟競争を立脚點とし、自由貿易主義は

これに反し永久調和的國際平和を立論の基礎となせり。「リスト」の所謂教育關稅論は國民經濟の史的發展行程の思想を理論的觀察に移したるもの、商業政策も亦その思想に順應せざる可らずと説けるが。彼の商業政策はこの思想を極端まで追求せず、たゞ單に近世的大國民工業を發達せしめんが爲めに教育關稅の必要を説けるのみ、その前後段階には自由貿易主義を是認したり。實際歴史はかかる圖式と終始せんには餘りに雜多の利害と國家形式とを含み、餘りに複雑せる商業政策上の手段と制度とを示し、餘りに錯綜せる商業政策の變動に富めり。今吾人の立脚點はこの複雑錯綜せる事情に應ぜんと欲するもの。商業政策上の競争及び平和將た鎖國及び開國の變遷、商業政策上の種々手段の進歩、生産及び交通状態並に國家形式、財政及び國際法と商業政策との關係をそれぞれ歴史に徴して開陳せんとす。吾人は漸く個々の時代及び個々の領域に就て信憑すべき科學的研究を遂げたるに過ぎざるを以て、吾人はたゞ斷片的に主要形相とその主要原因とを舉證し得るのみ。たゞそれこれ以上に出づること能はざれども又以て商業政策的發展過程の綱領を確證することを得べけん。

從て吾人は今日保護關稅及び自由貿易を最早原理上の問題として取扱はず、たゞ單に臨機適宜の國家商業政策手段と觀するのみ。吾人は一方保護關稅を以て國家を富裕ならしむべき確實なる手段と認めず他方漫に國民經濟過程及び世界經濟道程の調和的自然秩序に左袒没頭するものにあらず。商業政策の上より觀察して舊社會團が益、膨脹し擴張して大國となり國際同盟となれると、この發展國家が一面には國家權力及び國家行政を發達し他面には分業、交通、貨幣經濟將た國際的交換の増進を俟て愈、商業政策規定を設け、而してこの規定が或る程度まで國民經濟を促進しこれに影響しこれを指導せんとすること——是れ吾人の今日疑はざる所なり。從て又總じて國家それ自體が國民經濟の發達に影響する最も重要な手段たることも亦吾人の觀察する所。苟くも國民經濟に關する國家の影響を難ざるものは原理上より自由貿易論者ならざる可らざること、苟くも國民經濟の發達を擧げて國家活動に俟たんと欲するものは常に保護關稅論者たらざる可らざるのみならず一切の國際商業を國家化せんことに努力せざる可らざること——是れ今日吾人の理解する所なり。主義主張一貫せる社會主義も

亦この立脚點をとれり。獨り主張一貫せざる社會主義若しくは故意に現社會を破滅せんと欲するものに至りては原理上自由貿易論者と言ふを妨げざるべし。

一、吾人は商業政策の根本思想を次の如く攝要することを得べし。曰、苟くも種族、都市、州、國家は、その統一し國民を糾合せる限りは、又經濟的統一體として外に對し、強隣邦に對しては鎖國主義をとり弱隣邦に對してはこれに影響を及ぼし經濟上にこれを利用せんとする傾向を伴ふものなりと、凡そ經濟生活及び國家生活上の進境、領域の膨脹及び商業の擴張、凡そ生産の大變動并に權力、領域、富の著大退歩は反覆してそれぞれ隣邦及び競爭國に對する經濟的活動に變化を伴ひ、從て或は鎖國主義をとり或は開國主義に轉ず。苟くも鎖國規定の意味に於ける變化(外人入國禁止、航海條例、輸入禁止、保護關稅)は、そがそれぞれ國土の經濟手段將た權力に順應せる政治的精神的技術經濟的隆興の一連鎖たる限り或る效果を期待するとを得べし。若しこの隨伴原因及び前提が全然若しく幾分缺如せる場合には則ち失敗に陥り易し。從來の鎖國規定に對する制限(外人船舶、商品)の自由入國を可とする場合は、國家が既に或る發展を遂

三三〇

げ、隣邦と同列若しくは隣邦を凌駕せりとの感を生じ、少なくとも自由交通は經濟上若しくは政治上に外國の羈絆に拘束せらるゝの憂なく、債務國となり利益を壟斷せられ自國に緊切缺く可らざる生産部門及び商業部門を奪はるゝの恐なくして寧ろ自國を刺戟發展すべき競争を惹起さん時なり。國家が殊に自由主義を採るは内國販路餘りに狭小に外國商品の供給必要なるが如き場合に在りす。

然則、苟くも國家及び國民經濟の隆替盛衰は、その商業政策に變動を及ぼすべし。教育關稅必要なり、而して恐慌關稅、相殺關稅、報復關稅も亦停滯困弊せる國民經濟部門を保護せんが爲めに可なる場合あり。一切の保護的規定及び一切の自由主義的規定を實際に最も有效ならしむると否とは、豫じめ國力と外國の抗爭力とを正當に概算し捕捉したるか否かに繫れり。自由商業と言ひ保護關稅と言ふそれ自體は何れも非難すべきにあらず、處置適用を誤りたる自由商業及び保護關稅こそ共に非難すべけれ、多くの場合に於て近世時代は過去并に現在に兩系統の交譲を必要となせり。嘗て絶對的自由貿易主義を採りたる近世

國家なく、全然封鎖主義を敢行したる國家もあらず。商業政策手段は善化し醇化し人類化せり。嘗ては商業政策は勢力ある個人及び階級の利害の爲めに偏頗の處置に陥れるが、國家社會の總利害を基礎とし妥當なる政策の統制に俟ち廣汎なる知識及び科學將た強固なる輿論に支配せられしよしその間に反覆して利己主義的階級利害がそれ自體に組織を發達しあらゆる專斷を敢行せんと欲したることなきにあらずれども漸次に正道に轉向し來れり。即ち今日トラスト、カルテル、利害共同組合は疑もなくそれ自體に正當にして且つ有效なるにも拘らず、強固なる政府能くこれを統制し而してそれをして政府を左右せしむることなき場合に始めて國家社會に幸福を齎らし得べきのみ。

良商業政策はたゞ單に個々國家がその利己主義的利害を極端に追求し苟くも優勝權力を利用すべきことを前提とせずして、漸次に個々國家が國際社會の一員として意識し、大國民經濟と雖もこの國際社會の平和交通に俟たずんば存立する能はざることを自覺することを前提となす。もとより一切の國際經濟關係が國民的利害競争を藏し、時ありて戰爭、國境移動、侵略、暴力、助勢、破壊

の勃發となるは言を須たす。然り而してこの暴力手段もその供用方法如何に従て或は妥當合理にして能く機宜を制し、或は不當暴戾に陥り得べく。後なる場合には敗北者には勿論勝利者に對しても敗北者と同様若しくはより以上の障害を蒙らしむることなきにあらず。而して如何なる場合たるを論ぜず今日の通則國際交通は人類化せる國際法、平和妥當なる交換を基礎とせざるなく、これ等は交通國相互の利用するを得べく且つ利用すべき所の手段たり。

斯學の進歩、社會組織及び國家組織の改善、并に國際法及び商業契約の更新が與て以て今日如何に正當なる商業政策を施行せしむるかの方法に關し尙ほ數言陳述する所なかる可らず。

二、今日の商業統計、領事の報告、専門的刊行物及び狹義の科學的研究に依りて現代商業政策は「アダムスミス」及び「リスト」の當時と比し全然その基礎を革新せり。農業國及び工業國の研究は既に上節に開陳したる所。關稅を原因とせる物價騰貴に關する研究并に國家及びカルテルの「プレミエン」の影響に關する研究も亦顯著なる進歩を示せり。さりながら特にここに掲げて爲めに數言を費さざる可ら

ざるは現に吾人が所謂商業均衡論に關して如何に説明せらるるかこれなり。(本

冊 二百六十二 参照)。

「ヒューム」及び「アダムスミス」は舊重商主義政策の目的——即ち有利なる均衡換言すれば商品輸出入關係に依りなるべく多額の貨幣を内國に輸送せしめんとを全然無用にして誤謬なりと斷定せり。曰、何れの國土たるを問はず自然に且つ何時にても其必要なる額の貴金屬及び貨幣を得るに苦まず。一時貨幣の流出過多なるとあらんとも其結果は一切の相場を下落せしめ、相場はそれに相當する輸出の増加を來たすべし、これと逆に貨幣の流入過多なれば相場は暴騰となり、從てそれに應ずる輸出減退を來たすべしと。常態關係に於て幾分かかる傾向の存在するとは疑なし。然れどもかかる自然的調節が如何なる速度を以て起るか、如何なる事情及び如何に多くの事情がかかる結果を禁止し得るか——これ抑、緊切問題なり。近時此の如き均衡の自動的調節を辯護する者は現には相場變動よりは寧ろ爲替相場將た正當なる銀行割引政策(本譯補の第五冊 百六十六 及び第六冊 百九十五 参照)を主張し、乃ち常に若しくは通則として貨幣の過大流出を

禁止し過大流入を防止し得べしとなす。然れども之と關聯して今日「ヒールム」を祖述するもの(例へば「ベトリッチ」の如き)は嘗て「ヒールム」の主張したると同様に主張して曰、「均衡はその不利なる状態なると有利なる状態なるとに別なく常に一時の現象のみ、決して永久的状態にあらず、從て何等商業政策の干與を要せざるなり」と。この假定が或る場合には恐らく正當なれども、さればとて苟くも商業政策の干與を無用視する能はざることこれ吾人の後段に論究せんとする所なり。

商品及び貴金屬の輸出入を基礎とし事實上の商業均衡に關する近時研究の差當り吾人に示す所は。一、商業均衡上の數字は相互支拂過程の著大部分には相異なければども到底その全額などにはあらず、この故に今日商業統計の結果を商業均衡の名を以て呼び、一切相互支拂の總體及びその比較は則ち支拂均衡の稱を用ふ。二、大支拂債務關係の纏綿は屢數年に亘り、從て或る一個年の統計はその後の若干年度統計に依り事實上相殺せらる。三、獨逸の商品價值統計は先きにも説明したるが如く通則として輸出に不完全に、且つ其故に輸入との割合上過少に計上せらる、蓋し輸入の場合には運賃をも含み輸出はこれを含まざれ

ばなり。四、商品交通の外に尙ほ觀察せざる可ちざる價值移轉及び支拂は次の如し、イ債務國より債權國に向て支拂はるゝ利子—これは屢數百萬マルクに上り、屢商品支拂の形式をとり商品統計の上に示さる。口内國船が外國より受取る船運賃。ハ郵便、旅行、有價證券輸送、移住、遺産等の形式をとりて出入する大金額。凡そ斯くの如き支拂に依り苟くも商品均衡は數千萬マルク然り數億マルクの變動を蒙ることなきにあらず。實にこれ等の金額(これが商品均衡に計上せられざる限り)が正確なる(誤謬均衡は論外なり)商品均衡に算入せらるるとせば恐らく事實上の支拂均衡を得べけんもこれ何れの國土に就ても到底詳知す可らず。

從て今日斯學が如何なる場合にも商品均衡統計殊に所謂不利なる均衡に對し極めて批評的に觀察するは正當なる態度なり。今日豊裕國家が概して持久的に不利なる均衡状態に在り而かも何等これが爲めに障害を蒙らざるとは事實なり。蓋し此等豊裕國は債權國として屢一億マルク、五億マルク乃至はそれ以上の輸入超加を單にその在外投資利子に依て補償するが故なり。又富裕國家は良幣制

良信用組織を施き外國と有利なる信用關係を結び、戰爭、凶歲及びそれに類似せる原因に基き一時均衡状態不利となり貴金屬輸出を招くもこれが爲めに概して何等の痛痒を感せず、數ヶ月若しくは數年にして爲替相場變動、信用關係及び割引政策に依りて再びこの状態を回復することも否認す可らず。然りと雖もかくの如き自然調節が貧弱債務國、外國の需要する輸出品に乏しき國家、危険なる紙幣經濟を餘議なくせる國家に必らずしも期待す可らざるの事實は依然として抹殺せらるべくもあらず。かゝる國家にして引き続き不利なる均衡状態に陥り提言すれば商品輸出過少なれば、則ちその貴金屬、正金を失ひ、夥多の國債及び其他の有價證券を輸出せざるを得ざるに至るべし。事ここに至れば保護關稅政策を必要とする爾他の原因は姑く問題外とするも、財政信用及び貨幣政策上の原因より輸入防止を緊要とすべし。而して輸出を増大し輸入を禁止せんとするかゝる國家の政策規定に對し何人も「ヒューム」の樂觀的立脚點より非難を加ふることを得ざるべし。

三、個々國家及び時代の商業政策の原因に關する認識上に吾人は顯著なる進

歩をなし、殆んど明確にこれが二原因系列を辯識す。その第一原因系列は時と處とに別なく其經濟状態、欲望、生産手段、現商業部門、現自然的發展傾向の裡に在り、それに應じて或は保護關稅を可とし或は自由商業を利とするの經濟的必然關係を生ず。然れどもこれ等の現實の状态は完全に認識せらるゝことを必ず可らず。且つ自由商業にあれ保護關稅にあれ可能の方法と程度と一ならずるなり。而して能く正當なる方法に正當なる程度を施行し得るか否かは一に政府、國家組織、一定階級の影響、輿論、斯學の貢獻、外國の政策に對する必要の顧慮其他に繋りて存せり。吾人は經濟上より觀察し、千八百十五年乃至千八百四十年の獨逸商業政策も千八百七十年のそれも千八百九十一年乃至千八百九十四年のそれも實施方法上絶對的に必要なるものにあらずと斷言するも敢て過言にあらざるべし。千七百八十三年乃至千八百八十九年、千八百十五年乃至千八百四十年、千八百二十二年乃至千八百六十年の英蘭商業政策、佛蘭西、露西亞、北米合衆國のあらゆる重要なる政策方針に就ても亦これと同様なる評言を下し得べし。政策方針の程度と實行の巨細とに對し決定力を有するは常に一定

の政治家、學說、黨派、階級利害なり。第十八世紀にありては屢政府の不完全なる調査及び無能、第十九世紀にありては寧ろ議會の勢力、聯合階級利害、近時に至りてはカルテル及びトラストの力は原理上にはもとより是認すべき或る商業政策手段を誇張し誤用し然り時には極端に利用したりと言ふも不可なかるべし。さりながらその間常に進歩ありたることは否認す可らず。而してこの進歩は公刊物が買収せられざりし限り不偏不黨の確固たる輿論の昂進に在り、階級及び議會多數黨より左右せられざりし限り確固たる政府の存立に在り、將た斯學の認識の増進及びその普及に在りき。

これに伴ひ誤りたる誇張寫象は漸次に屏息すれども、嘗ては保護關稅論者も自由貿易主義者も直接に商業政策規定を左右し、殊に保護關稅論者を然りとし、時代を逆るに應じて愈然るものありき。今日にありては漸次吾人は各國民の經濟生活及び國際交通が或る自然的大事實(土地、人口、資本、技術^{II}欲望^{II}及び支拂^{II}能力の状態)を基礎とし、保護關稅、輸出獎勵金、航海條例、若しくは自由貿易規定は漸く以てこれに幾多の變化を效し得べきも決して急速に甚大變動を起

す能はざることを認識するに至れり。而して又今日殆んど凡ての商業政策計畫の効果が新原因に依り嘗て豫想せられざりし若しくはそれが程度を測定す可らざりし原因に依りて制限せられ然り全然撤去せらるゝことも吾人の認識する所なり。保護關稅は外國の低廉なる競争を拒止し、當該商品相場を内國に騰貴せしめ、從て内國に於ける該生産の利潤を増大せしめ生産そのものを擴張せしめんことを期す。然れども此等の結果は何れも必ずしも期す可らず。外國の競争は必要なればあらゆる犠牲を拂て販路を求め、從來に劣らざる大活動を演ずることなしとせず。若しくは外國競争拒止せられ相場騰貴する場合にも内國生産の擴張には尙ほ幾多の原因ありて與かれり。

凡そ商業政策手段(關稅其他)の變動は國民經濟力の分配を變更し資本及び勞働を從來と別途に轉向せんことを目的となす。然り而して同時にその結果は又間接には促進的なるあり禁止的なるあり、然れども例へば高率農業關稅の差當りの結果は勞働力及び資本を農業に轉向せしめ得べく且つ轉向せしめんとを期す。是を以て吾人は商業政策の一方面に苟くも促進的變動あればその結果は他方面

には障害を及ぼし制限を加へざる可らず若しくは少なくともそれを豫想し得べきことに就き今や曩時よりも遙かに判然たる認識を有せり。故に吾人は今日一般に曩時より政策の變更に關して用意周到なり、而してこれ當然のことなりとす。如何なる商業政策を以てするも國民經濟の根本條件を變更する能はざること、需要及び消費を全然改廢する能はざること、生産手段を任意に増大する能はざること——これ吾人の今日明かに認むる所なり。この故に今日の問題は可能の範圍到達せらるべき限界如何にしてこれに就き曩時よりも明確に追求し、從て誤謬誇張の實驗に陥ること曩時より罕なり。今日製造品及び資本を夥しく輸出せる舊工業國に於て苟くも農業を再び促進せしめんとするものは、少なくともその科學的訓練ある限り、それが如何なる程度まで可能なるか、食料品關稅に依りて生計費を増加することが如何なる範圍まで堪へ得らるるかに就き幾分判然たる覺悟を有せざるなし。

既に高率保護關稅の困難と弊害と明白なるが故に、今日は寧ろこれが多少の補充手段たる例へば先きに「ハミルトン」に依りて採用せられたる内國獎勵金系統

を論議し。困弊農業に關しては獨立維持すること能はざる地主を國家より大規模に買收し、以て土地相場を暴騰せしむることなくして更に給付能力に於て勝れる新經營を創設せんとす。かゝる手段の多く賛同せられざる理由は、單にそれが妥當なる實行を擧ぐることに關稅よりも困難に且つ更に完全なる官僚裝置を必要とするが爲めなり、一方保護關稅は同時に國庫に貨幣を増大するにこの方法は太蔵大臣より巨額の貨幣を引き出すが爲めなるのみ。

四、保護關稅政策、殖民地侵略政策及び帝國主義政策の現波動は今遽かに鎮靜することなかるべし。強大國家の膨張政策は、よしそのこれに抗せんとする場合にも屢事情止む可らざらん。強大國家は内國販路餘りに狹隘なるが故に製造品、勞働力、資本を外國に輸出せざるを得ず。かくて諸強は野蠻人半開人種の生活せる領域、全然信認す可らざる政府に支配せらるる領域に於て衝突す。諸強にして若しかゝる領域に膨張し、幼稚領域に高尚文明を宣傳して、に販路を獲得せんとすれば、諸強は屢何等かの方法に依りてこの領域を自國の勢力範圍となさざる可らず。この故に現國際系統の再び新たに固定せる曉には、この

膨張政策、販路勢力範圍殖民地關係領域奪取の爲めに演ぜらるこの權力競争政策は再び鎮靜に歸すべし、それまでは競争益劇甚、恐らく權力關係領土關係は著大の推移を呈すべし。而して後吾人は再び靜平状態に會すべく從て又寧ろ自由商業の時代に到達せん。この新國際關係も現國際關係と同じく國民的權力活動及び利害活動、國際法的及び交通促進的進歩の交譲より生ずべし。個々國家に於て階級競争の統制が合理及び節度に俟て始めて期待せられたるが如く、諸國民、その國民經濟、その商業の大競争を統合し平和時代を實現することも亦それ同一の進歩に俟たざる可らざらん。たゞこの國際場裡には國際法及び國際契約の後盾たるべき絶對的強制權力を欠くが故に、個々國家内の場合よりも一層困難なる事情あり。然れども經濟的國際共同關係益親密に、これを秩序すべきあらゆる契約も亦愈増加するに從ひ、暴戾野蠻なる商業政策手段に對し共同的反抗益強烈なるべく、既に今日を以て曩時に比する、この關係同日にして談ず可らざるものあり。弱者の虐待は—少なくともそれが進歩の爲めに必要ならざる限り—漸次に益その形影を潜むべし。

最近將來の進歩—殖民地分配、關稅同盟及びそれに類する方面は除外例として—は國際的商業契約、その内容、その形式に在りて存すべし。各國は健全眞實の競争を妨止する不當の最惠條項に對しては國際的に合同して益抗争せざる可らず。嘗て砂糖輸出獎勵金の撤廢を協賛したるが如く、全輸出獎勵金制度もとよりトラスト及びカルテルの施行せるものをも國際的に秩序せざる可らざるなり。これと同様に交通制度(鐵道制度)及び家畜制度に於ける最惠條項及び制限條項に關しても亦從來よりも廣汎なる協定を遂げざる可らず。殊に内外國人の同列取扱問題及び最惠國間の一切の外人及び一切の商品を同列取扱すべき問題は更に統一的に且つ妥當に秩序せられざる可らざるなり。

吾人は既に本冊 **二百六十五** に於て、近世保護關稅時代以來現最惠契約形式に依り高率保護關稅國と低率保護關稅國との關係に著大の困難を生ずるを指摘したり。他國に對して承認したる讓歩を將來直に何等對價契約を俟たずして最惠契約國に對しても亦承認することは北米合衆國はその相互主義を楯として拒避する所なり。然れば則ち歐羅巴諸國も亦北米合衆國に對してこれを拒斥せ

ざる可らず、英蘭殖民地は英蘭以外の一切國家に對し拒斥する讓歩を英蘭に對しては承認するに至れり。かくて或る程度の差別關稅制度起り、それ以來隨處にこれが事例を發見す。然れどもこの制度が大體に於て相匹敵し活潑なる交通連絡ある舊世界の隣接諸國間に起るが如きは望まじきことにあらず。かゝる場合には權利平等主義を貫くを以て萬々勝れりとす。たゞこの兩系統の間に如何に限界線を劃すべきか、千八百六十年乃至千九百年の間歐羅巴に協定せられたる最惠條項は如何なる程度に止むべきか、これに代ふるに相互主義附差別關稅を以てすべきか、歐羅巴最惠條項系統に從來よりも多くの除外例を規定すべきか果して規定すべしとせばその範圍如何ならんか―是れ疑問の存する點ならずんばあらず。

商業政策の原則に關し、關稅其他の爭議を處理せんが爲めの國際仲裁裁判制度に關して國際的協定益進めば、依て相互理解と平和的相殺の可能とは愈以て増進すべし。尤もこの間に處するもの、凡そ此等の國際的商議及び契約は常に一方を顯著するを重要とすななどの信念は相互に必らず放棄せざる可らず。若

し相互に事實上の知識と正當なる精神とを以て彼我の利害を明確に考量せば、公正なる協定に歸着すること可能なるべく、是れ實に階級競争に於ても商業政策上の競争に於ても漸進の大目標たり。

四 人類及び個々國民の經濟的發展及び一般的人類の勃興、隆昌、衰亡

二百七十五 國民經濟的進歩の本質。第四卷の前三章、恐慌論、階級競争論及び商業政策論は既に尨大なる範圍に亘り、今第四章の經濟的總發展、經濟的進歩、發展過程の段階の取扱は略説を旨とせざる可らざるに至れり。吾人が先きに本譯補の第八冊 **二百三十七** に主張したるが如く、斯學のこの究竟問題は最も確實なる基礎に乏しけれども、然ればとて吾人はこの問題を究明せざるを得ず。

既に業に人類の一切經濟的生活が統一せるか、統一的發展過程をなせるか、果して進歩するかの問題に對し、吾人は經驗的證據を以て肯定的答案を提供す

ると能はず。思想家は久しくこの進歩を否定し、今日と雖も少なくとも幾多の方向にこの進歩は疑問ならずばならず。一切の國民及び種族の經濟生活が意識的統一に達したるは漸く部分的のことなり。然れども現代の國民經濟學及び發展國民の信念は今日主としてこの進歩を承認し而して人類發展の統一を假定す。吾人はこの承認この假定を出發點となし。全秩を通じて發展史的立脚點をとれり。従て今や吾人の問題は如何なることを經濟的進歩と言ふか、人類の統一的經濟發展行程將た個々國民及びその經濟生活の隆興と衰亡とを如何に思惟せざる可らざるか是れなり。

經濟的進歩とは、それ自體は人間がその生存の爲めに益、良好に且つ確實に外的物的手段を調達することを習得し、その勞働生産力が増大し、その積集せる經濟手段及び貯蓄が増加し、その消費が豊富となりしことを意義す。かゝる意義の進歩は今日最早これを否認するものなし。然れどもこの進歩が果して如何にして達せられたるかの問題は既に議論あり。これに就て或は純經濟的基礎の上に立ちこの問題を解釋せんとし、或はこれが解決の爲めに更に廣汎なる社會

的國家的精神道德的基礎に立たざる可らざることを信ず。

姑く社會生活の關係より抽象して差當り純經濟の見地をとらんか、自然の理路として經濟的欲望及び衝動より出發し。欲望及び衝動並にその發達を純經濟的に説明することを得べく。それより經濟的活動、勞働を演繹し、技術に依り多數協働に依り分業に依りてこれが發達を究明することを得べし。更に生産増大、資本積集、人口増加もこれより説明することを得べく。これに依りて勞働生産力が如何に増進したるかを測定せんとし得べし。尙ほ又個個人の生産増大と關聯して交換交通及び市場交通、價值及び相場を説明せんと試み得べし。かくの如くして一切の高尙なる經濟發展を若干の經濟心理學的前提、技術、人口及び資本の増加より演繹することを得ん。然れども此の如きはたとへ經濟過程の外的要素を補提し得んとも、而かも若干の抽象に終始し、而してこゝに因果の究竟要素を求むるものなり。

例へば欲望とその増進とを説明せんと欲し、人間が漸次に多量の食物を欲し廣大住居を欲したりとの寫象に到達したりとせよ、これ毫も欲望の説明にあら

ざるなり。人間は未だ嘗てかくの如きを欲せず。その欲したるは社會に名聲を博せんと是れなり。人間の美感情が發達し、社會に依りて益高尚なる感情と高尚なる欲望とを發展し、依て又愈文明の重荷を負はざる可らず。更に經濟的衝動を説明せんとするに、これ人類が未だ經濟的衝動を發達せずして幾千年間種族、氏族及び家族の經濟を營みたりし後、經濟文明の後代段階に至りて始めて營利衝動を發展したるなり。勞働は數千年來社會的訓練の結果なり。一切經濟進歩の樞點は多人數の協働に在り。最古の協働、降ては分業、經營形式の發達、社會的階級別、國家經濟これ等凡ての現象は決して單に經濟的に説明す可らず、總精神生活及び社會生活、その一切の自然的及び精神道德的原因より始めてこれを説明することを得べし。これ等の現象は言語及び共同感情、血縁及び氏族關係の結果なり。高尚なる技術も亦全精神生活の發達に俟たずんば理解すること能はざるなり。經濟道德は純經濟的に説明すること能はず道德全般の本質及び概念と關聯して始めて解釋し得べし。凡そ社會的大共同關係は人性全般の結果なり、而して言語及び文字、道德、慣習、法律、宗教、交通に基けり。

幣制、商業、比較的に大規模なる經營は市場を目的とする活動と共に發達し、市場活動は經濟的數量關係を主眼とす。然れども抑市場は必らず社會的法律的制度として成立し得たるもの、市場現象は社會的法律的秩序的裡に終始し、この秩序は供給及び需要にも亦決定的影響を及ぼせり。要之欲望の増進、技術の進歩、人口増加、過剰生産てふ範疇を以て經濟的發展過程を捕捉せんとするは到底外觀皮想に終始するもの、若し經濟的發展の本質を道破せんと欲せば、その人類全般の發展を基礎とし殊に經濟的能力及び道德を向上せしめ廣汎復雜にして而かも整然たる社會的經濟機關及び共同團體を設定せんとする發展方向を基礎とする點を闡明せざる可らず。この關係の歴史が吾人に示す所は先づ殆んど動物と撰ばざる孤獨貧弱の人間部落が遂に發展して數百萬人の富裕國民となり、現に世界的交通を發展せることなり。嘗て若干人數の自然的部落より、共同團體(市町村)及び國家、階級及び結社、經營及び企業が如何にして經濟機關として發達したるか、慣習、法律、道德、宗教に依り種族、都市經濟及び國民經濟が如何に經濟團として發達し而して秩序せられたるか、社會的理想、

正義及び連帶責任の寫象が如何に行はるゝに至れるか—これ實にこゝに説明せざる可らざる不可思議なり。

是れを以てこれを觀るに、吾人が人類史上に認識する意味の經濟的進歩は、一面欲望の増進、技術の進歩、資本及び人口の増加に在ることとより疑なけれども、他面然り前半面にも勝して社會的組織、道德政治的訓育の過程に在りて存せり—たゞこの過程は反覆企圖せられて而かも屢失敗し停滯に陥りそれにも拘らず益前進し向上するものなることを看過す可らずとなすのみ。實にこの訓育に俟たずんば調和的大共同團體の發展を期す可らず、則ち更に善なる家族秩序、市町村秩序、國家秩序、生産及び分配の更に善に更に大なる機關、更に完全なる社會制度を發達す可き地盤を期す可らざるなり。制度の完全は抑身心道德上に完全なる人間を俟て始めて能く期することを得べし。人間の特質と社會的經濟的の制度との相互作用は即ち樞點の存する所なり。比較的大なる社會團體、比較的復雜せる機關の發達を必要とすること、少なくとも社會の先覺者がこれを發達せしむべき能力を備ふべきこと、爾他一般民衆が少なくとも教育及

び向上の可能を備ふべきこと—これ常に容易に期す可らず、進歩の困難この點に存せり。實に經濟組織の新發達、例へば苟くも分業の進歩の如き、新營利經濟を舊自足經濟の中に組織編入せんが如き、常に群集心理的過程より支配せらるゝ困難事象なり。既に階級別の發達あり資産の不平等を來たすに及んでは、企業家と労働者との協働の如き、會社及び組合の一切の創設の如き、國家經濟及び共同經濟と私經濟との協働の如き皆これなり。斯の如きは眞に社會秩序、協合の問題なり。將來の爲め他人の爲め社會全體の爲めにする一切の經濟行爲（これ文明發展の結果なるが）は差當り自然人の理解せざる所同情すること能はざる所。精神道德上の高尚なる文明を俟て始めて可能たり。人口益稠密となれば愈以て協合を必要とするに至るべく。一社會がその從來發達せる技術及び組織を以てしては食料品の供給不足を告ぐるに應じ、新たに技術の進歩を計り經營組織を創設すべき新任務に遭遇し、移住及び市場爭奪の問題を解決せざる可らざるなり。而して此の如きは復雜せる社會過程にして、概して社會的競争及び軋轢、大社會改良、新法律及び國家活動、畢竟は精神道德的大進歩を基礎とす

るにあらずんば成功すること能はざるなり。

この過程は經濟的進歩が餘りに多くの社會的及び國家的條件及び變更と關聯し、餘りに多くの個人的身體的心理學的進歩と關聯し、餘りに多くの慣習及び習慣の變更と關聯せる場合には屢成功せざることあり。幼稚なる人種は幾千年若しくは幾百年その欲望、技術、經濟文明に變化なく。高尚なる文明を發展せる人種と雖も屢一時寧ろ停滯狀態に陥り、而後漸く再び或は徐々に或は迅速に進歩するのみ。然れば則ち經濟的進歩は決して直線的に起るものにあらず、又常に同一の種族、國民、人種に限られず、千態萬様に弛張し、あらゆる競争、勝利及び敗北の間に起るものなり。諸種族及び諸國民の競争にては弱者は常に滅亡の運命を免かれず、かくの如くして恐らく歴史の舞臺より驅逐せられ隆昌勃興國民より撲滅せられたる弱小種族は勝つて數ふ可らざらん。然れども一時勃興し權力及び富を増大したる種族と雖も次第に他國民に凌駕せらるゝの例あり。其間新國民新國民經濟の勃興ありて進歩はそれに依りて代表せらる。然り而して文明益進むに従ひ諸種族諸民族の接觸愈頻繁となり、この隆替現象も亦

益平和的若しくは敵對的接觸及び相互影響となるなり。實にこの接觸及び競争この相互影響は吾人をして人類の統一的關係將た總發展を確認せしむる所以。吾人今日の問題はこの統一的關係の意味と原因とに在り。吾人はこの大なる謎を如何様にか解釋し若しくは説明せんとなす。

吾人は人類發展の過程に於て交互に牛耳を執る所のものが最も進歩に貢獻する國民なるを觀察し得べしと信ず。然れどもこゝに進歩と稱するものが決して經濟的進歩にあらざることを、經濟的進歩が爾他方面の進歩と親密なる關係を有すること——これ又吾人の認むる所なりとなす。さて個個國民が人類總發展の一連鎖として勃興し隆興し再び衰退する限り。吾人はその身心道德上の總特質これをして然らしむることを觀察し得べし。道德、宗教、法律、國家組織の幼稚なるにも拘らず權力並に富の強大を効せる國民あることなく、高尚なる技術及び科學が常に他方面の文明隆昌と關聯せることは吾人の明かに認むる所なり。社會的文明諸部門のこの内的關係は今日未だ多く研究せられざること疑なければども、尙ほ歴史、國家學、文學、宗教史及び美術史は既にこの關係の存在する

こと而してこの關係が共通原因に淵源することを明示せり。個々文明部門の歴史的隆替順序が諸國民の間に同様なること例へば宗教的戰爭的文明の隆昌は通則として技術經濟的及び美術的文明に先んずることも亦幾分確實に吾人の觀察する所なり。然れどもこの關係の詳細は概して尙ほ未だ判然たらず。吾人が統一的發展及びその個々段階の原因と認むる身心根本力の徐々變化に關しても亦然り。相次で文明舞臺上に牛耳を執れる個々國民の關係も亦同様の精神的原因及びその結果に淵源することを論結せざる可らざるべし。さるにてもこれ等關係に關する確實なる證左の尙多く判明したりせば！

苟くも斯學それ自體及びその人間知識の一般問題との關係を闡明して餘蘊なきを期せんが爲めには、一、從來、經濟生活の總發展それ自體及びその精神的根本力並に爾他文明部門との關係が如何に説明せられたるか、二、吾人が個々國民の勃興隆昌及び衰亡に關して如何に説明し得るかを略述せざる可らざらん。この二問題は同時に吾人をして人類史及び個々國民史を進化系列に依りて理解せんと欲する分類を計畫せしむべく。而してこの分類の原理は幾分殊に經濟的

に幾分は一般的性質を帶べり。尤も一般的性質を帶べる分類の場合にも目的は國民生活の一般を説明すると共にその經濟的方面を究明せんとする在り。

二百七十三

一般的歴史的進化論、一、機械的。こゝに最も妥當なる分類は等しく進化論と稱するも、一、それが自然、人種、技術と言ふが如き物的要素を出發點とし、而して以て人類の向上、文明國民の隆昌を説明せんとするか、二、これと反し精神的要素より進化の過程を究明せんとするかを類別するに在るべし。前なるは機械的、唯物主義的分類にして後なるは理想主義的分類なり。吾人は先づ機械的唯物主義的學說を觀んとす。

(イ)氣候、地理上の位置、土壤より國民の運命を全然若しくは主として演繹せんと欲する觀察も亦これに屬せり。こは既に古人の試みたる所、後代に於ては「モンテスキュー」、「ヘルデル」及び其他學者の反覆したる所なり。この學說が或る程度まで眞理なることは吾人既に本譯補の第二冊 五十二—五十七 にこれを證明したり。而して吾人は「リッテル」及び「ラッセル」の立脚點をとりたるが、二氏はこれ等一切の影響を認めて而かも文明進むと共にその唯一の決定的原因にあらざる

ことをも證明したれども、個々國民が何故に同一自然條件の下に勃興し隆昌し衰亡するかを説明せず、文明舞臺上に繼起牛耳を執れる諸國民の間に如何なる關係あるかに就ても亦十分の説明を與へざるなり。彼の米及びバタール(棕櫚屬)より印度史及び埃及史を巨細に演繹せんと欲したる「バタール」と雖も尙ほ近世文明國民にありては精神的進歩を主眼とすることを主張せり(譯者曰、本譯補の第一冊補説を参照あるべし)。尙ほ諸國民の一般的發展原理を闡明せる學者として今日地理學者 Mongelle を擧ぐべきも、彼は孤獨の奇人にして錚々たる地理學者の間にも彼が後繼者は一人もあらず。

(ロ)これと比すれば人類文明の發展過程を人種、人種別、人種發展程度より説かんとするの計畫は既に遙かに勝れり。この計畫は言ふまでもなく單に自然的にあらず、それと同時に人種及び民族の精神的道德的特質をも顧みて出發せんとするものなり。人種と國民經濟との關係將た人種の國民經濟に及ぼす影響に就ては、吾人既に本譯補の第二冊 **五十八** **六十七** に究明したり。吾人は人種の身心特質が幾千年來の歴史的運命及び身心進歩の沈澱にして、從て又人種特

質が常に國民の將來發展に對し著大の原因たることを認むれども、一面に於てその宛かも凝結器の如き作用を及ぼし背後に尙ほ原因ありて存することを信ぜずんばあらず。これに關し立ち入りたる問題は尙ほ餘りに不明に且つ議論毫も一決せざるを以て吾人はこれに就てここに多く引證することをなさざるべし。

(ハ)人類の經濟的發展を統一的に解釋せんとする機械的見地にして最も古く且つ最も普及せるは外的に捕捉すべき技術の進歩を標準とするものなり。この見地に技術的に分化せる主要生産部門及び職業部門を標準とするもの、技術の個々手段及び方法を觀察するもの、交通の技術的方法に關係するものの別あり。

既に希臘人及び羅馬人は占有的自然状態と牧人生活及び農業とを區別し、近代の學者も亦これに倣ひ、尙ほ工業段階時代及び商業段階時代を附加せり。「シエンベルヒ」は近時經濟的發展段階を分類して、獵人及び漁業民、牧人若しくは游牧民、土着純農民、工商業民、工業國民の五となせり。農業國か工業國かに關する獨逸商業政策上の論争は吾人既に本冊 **二百七十** に研究したり。經濟的發展段階のこの圖式が

發展の或る大綱を正當に捕捉せることは何人も否む能はざるべし。然れども不正若しくは誤謬の部分多く、殊に古代に關する部分に於て然りとす—これ既に吾人が本譯補の第二冊技術の歴史を究明せる所に觀察したる點なり。且つそれこの圖式はたゞ諸時代を並列し而してその内の關係の因果的連鎖を明示する所あらず。況んやこれに依て諸經濟時代及び諸經濟狀態の間に根本的異同を識別せんことをや。例へば經濟團體の大小、個々時代に於ける社會的經濟組織の全異同及び其他幾多の狀態の如き到底理解すべくもあらざるなり。

(三)考古學者及び人類學者は近時技術發展史を機具の材料を標準として分類し、而して宛かも古代學者が金屬を標準として人類發展を四時代に分類したるが如く、石器時代、青銅器時代、鐵器時代に三類別せり。こゝに於て嘗て擬似的類推論なりしもの今や眞面目なる技術史の學說となれり。然れどもかくの如き學說は到底以て人類發展の全歴史とその個々時代とを説明すること能はず。「モルガン」は或る意味に於ては人類學及びその技術史觀に依據し。乃ち野蠻民、半開民、文明民をそれぞれ更に三段階に分類して曰、野蠻人は最低段階に於ては野

生の果實を食し中位段階に於ては魚類を食し火を利用し、その最高段階に於ては陶器を製造せり。半開人は最低段階に於ては動物を馴致し、玉蜀黍及び穀物を耕作し、中位段階に於ては青銅器及び鐵器を使用し、その最高段階に於ては字母を發明し文章を物せり。この時代を文明民發展の過渡となすと。古代技術發展史の關係系列を理解せんとしたるの點は實に「モルガン」の大功績なり、然れども「ラッセル」の指摘したるが如く彼は餘りに概括に過ぎ、分類の限界標準を誇大せり。彼は技術發展史に對し、「タイロル」、「ラボック」、「ルノルマン」、「ヘーレン」、「ジュラーデル」、「イエーリング」及び其他學者の如く基石を打ち樹てたるもの。然れども彼はこの發展系列上の統一的關係を闡明せず。技術が經濟社會の構造組織上に如何なる結果を效せるかは全然明解を得ざるなり。この關係上彼は社會主義的夢想に耽り歴史は遂に其發端たる共產主義的状態に復歸すべしと信じたり。吾人は既に本譯補の第二冊 **七十六**—**八十六** に技術發展の概貌を示し、文明人種に就て機具の時代と機械の時代とを區別したり。吾人は大體に於て技術の著大發展が經濟生活の時代を規定すること、然れども苟くも技術の大事實(例へば農耕、

金屬機具、機械が徐々として進歩しその長期間に種々の結果を伴へること、技術の諸部分(戰術、建築術、造船術、農耕技術)が屢その進歩の速度を一にせざることを明かにせんとしたり。既に鐵にて斧を製作したる國民が土地耕作には木製具を用ひ鋤もなく鐵の犁も用ひざりしこと屢これありとは「ピトヘル」の主張する所なり。人種、道德、宗教、慣習、法律、居地及び國土の廣狹に應じ技術發展の同一段階なるにも拘らずその國民經濟に種々の差別を呈せるは吾人の觀察する所なり。尙ほ言語の天才が所謂文明國民てふ概念を分類し、恰かも「ヘルデル」、「バークハルト」、「ヨードル」、「ゴットハイン」の説きたるが如き意味にて、文明てふ概念に或る程度の技術發展並に精神道德的及び國家的發展(人道、人格的自由、國家組織、保護の發達)を含蓄せしめんとしたることも既に吾人の本譯補の第二冊 **八十六** に論議したる所なり。「モルガン」の所謂野蠻及び未開の概念も亦これに等し。

(ホ)「マルクス」が經濟史及び社會史を物的生産力より演繹せんとしたるも亦大體に於て技術的構想なり。もとこれ「ヘーゲル」の三段論法に發せること言ふまでも

なく、換言すれば經濟史は正律反律及び總合の三段形式をとり、先づ労働者が生産手段を所有したる時代より始まり労働者が生産手段を失へる時代を経て労働者と生産手段とが再び更に高尚なる發展段階にて合致する時代となると信ずるものなり。其後と雖も「マルクス」及び「エンゲルス」は何等統一的史觀を提供せず。換言すれば分業、社會階級別、労働者の法律上の地位に關する思想は悉く彼の技術史に含蓄せるなり。然れども「マルクス」は大體に於て一切の經濟生活及び精神生活を支配し規定せる彼の所謂生産力にてその時代時代に於ける經濟生活の技術的組織を理解せるなり。曰、手挽臼は封建諸侯支配の社會を發展せしめ蒸氣挽臼は工業資本家支配の社會を生ぜしむと。所謂經濟的時代別を生ぜしむる原因は生産せらるゝものにあらずして生産方法及び生産手段にあり。換言すれば技術の一定状態に應じて一定の經營形式及び階級關係を生じ、この一定の經營形式及び階級關係はそれぞれに相當する財産形式、社會形式及び意識形式を生ぜしむ(社會組織、觀念、宗教其他皆然り)。

吾人は既に「マルクス」の學說を關説し且つ批評したること一再に止まらず(本譯

補の第一冊 **四十一**、第六冊 **二百十**、本冊 **二百五十**。經濟的原因系列の主張が從來の理想主義的誇張に對して正當の理由あることは吾人の認識する所。然れども「マルクス」及び「エンゲルス」のその學說を提供したる形式は、誤謬にあらざれば則ち極端なり。その後繼者に至りては更にも言はず、凡そ經濟的關係の歴史的發展に對する影響作用は必らず思惟感情及び行爲の中間連鎖に依ること、凡そ經濟的新印象は爾他一切の寫象、回想及び精神力と結合せること、然れば則ち如何なる場合にも技術的原因と結合して道德政治的原因の存在せること。これ「マルクス」學說の看過せる所なり。「マルクス」は人間を技術的狀態を動力とする自動機と見做せども、實際に於て人間は觀念及び高尚なる目的に準じてこの技術經濟狀態を安排す。既に一切經營形式、階級關係、財產關係の説明はその技術的條件の外愈益増進する精神道德的原因を顧みずんば到底得べからざるなり。

(ハ)既に「エンゲルス」及び「マルクス」は幾分分業を經濟進歩及び人文の尺度と認めんとしたるが、「デューケーム」も亦同一の説明を試み而かも一層偏頗に陥れり、曰、

分業なき社會には僅かに機械的連帶責任あるのみなれども分業を發展せる社會には有機的連帶責任あり。前者は刑法及び宗教に依り後者は契約法に依りて結合せらる。進歩の原因は觀念にあらざりて分業の財生産増進なりと。蓋しこれ皮想の一觀察。分業の條件及び結果、分業より差當り生ずべき社會的困難及び競争にして高尚なる道德政治的制度に俟たずんば秩序す可らざる所のものは捨て、顧みられざるなり。「デューケーム」の歸着點を規定するものは歴史的实际主義的研究にあらざりて寧ろ政治的急進的及び社會主義的理想なり。

(ト)これに對し經濟的交通及びその技術的手段に論據を置ける分類は一步深く立ち入れるものと言ふべし。交通は分業の一結果にして、人間の社會的關係に根本的影響を及ぼし、一切の經濟的思惟及び行動を變化せしむ。而してこの影響將た變化がこの交通の場合に非技術的精神的社會的原因も亦與り作用すること依り生産の場合に於けるより顯著なることは言ふまでもなし。吾人は本譯補の第五冊 **百四十八**—**百五十一**に於て、第一時期即ち偶然的隣近交通、第二時期即ち通則的小交通及び地方交通(都市經濟時代)、第三時期即ち大交通及び遠

隔交通を分類せり。この第三時期は幼稚ながら既に古代東邦、希臘人及び羅馬人、中世の地中海商業及び北歐商業に存し、その發達せるものは實に最近世紀以來換言すれば領土經濟、國民經濟及び世界經濟發展以來の現象なり。然れども更に重要な分類は自然物經濟及び貨幣經濟、若しくは「ヒルデブランド」の唱ふるが如き自然物經濟、貨幣經濟及び信用經濟の時代別なるべし。更に吾人が本譯補の第五冊**百六十二**—**百六十九**に分類せんと試みたる所を舉ぐれば、(イ)貨物主として模型的貨物、鑄造せられざる金屬塊を以てする支拂の時代、(ロ)當初の貨幣鑄造時代寧ろ廻期的鑄造時代、(ハ)獨逸に於ては第十二世紀—第十四世紀に至るまで、この時代は都市經濟狀態に應ぜり。(ニ)大小貨幣の通則的鑄造の時代(第十四世紀—第十八世紀、領土團及び小國家に於けるもの)。(三)秩序整然たる補助貨、良貨の大鑄造の時代、この時代は千五百年以來近世國家經濟及び國民經濟に徐々に發達し、第十九世紀に至りて始めて隆昌を極むるに至れり。

信用經濟てふ一時代を考ふるは、よし信用支拂が今日の關係に甚大の影響を及ぼすと疑なからんとも無用の分類なるべし。その影響甚大ならざるにあらず

と雖も過去三世紀に亘りて徐々に自然物經濟より貨幣經濟に進める過渡時代に比するに、所謂信用時代の社會に及ぼせる變化は著大ならず。この過渡時代が如何に大なる經濟的結果を效せるかに就ては既に本譯補の第五冊**百六十九**に詳述したる所、吾人はこゝにこれを反覆縷述するの要なかるべし。吾人の今日は貨幣經濟の新流通普及をしてその危険と弊害とに陥らざらしめんと努力するの時代なり。然り而して吾人は技術的方面より觀察して貨幣經濟の發展に勝れる經濟的過程の大變動を殆んど認むると能はずと主張し得べけんも、而かもこの所謂貨幣經濟は人類の總經濟發展を説明すべき唯一の原理と言ふことを得ず。然り貨幣經濟の流行の前後に起りたる種々雑多の國民經濟的形體に就ては所謂貨幣經濟の説明すること能はざる所なり。種々の階級關係、凡百の分業、私經濟及び國家經濟の形體の一切異同、財産の一切差別等が如何にして起り來れるかも貨幣經濟原理を以て説き去ること能はざるなり。

要之、技術の發展は國民經濟の總發展に對し根本的原因の一なれども、その唯一の原因にあらず。宛かも唯一原因なるが如くに強辯する學説は吾人にたゞ

單に技術的と稱す可らざる現象系列を舉證せり—經營形式、階級競争、貨幣經濟の如き即ちこれなり。貨幣經濟の進歩は國家、法律、道德、高尚なる精神的發展を前提となせり。近世貨幣制度は一つの國家制度なり、鑄貨制度は始めて國民經濟現象を國家化せんとするの規定たり。

二百七十四 一般的歴史の進化論、二、目的論的の形而上學的、心理學的の精神的。機械的史觀及び分類と反對して精神的生活より出發せる史觀と分類とこれあり。こは幾分宗教的形而上學的なり—神學的若しくは目的論的に歴史を理解せんとするものなり、幾分心理學的經驗的なり—心理學的の力と人間行爲とを歴史を支配せる觀念の發展より因果的に説明せんとするものなり。

(イ)ストア派、基督教、將た近世獨斷哲學の史觀例へば、ヘーゲルのその如きは前者に屬せり。ストア派は所謂黃金時代を人類發展の發端に假定し(譯者曰、先きに社會主義に對する補説として希臘神話に於ける黃金時代を説明したり、彼此參照あるべし)。この本來の黃金時代は純自然法の支配し流行せる時代にして人類は再びこれに復歸せざる可らずとなせり。基督教は神と世界と二元主義

より出發し、本來人間は無垢平等なりしに、墮落に依りて國家、財産、社會階級別、犯罪及びあらゆる罪惡を生じたりと信ず。アウグスチンは人間の一生に擬して歴史を説明し曰、古代の五大君主國は人生の六時期に應じ、第六の時期は即ち基督教會統治の神の御國にして將來この神の御國は益實現せらる。中世時代より第十七世紀に至るまで僧門及び俗世間の學者(トマス・フォン・アクィノ及びオットー・フォン・ライシゲン、千六百八十一年の「ボッシュネ」の discours sur l'histoire universelle の如き)はこの「アウグスチン説と終始せり、この根本寫家は言ふまでもなく結局「レッシング」の著人類の教育(千七百八十六年)と同様なり。「ザイコ」(千六百六十八年—千七百十四年)の所謂歴史の三大時代(神的時代、英雄時代、人的時代)も亦これと等しく民族史を統一的に理解せんと欲するもの、即ちストア的基督教的理想状態に始まり英雄時代に於ては幼稚劣等人が國家建設の偉人に依りて征服せられ、人的時代に至り人類主義、公正、一般的福祉を效さんとする努力に依りてこの草創國家を醇化し向上せしめんとするものなり。漫に歴史を古代、中世及び近世と分類するもの、即ち例へば第十七世紀以來一般に行はれ歴史家

の説明の便宜より今日も尙ほ維持せらるゝが如き分類に比するに、凡そかくの如き觀察はその意味更に深長なり。

(口)千七百五十年乃至千八百年の大歴史家及び大哲學者は人類教育、精神若しくは神的計畫の勝利、觀念の支配を旗幟となせり。「カント」謂へらく、自利と社交衝動との相互影響は國家を發達せしめ、國際軋轢及び國際法は永久平和を實現せしむと。「ヘーゲル」の認むる所によれば東洋及び歐羅巴國民の歴史は自由の意識の進歩なり彼が所謂世界精神の實現なり。彼曰、世界精神は偉人及びその事業に現はれ大觀念を代表せる世界史的國家に實にせられ、その發展顯現の順序は正律反律及び總合の三段階をとる。觀念は自然及び歴史に依りてそれ自體に復歸す、觀念は歴史の精神的指導者たり。精神的自由は歴史の究竟目的たり。亞細亞人の隷屬關係より希臘人及び羅馬人の半自由となり更に近世世界の完全なる自由を發展せりと。「ヘーゲル」はその一般的史觀の外に大文明民族を群集心理學に説明し、その文明の個々方面をこれより演繹解釋せんとしたり。換言すれば彼は客觀的時代及び主觀的時代―換言すれば創造の時代と解體の時代とを

分類せり、彼の精神、觀念を基礎として歴史時代を大規模に分類したるが、その所謂觀念及び國民精神が如何にして發達したるかに關し毫も因果的説明を下さざるなり。

「バルト」曰、觀念存在に對する信念は時代の共有財産なりと、これ寔とに然り。「シルレル」、「ウィルヘルム・フォン・ランボルト」、「ランケ」も亦強く觀念存在に對する信念を有したり。當時所謂觀念の意義は、或は神秘的||超世間的||神的||實在たり、全然沒交渉的に外より歴史を支配する神の思想たり、或はたゞ單に一時代の精神道徳力及び大目標の總合及び總名なり。「ランケ」の所謂觀念が前者の意味なりしか將た後者の意味なりしかに就ては今日も尙ほ議論一致せず。反駁者は前者なりと稱し、「ランケ」の流を汲める者は後者なりと主張せり。彼自ら言ふ所を引證すれば、曰、世界を根本的に動かすものは常に活潑なる精神の力なり、此精神力は過去幾世紀の間に準備せられ、偉人に喚發せられて適當の時代に人間精神の深底より發現す、世界の指導原理たらんと努力するはこの觀念の本質たり、歴史發現の裡に認めらるる道徳的勢力正にこれなりと。これを以てこれ

を觀れば「ランケは「プラトール」、フンボルト及び「ヘーゲル」に比し一段實際主義的なり。然れども「ランケ」と「ヘーゲル」との近似は屢これを認め得べく且つ當然認めざる可らず。「ヘーゲル」及び「ランケ」は歴史説明の基礎として理想的觀念論を主張せる代表者たり。「ヘーゲル」に依れば觀念發展は論理的辯證論的理法に準ずれども、「ランケ」は觀念發展の史的順序に就て何等詳細なる説明を下さず。而かも何れも精神的大關係を研究して以て歴史を説明せんとしたる功績を認めらるべし。その後代に及ぼせる影響に至りては甚しき異同あり。「ヘーゲル」の説は直接に法理哲學者及び社會政策家の間に傳はり、「グナイスト」、「ロレンツォフォン・シュタイン」、「ロドベルトス」、「ラチール」、「マルクス」の根本觀念は半ば若しくは全然「ヘーゲル」的なり。其他の方面に於ては「ヘーゲル」の辯證法は忽ち殆んど一般に矛盾を惹き起せり。「ランケ」の流を汲める歴史家は、恐らく「ランケ」の觀念論を發達せしめたらんよりは寧ろ彼が批評的經濟的研究法と巧妙なる資料集成とを儀表とせり。さりながら民族心理學者例へば「シュタインタール」及び「ラツァルス」の如き（二者は直接には「ヘルバルト」を承くるも）、個々の歴史的哲學者例へば「ディルタイ」の如き、皆「ランケ」の

觀念論を繼承せるものと稱するも亦不可なからん。

近時「ランケ」を難するもの、彼を以て屢「神秘家」とし偏頗なる理想主義者とし、將た先覺政治家及び大人格一般の生活及び觀念より一切歴史を演繹せんとする者なりと稱する、又全く誤謬なりとせず。蓋し實際主義的轉動は必要なればなり。然れども如何なる時代にもその特殊の問題あり、而して「ランケ」と云ひ其多くの直接繼承者と言ふ、何れも歴史説明上一般的精神科學の原因を重視すると併せて實際主義的理解將た經濟的、軍事的、教會的、教育的原因を基礎とする解釋の全く缺如せる如きは吾人の認めざる所なり。それは兎に角これ等の原因系列に關する強固なる主張は觀念論及び *Identitätsphilosophie* (自我哲學) と反對せる學者若しくは反對の見地より學說系統を打ち立て漸次に觀念論に歸着せる學者に依り益起り來らざる可らざりき。

(ハ) 經驗的に原因を討究する史論は、或は一切精神生活の個人的群集心理學的要素を、或は精神生活、國家、社會組織、法律、財産、社會階級別及びこれと類似せる現象の直接結果をそれぞれ系統の中心點となし、若しくは兩者を合せ

考へたり。古代に於て既にこれが兩見解の端あり。

「プラト」は治者階級の精神發展を標準として社會を分類し、これより歴史的發展を演繹することなかりき(譯者曰、これに就ては「プラト」の著共和國を閲せらるべく、第一冊概論にも補説あり、參照あるべし)。「アリストテレス」は希臘都市國家を分類する標準として治者の人數をとり(君主制、貴族制、民主制)、且つその發展根據をこれが道德的價値に求め、而して一人主權(君主制)、多數主權(貴族制)及び國民主權(民主制)を分類してこれに常態と變態とを區別せり。貴族制より君主制に發展し、民主制より貴族制に發展すてふ「アリストテレス」の見地は現今に至るまで政治的進化論の要諦となれり。

④(三)半ば哲學的社會主義的、半ば法律史的經濟史的なる近世史觀は「サンシモン」及び「オーギュストコント」に生まれり。「サンシモン」は人類發展問題の中心を政治的組織の發展に求めずして、一面には經濟形式(財産形式、階級發展等)の歴史に、他面には觀念の歴史にこれを求め、而して曰、凡そ歴史的系統は哲學系統を基礎となせりと。「サンシモン」に依れば最近十乃至十二世紀の歐羅巴歴史は三

大時期に分れ、一に封建的軍制的時期、二に法律家支配の時期、三には則ち科學を基礎とする將來の産業的時期となる。大思想より統一的に支配せらるる時代を彼は有機的時代と名け、新思想を基礎とし社會が新形式を發展するの時代を批評的時代と稱したり。全分類は「コント」のそれと同様に、「コント」は全然經驗的に支配的精神狀態を大時代の中心點となし、而して「テュルゴ」を承けて人類古來の發展史を一に神學支配の時代、二に形而上學支配の時代、三に積極主義(經驗的積極的科學)支配の時代と分類せり(譯者曰、これに就ては第一冊概論に補説あり。彼の「フロンツ」及び「ボリテイク」を閲せらるべし)。「コント」曰、社會の歴史は人間精神の歴史に依て支配せられ。苟くも社會狀態は慣習及び制度に結晶し、時代と國民とに別なく一切社會制度を調和統一せんとする精神潮流を基礎となすと。「コント」は精神的社會關係を社會的歴史的の中心原因と認め、この精神的社會より國家生活及び經濟生活の時代を演繹し。乃ち以て彼が歴史的敘述にあらゆる個個誤謬あるにも拘らず且つ又彼の研究法と實際的理想とにあらゆる疑はしき點を藏するにも拘らず、尙ほ彼は一大進歩を效せるもの、社會學を

社會的中心科學となし而して獨逸哲學以外に彼獨特の歴史哲學を建設したるものなり。

三六四

(ホ)「フリエー」の空想的なる衝動論、調和説及び時代説に就ては、よしその多少の精神と哲理とを藏するあらんとも、こゝに吾人の縷陳せんと欲せざる所なり。「ラサール」は經濟的發展史の真相を先づ個人財産及び利益壟斷權の漸次制限に認め、これを基礎として社會發展史を三時代に分類せり、曰、一、中世時代に於ては封建貴族は土地所有を基礎として社會を支配し、二、工業、分業、資本積集の昂進に伴ひ益所謂資本家(ブルジョア)の勃興あり、千七百八十九年をその高潮となす、三、この時代は將來勞働者階級の勝利に依り解體すべく、勞働者階級の自由は即ち人類の自由を意義すべしと。「ロドベルト」も亦これと同様の思想系列、而して更にこれより發展せるものなり。

「ロドベルト」は歴史的巨細研究並に其當時の獨逸哲學を出發點とし、人類の社會的經濟的及び政治法律的生活を一發展系列として益進化するものと理解し、之を單純なる細胞の進化して人間となるまでの過程に比較説明せり。曰、無機

的時代の最古状態は——自然法的前史的個人主義の餘響に應じて——何等社會的有機組織を發展せず、次で有機時代の發達となりこゝに精神的、經濟的及び其他の社會關係の端を發すと。尙ほ彼の所説を観るに、此有機時代は種族生活時代の國家生活時代、全統一人類生活時代に分類することを得べく。吾人の現代はこの第二時代に屬し而して更に二時期に分類せられ、一は社會的根本制度を異にする國家秩序時代にして二は單に政治的組織を異にする諸國家の國家秩序時代となる。異教的古代國家時代は即ちこの第一時代に於て、その特色は奴隸制(身體財産制)及びその法律上及び經濟上の結果なり。神政國家、カステン國家、太守專制國、希臘羅馬の都市國家は皆これに屬せり。この時代の經濟状態は主として家長制的自足經濟及び自然物經濟にして、貨幣交通未だ著しからず、經濟勞働は奴隸に委せられたり。基督教的ゲルマン時代となり衰亡古代文明に抗し且つ民族移轉ありて其間に身體財産制を撤廢したり。この時代の具體的歴史的組織を規定するものは通じて土地財産及び資本財産なり。貨幣交通及び信用交通及びそれに関連せる諸變動は所得分配上に大影響を及ぼせり。この時代は更

三六五

に分れて僧正教會の支配時代、貴族支配の國家、官僚的君主制時代、代議制時代となる。この推移過程は、例へば吾人が佛蘭西革命に於て觀察するが如く、必ずしも容易ならず。然れども國家秩序過渡の社會的大變動に比すればもより些細の變化に過ぎず。而して吾人の現代は今や再びこの國家秩序過渡の大變動時代に會せり。將來何れの日か新國家秩序の實現せられたらん曉には、労働財産及び功勞財産益認められ、從て賃銀及び俸給は恰かも今日の地代及び利子の如き至大なる意義を發揮し、賃銀は功勞を標準として給せられ個人の常態的價値に應じて分配せらるべし、かゝる時代の到來は恐らく空想にあらざるべしと(第一冊 四十一 社會主義の文獻を参照すべし)。

これ大思想にして將來に對する理想的希望たり。「ロドベルト」が常に國家經濟と私經濟とを統一的に觀察し、「アリストテレス」等しく家族經濟進歩して營利的經濟となるの意義を洞察したるは一大進歩なり。然れどもこの進歩過程は朦朧として捕捉す可らず其間に何等の因果的説明を下さざるなり。

(一)「ロレンツォ・フォン・シュタイン」の國家學的敘述は到る處に彼の史觀を基礎とし、

而してこの史觀は即ち族黨國家、封建貴族國家、近世市民的時代の發展系統を眼目となせり。英蘭の大法律家にして大文明史家たる「サー・ヘンリー・サムナー・メイ」はその研究結果を身分關係より契約にてふ形式に攝要し、この提説は屢自由主義的個人主義的思潮より引證せらるる所なり。彼のこの提説の意味は、古代にありては恐らく血縁團、土地財産組織及び其他固陋なる身分法が社會を支配し、而して今日の社會關係は寧ろ凡百の自由新契約に依て律せらるると認むる點に在り。この學説の根底をなせるものは千八百四十年乃至千八百七十年の英蘭の經濟的事實なりとす。これと等しく千八百七十五年乃至千八百七十五年の長期平和時代及び英蘭及び亞米利加の特に純個人主義的經濟政策を採れる事情は、相俟て以て彼の「ハーバート・スペンサー」をして一方社會的國家的發展を效さしむる幾多原因系列を擧證する他方に究竟且つは主として歴史が戰爭的社會體型より平和的社會體型に推移することを觀ぜしむるに至れり。これ「サンシモン」及び「オーギュスト・コント」と同一の思想行程にして、幾分の眞理なしとせず。舊國家組織及び經濟組織は根本的に戰爭組織に依りて幾分は發達し幾分は規定せら

れたり。「スベンサー」が戰爭的體型にありては權威と隸屬と行はれ平和的體型に於ては人格の自由行はる、前者の場合には個人は全體の爲めに存在し、後者の場合には反對に全體は個人の爲めに存在すとなすも亦妥當ならずとせず。然れども彼は彼の所謂平和的體型がその個人主義を以て國家をも解體疲弊せしめ、個人を利己主義に陥らしむることを顧みざりき。彼は國家發達上社會發達上に協働せる別方面の原因を看却し、彼の平和的社會體型主張が如何にマンチエスタ思潮を脱すること能はざるかに省みるの違なかりき。

(ト)最近十年以來舊理想主義的政治的史觀に反對し實際主義的文明史の見地より人類發展を統一的に理解し、統一的見地、概念、原因系列に準じてこれを分類せんとする大計畫を立てたるもの——二人の少壯獨逸史家あり、他にあらざらんブレヒト及びブライジヒこれなり。

「ランブレヒト」は其の見地を從來の個人主義の見地と反對に統合主義的と稱したり。彼は壯心論争的態度に出で、「ランケ」及びその學派を攻撃し、自ら全史學の改革者と號し、彼の研究法を以て歴史は始めて科學的となり概念的となると

を得べしと唱へたり。彼が先づ獨逸史の分類上に基礎となせる所は「リスト」及び「ヒルデブランド」の經濟的分類法なり(本冊二百七十三参照)。而してこれに附説するに二項を以てしたり。彼曰、苟くも大時期は前半社會主義的にして後半個人主義的なり。例へば農業時代は疆域組合及び村落組合の時代には社會主義的にして領地支配經濟及び農民個別經濟時代には則ち個人主義的となるが如しと。かくて彼はその經濟史的立脚點より更に進んで時代發展の究竟原因たる精神の特色を理解せんとせり。其後彼は益この傾向に進み、而して獨逸史及び類推的に世界史を精神的及び經濟的に分類し次の如き二重圖式を打ち立つるに至れり。一批評家の攝要せる所に依るに、

精神	動物崇拜主義	徽號主義	體型主義	傳習主義	個人主義	主觀主義
文明	原始時代	第十世紀前	第十世紀	第十三世紀	第十五世紀	第十八世紀
物質	統合主義的	個人主義的	統合主義的	個人主義的	共同主義的	個人主義的
	占有經濟	占有經濟	自然物經濟	自然物經濟	貨幣經濟	貨幣經濟

彼の友人及び門生と雖も歴史的社會的一切現象の究竟原因を彼の時代別圖式に求めんとは欲せず。この圖式は個々時代の法律、國家組織、階級關係、經營形式を毫も説明する所あらず。畢竟これ主として情緒生活に基ける名目のみ。而して「ランブレヒト」もその最近事業たる獨逸經濟發展の分類上には最早この圖式を出發點となさず。却て欲望と欲望満足との心理學的距離、その擴大、經營形式上に於けるその投射(實行)を中心點となせり。原始時代及び種族時代、中世前時代及び中世後時代、近世時代及び最近時代は彼の一雙時代別と認むる所、それぞれの時代に主觀的欲望と享樂との分離あり、商量、記憶、價值寫象に依りて分離せられて再び結合せられ、實際的經濟過程上には生産と消費とが分業と交通とに依りて分離せられ而して再び結合せらる。「ランブレヒト」の言ふ所に從へば、この時代別の第一の一雙時代に於ては消費主たり、第二の一雙時代にありては生産主たり、第三の一雙時代は則ち商人及び企業家の支配する所なり。最近時代に於て自由企業はカルテル及びその他の制度に依りて合同企業に轉じ、爲めに現代の競争及び軋轢は再び靜穩となり均衡を得べしと稱す。「ランブレヒト」

トは嘗にこの場合に限らず叙述光彩陸離、他の學者の提唱せる眞理をも説明上に新形式を興へ、これをして新光彩を發揮せしめ、且つ又能く究竟問題を大處より理解せること喋々を須たず。然れども彼が形式餘りありて史實に足らざることも亦争ふ可らず。彼は世界史發展に關して頻りに新形式を提供し、乃ち以て學界に新たに刺戟を興ふることなきにあらざるべし。然れども彼は自ら先きの自家學説を捨て、顧みざるの譏を免かる可らず。

「ブライジヒ」は既に「ドローゼン」、「ニッチ」次では「エドワルドマイエル」及び其他學者の唱導せる思想を承け、希臘、羅馬及びゲルマン國民の比較史を出發點となし。これ等國民の間に大體に於て一致の發展ありとして曰、これ等國民の原始時代及び古代、中世前時代及び中世後時代、近世時代及び最近時代は政治上及び經濟上の制度に殆んど同様の變動ありと、尙ほ彼はこの變動史と並列して信仰、美術、科學、文學の發展ありと信じたり。さて彼はこの國民史の二重時代(精神的及び物質的)並にその時代に並び存せる政治的、經濟的、教會的、美術的、經濟的生活の諸現象の統一的心理學的原因を求め、各人の精神に内在せる精神

的矛盾をこの原因と認め、この矛盾に下の如き形式を與へたり。曰、自我と世界、自我と他人、自我と神。これより彼は並存し抗争せる二つの精神力、即ち人格的欲求及び共同的欲求、支配衝動及び獻身衝動を演繹し、この兩衝動兩欲求はその限界極めて朦朧として互に相結合し、一衝動は同時に他衝動をも含蓄するものとなせり。この要素を基礎として、彼は精神、人格、各國民及び各時代の雰圍氣、その行爲並に内觀、意志並に想像、將た其感情の一切方面をも演繹し、且つ諸制度を同様の系列をなして去來する必然現象と理解し得べしと期待したり。

「ブライジツ」の議論の目的が差當り全然、古代及び近世時代の政治的及び經濟的、教會的、美術的及び科學的發展系列に於ける差點を捨て一致點を闡明せんとするに在りしことは言ふまでもなし。彼は「ランブレヒト」の如く統合主義をとらず、「ニッチ」と同じく偉人を時代の明星基石と觀じたり。彼は國家組織發展及び經濟發展を精神的發展に對し或る意味にて因果的前提と認めたり。彼の信ずる所に從へば歴史を規定するものは主として實際活動者なり。然れども彼は「マル

クス」の經濟的唯物主義に斷然反對せるもの、彼の所謂平行發展説は近時比較國家史の學問領域に究明せられたる最も有用の知識なり、彼の所謂人格的欲求と共同的欲求とは明かに精神生活の中心に觸れたるものと言ふべし。個人と社會とは嘗ても屢、「ブライジツ」に之を觀るが如く一切精神生活及び歴史生活の兩極と稱せられたり。然りと雖もこの兩極説が果して歴史説明の基礎として遺憾なからんは、それが科學的心理學一般及び心理學的歴史の要素として確證せられたる後のことに屬せり。思ふに今日まで「ブライジツ」にこの確證を求む可らず。

(子)最後にこゝに掲ぐべきは著名の露西亞社會學者 Peter Lawrow の史觀なり。彼の認むる所に依れば、人類の進歩は個人の身體的知的及び道德的發展に在り、而してこの發展は畢竟心理學的なり、この發展は進歩に關する個々人の批評的思索に依り意識に依り將た真理の爲め正義の爲めにする先覺者の獻身的競争に依りて效され、この競争は高尚なる社會形式、高尚なる道德的連帶責任の形式を發達せしむ。彼の究竟の目的は社會主義的なり、故に曰、精神的先覺者は勞働民衆及び困弊民衆と結合して以て永久的に高尚なる文明を發達せしめざる可

らず、蓋し民衆が高尙なる文明に參からざる限り高尙なる文明それ自體も亦不安固なればなりと。然りと雖も LAWOW は多數民衆が發展進歩せんが爲めに先づ幸運なる少數者を双肩に擔て所謂被治者として勞せざる可らざること、舊小國家が凡て隣邦及び敵國に對し餘りに弱小に、それ故膨脹擴大せざる可らざること、この目的を達せんが爲めには必らずや強制苟くも假さざる大國家權力なかる可らざること承認せり。さてこの國家の膨脹とこの強制權力と並に少數者の支配とに伴ひ常に國內に不平等及び不公正を生じ、階級支配を發展せり。原始的社會の道德的連帶責任の感情は消滅し、かくの如く畸形の發達をなせる國家は内憂外寇の爲めに滅亡の運命を免かれざりき。これに依り國家組織及び社會制度は常に益更新せられざる可らず、其の間に無意義の傳承及び慣習、無意義の權力は眞理及び公正てふ道德的權力の爲めに制せられ、政權、富、思想產物に對する支配階級の獨占權は益減削せられ遂には撤廢せらるべし。然り而して差當り支配者と困弊民衆との間に社會中流階級の發達するあり、高尙なる政治形式、理想革新、美術形式、宗教、科學系統の改善を觀るべし。遂に利己主

義は精練せられて義務の實行、社會の進歩を至樂と感ずるに至り、萬人勞働の義務を負ひ、私有財産は廢除せらるべし。社會主義的社會は常に經濟的進化の結果なるのみならずして政治道德的及び知的進化の結果なり。先覺の士はその一般的世界觀の中に歴史の全過程を網羅し、從て自ら進歩の標準となり社會理想の力となり、それが爲めに完全なる連帶責任可能となり、完全なる科學、哲學、美術も起り得べく、一切の誤りたる理想及び制度は撤去せられ得べし、ここに於て矛盾なき利害と確信とを有し生活條件を同一にせる平等個々人の一社會を發展し、乃ち以て出來得る限り凡ての乖離的敵對的情緒を排除し個々人相互のありとあらゆる生存競争を撤去するに至る。

冷靜なる觀察者はこの種の希望をユートピアと見做すべし。然れども歴史に通曉せるものは眞理と正義との漸次實現を期するこの理想的社會體貌を且つ承認し且つ尊重すべく而してこの體貌の裡に「マルクス」史觀の裡に於けるよりも更に多くの歴史的眞理を發見すべし。「マルクス」の社會的競争觀及び史觀に就ては LAWOW 自らこれに反對せず而してこれを以て彼自らが叙述せる大精神過程の外

的部分現象と認めたり。若しそれ彼の社會主義的極端説を削除したらんには、吾人は彼の學説がその大綱を観れば、「レッシング」の人類教育説、「ヘーゲル」の客觀的世界精神の實現、「ランケ」の觀念論と根本的の差別あるを認めざるなり。

今吾人は人類史の時代別及び進化的説明に關する學説の概觀を結ばんとするに當りて、斯學の現状がこの問題に就て取扱ひ得る所は遺憾ながら確實なる眞理にあらずして目的論的解釋に過ぎざることを感ぜざんばならず。されば或は經驗論者及び特殊専門學者はこれを蔑視するとなきにあらざるべし、而かもこれ直に眞理にあらずとも尙ほ眞理に近きものあり。然り而して諸説の區々たるは寧ろ外觀に在りて根本にあらず。幾分何れの學説もたゞ名稱を異にするのみ、幾分は一説は關聯現象然り同一現象の内的關係を又一説は其外的關係を説明の原理となせるの別あるのみ。或るものは制度の精神的方面若しくは精神を捕へ、或るものは制度の經濟的、政治的、法律的及び階級史的方面を観る。而かも何れも統一形式を發見し、事象を一元的に説明せんと欲し二元論をとらんとするものはあらず。たゞたゞこの最高目標が今日到底到達す可らざることを何れも

看却せるの憾あり。

吾人のこの原論は抑しかく高遠の事象を捕捉せんことを期せず。たゞたゞ差當り國民經濟生活の個々の重要な發展系列を心理學的法律史的及び經濟史的に説明し、これを社會政策的に評價し、その將來の發展傾向を述證せんとする努力を眼目となせるのみ。この個々方面及び系列を更に統合説明せんことに就ても吾人はもとより慎重なる努力をなしたれば、後節の問題として再びこれを取扱ふべし。

二百七十五

經濟的組織形式の歴史的發展段階。國民經濟の根本思想は人類經濟的生活が同時若しくは繼時に統一關係をなせる若干の政治社會的團體内に起ることに在り。これ等團體個々の統一關係はそれぞれの領域及び境界、時々發展の技術及び其他を縁とすれども、主として血縁交通及び精神的統一將た團體をなせるもの、社會化を因とし、而して其の顯著なる徵證は人種、慣習、法律、道德及び宗教なり、次では主として政治的及び國民經濟的制度なりとす。

從て國民經濟生活の發展行程及びその形式を總じて説明せんが爲めには、人

間社會生活が一般に部落より種族に、次では種族同盟及び侵略國に、更には都市國家小國家より中國家若しくは領土國家に、これより又近世國民國家に、遂に近世の巨大國家及び世界經濟に如何なる逕路をとりて發展したるかを明かにせざる可らず。進んではこの大小及び組織を異にする種々團體が外に對して如何に幾分敵視競争し幾分平和的に接觸せるか、内に向ては如何に個々人、家族、共同團體、結社、企業、政府を秩序し組織せるか、これ等諸機關が經濟機能を如何に分擔し、且つ又國家内に在りて個々人及びその群、さては諸階級が相互に如何に抗爭し政府と如何に軋轢し、若しくは平和的に交通し協合せるかを明かにせざる可らざるなり。

これ等の點に就ては本原論を通じて既に開陳する所ありたるが(主として第一冊三、五、第三冊八十七、百〇一—第四冊百四十七、本冊二百四十五—二百五十二)、それを補充し且つは攝要しこゝに尙ほ數言を提供せんとす、人類が小部落小種族をなしたる未だ土着せず流轉生活をなしたるや一朝一夕の間にあらず。これ等結合團の内的關係極めて薄弱、從てこれが解體も亦極めて容

易なりき。嘗に最古の部落生活に於て然るのみならず、種族がやゝ膨脹してその人口五千となり一萬となり既に土着するに至りても、尙ほ人口三萬乃至それ以上の種族同盟は稀有の現象にして、地理便に、剩へこれが指揮者偉人たり、これが制度能く機宜を得たる場合に僅かに發展したるに過ぎず。此の如きは大進歩而して容易の業にあらざりしなり。大多數の種族は到底かゝる發展を遂げず。或は數千年來人口一千、村落會長の率ゐる小團體に出でざるもの多し。蓋し是れこれ等種族が必要缺く可らざる經濟的進歩を缺き、同盟將た合併に必要なる社會的訓育及び服従、戰爭的政治的制度を缺けるが故なること明白なり、人口自然の増加に對しこれ等種族は益小部落に分裂し然らずんば故意に出生を制歴したり。

比較的高尙なる發達を遂げたる個々種族及び人種、殊に遊牧民は、地の利を得たる場合に夙に強固なる戰爭組織を發展し、乃ち以て他種族を侵略せり。かくて始めてやゝ大なる共同團體及び國家の發展あり、然れども概してその内部の精神的及び經濟的關係が差當り薄弱なるを免かれざりしこと、もとより言を須

たず。侵略國の基礎は暴力のみ。故に解體土崩の憂常に去らず。其後や、大なる個々國家の事例に鑑み、國土擴張が如何に防禦、侵略に對し經濟上及び其の他の進歩に對して有利なるかが明瞭となり。且つ又既に業に政治的社會的團體内に膨脹傾向強烈となるに及んでも、事實は則ち國家膨脹の新計畫が常に差當りはたゞ良組織を發達したる種族に外的に成功したるのみ、而して永久的國家結合の手段は不當ならずんば則ち餘りに薄弱なりし状態なり。かくて成立せるや、大なる共同團體も早晚再び更に強大なる隣邦の爲めに征服せられ、然らずんばそれ自體の内的結合の不完全なるが爲め若しくは權力及び富の増大に伴ひ墮落したるが爲めに早晚滅亡を免かれざりき。現今の歴史研究が證明する限り、吾人はかくの如き社會的及び政治的大團體の發展が次に述ぶるが如き繼時的二大時期を經過せるものと主張することを得べし。(イ)、自然物經濟的戰爭的國家は既に朦朧たる前史時代に發達し、而してこの國家に業に純地方的血縁組合的原始的經濟生活を基礎として神政的戰爭的經濟的專制主義的階級の發展あり。(ロ)、希臘羅馬及び近世印度ゲルマン史の發展はこれと系列を異にし、徐々に

大組織を發達して而かも國家を構成せる個々人及び諸部分の内的關係一段進歩し、複雑なる組織とそれぞれ機關の分業(宗教的及び世俗的權力、政治的及び經濟的、集中的、州縣的及び一地方、一般的及び職業的諸機關等)とに依りて確立し、以て道德上法律上經濟上及び其他の高尚なる文明を發展せるものなり。この新舊發展系列に就て尙ほ少しく精察する所あるべし。

一、大波斯國に至るまでの東洋諸國の發展はこの舊系列に屬するもの。降ては舊印度及び馬來國、支那國及び舊日本國、更にアラビア回々教國、第十五世紀及び第十六世紀の中央亞米利加、而して又舊埃及、希臘||ミケネ|國、メロウ|インガ朝及びカロリ|ンガ朝、「オット|」の獨逸國も亦然り。この系列の後代の個々状態、殊に歴山大帝の世界的國家、歴山大帝崩御の諸後繼國、羅馬帝國の侵略時代以來は既にこの系統に屬せずして近世の大國家及び國民經濟を發展すべき過渡時代をなせり。此等舊國家の版圖及び人口に關しては吾人多く知る所なけれども尙ほ幾分は觀察し得ざるにあらず。埃及は耕作し得べき土地僅かに二七〇〇〇平方キロメートル、總版圖も四〇〇〇〇〇平方キロを越えざりしなるべ

し。その人口は時代に依りて區々、三百萬及び七百萬と註せらる。「ラッセル」に依れば、アシリア バビロン 國に於て人民居住地域は一三〇〇〇〇平方キロ、總面積百五十萬平方キロ。波斯國に至りて始めて五百萬平方キロの大版圖に擴張せり。或る學者は波斯の人口は八千萬と計上し得べしと信ず。されど波斯の運命は僅かに二百五十年、歴山大帝の爲めに亡ぼされたる時は四千五百萬平方キロ、其後幾ならずして再び瓦解したることは今更説明を要せず。羅馬國は、アウグストゥス 崩御の際版圖三百三十萬平方キロ人口五千三百萬と算せらる。ベルギーのインカ國は版圖三百萬平方キロと稱せらるれども、これ侵略併合せられたる屬國の復合に過ぎず。支那の今日は版圖一千一百万平方キロ人口三億三千万、これ等諸國家の或るものは地理上の位置安固に、幾分高尚なる中央機關を發展し以て能く數百年存在したるが、或るものに至りては僅かに二三代にて滅亡したり、而して何れもその内的大發展過程に際しては動亂、分裂、滅亡の危機に陥り、現に土耳其及び支那の状態の如くなりき。

此等の國家は何れも未だ今日の所謂國家經濟も國民經濟も發達せず。何れも

程度に別こそあれ等しく神政的侵略主義の國家なり、多少に拘らず自然物經濟を立脚點とし、人民の多數は主として自家の需要を目的として經濟を營み。貨幣交通は全然缺如したるか若しくは僅かに幾分の發達をなせるのみ。經濟組織は一地方的、家族的、族黨的、村落的、然らざれば領主的のみ。都市の發展せる限り、その分業將た商工業の發達を目的とせずして戰爭的教會的政治的目的を遂行せんとするに在り。國家は分業及び交通に依りて毫も經濟的に結合せることなし、これある場合もそはた々名目に過ぎず。然り而して機械的に結合せられたる、所謂國家を統御し支配する專制的國權とその僧侶、軍人、代官、自然物租稅徵集官とを以てせり。幾分國家中央權は土地財産一切を國有とし而して廻期的に新たにこれを國民に分與せり。如何なる場合にも國家中央權は國民に兵役及び勞役を課し高率の自然物租稅を徵集し、而して一旦の危急若しくは國家の目的の爲めに一般民衆を驅り集めてこれに衣食を給しこれを武裝せしめ、民衆は國家權力に依り時には欲すると欲せざるとに論なく恣まゝに他地方に移され、宛然羊群の如く取扱はれたり。一般民衆は何等人格上の權利なく、貧困に

してたゞたゞ膏血を絞り取られ、その經濟生活を觀るに技術幼稚に、欲望貧弱、殆んど毫も營利衝動を發達せず、願使に甘んじ迷信に陥り無智暗愚以てその日その日を送れる狀なり。これ一種の國家共產主義、嘗て少數の大支配者(例へば「キロス」の如き)に支配せられ、一般民衆も亦幸福なりし場合なきにあらねど、多くは獨り宮廷及び少數貴族の欲望を恣まゝならしめ而して國家の大目的を遂行するに便利なりしのみ。外觀上確固たる大宗教系統こゝに始めて發達し、巨大なる政黨、道路、水路の修築この時代に起れり。商業及び交通を目的とせる個個制度も亦當時の創設に繋かれるものあり。科學の發端、陸海軍組織も幾百萬民衆を虐使しこれより誅求せる結果として可能となれり。されば抑政治的軍制的、神政的、國家經濟的大組織の發達は少數治者階級と何等人格上の權利を認められざる大多數民衆とを基礎となせり。民衆は全く治者の爲めに犠牲に供せられたるなり。この故にかゝる國家は、能く敵國外寇なく、小大となく慣習及び慣例に律せられ、從て又全く固定し苟くも進歩を阻止する場合に比較的長期間滅亡せざるを得べし。凡そ此の如き自然物經濟的專制的國家は時と共に解體

し分裂し滅亡せざるを得ざりき。

二、第二の世界史的大發展系列は、希臘羅馬の文明これが除幕をなせども、民族移轉以來のローマン||ゲルマン系國家及び經濟これが中堅たり。その第一發展系列と相異せる點は、一、これが歴史的舞臺一層有利なること、二、道徳上、法律上及び宗教上、技術上||美術上及び科學上の豊富なる文明を概して前史時代より、ゲルマンは主として希臘及び羅馬より繼承したること、三、この發展系列を代表せるものが高尚なる人種なりしこと是れなり。されば其の發展は大體に於て迅速に昇進したるが、廣大領域に一律ならず、北歐にありては比較的徐徐に、從て又舊發展及び希臘羅馬の發展に比し健全なるものありき。これが大綱を攝要すれば、未開種族生活は小中大國家に發展し、其間蠻的世界支配國に逆轉せんとする端なきにあらざりしも、寧ろ國際關係の樹立存續あり、乃ち小大共同團體の相互影響及び共同存在てふ有效なる形式をとれり。中世時代にありては基督教的主權教會を存し、最近世紀以來は國際法の發達ありて以てこの目的の實現を助成したり。而してこの經濟團體及び國家團體の相互影響及び競

争より國民の發展あり、今や國民は身體的にも精神道德的にも大共同團體となり、以て政治上にも教會上にも經濟上にも社會上にも前古未曾有の高尙なる形式を發達せり。これ等形式の最も重要なものを列擧すれば即ち下の如し、貨幣經濟及び分業の顯著なる發達、高尙なる勞働の權利、健全なる階級別、個々人の人格及び財産の安固、政府及び行政に對する國民參與の組織形式、大集中財政及び個々人會社組合の自由企業、凡そ此の如きは嘗て發達せざりしもの若しくは極めて不完全なりしものなり。

さて吾人はこの總發展系列を特殊の經濟の見地より四時期若しくは五時期に分類するを以て最も妥當なりと信ず。一、農業的自足經濟及び種族生活の時期（尤もこの時期に於ても戦争上に諸種族が結合し政治的に統一關係をなせることこれなきにあらず）、第十世紀及び第十一世紀に至るまでの西洋歴史これなり。二、都市經濟及び都市經濟的領域の時期、この場合に於ても亦これ等の若干領域が弱小封建諸侯に屬せるものありしことを否認せず、第十二世紀より第十六世紀に至るまでの時代これに屬せり。三、第十四世紀より第十八世紀に至るま

での小國家及び領土國家の時期。四、第十六世紀に發端し主として第十八世紀及び第十九世紀に完成を告げたる大國民的國家及び國民經濟發達の時期。五、新世界的國家主として世界經濟關係の時期—この時期は抑歐洲諸強の殖民地争奪戦に始まり、最近五十年來始めてその關係範圍大に擴張し、而して今日に至るまで三大國（大英國、露西亞、北米合衆國）、集中權弱勢の二大國（支那、ブラジル）及び多少發展せる大國家（佛蘭西、獨逸）若しくは久しく停滯せる大國家（奧匈國、西班牙等）並に爾他中小國家の間に僅かに多少の均勢状態をなせり。吾人は既に業に嚴密なる意味に於ける國民經濟の概念及び事實が始めて第十七世紀及び第十八世紀以來、近世國民國家并にその内的精神的經濟的關係及びその外的經濟競争に伴て發展せることを證明せんことに力めたり。

千八百八十四年吾人が始めて詳述せる分類及びそれに伴へる發展段階の主張は、其後九年ビ・ヘルの獨立研究の結果として幾分齟齬すれども而かも略ぼ同様に再び提供せられたり。ソンバルトも亦先輩に對してあらゆる批評を加へたるにも拘らず尙ほ類似の分類説を唱ふるに至れり。内外國の國民經濟上及び歴

史上の文獻の大部分に亘り、然り余を猛烈に攻撃するもの、間にも今日この分類に使用せる術語の廣く普及せるは吾人の觀察する所なり。

余の分類と「ピエール」及び「ソンバルト」のそれとの齟齬に就てはたゞ二語を以て説明し得べし。「ピエール」は分業及び交通、自足經濟と交通經濟との反對、財の生産者より消費者に達するまでの距離を出發點となし、余は最も重要な經濟的機關を出發點となせり。「ピエール」は經濟的關係の形式、今日の經濟範疇の起源を中心問題とし、それが經濟的發展に應じて何時如何に發達したるかを吟味せり。彼の言ふ所は余の説と相容れざるものにあらずして寧ろ單に待ち設けたる補充なり敷衍なるのみ。「ソンバルト」は本來一切の舊術語及び舊概念を拒斥して新概念新術語を創定せんとするの傾向を有し、先づ彼が所謂經濟單位、經營形式、經濟形式、經濟原理、經濟秩序、經濟系統、經濟段階を説明し。而して後吾人に示すに多數經濟秩序と十の經濟系統と八の經營形式と三の經濟段階と二の經濟原理(需要充足經濟及び營利經濟)との假定説を以てしたり。然れども凡そ此の如く概念を新たに鑄造したる外に、尙ほ彼は從來使用せられたる概念一

即ち例へば家族經濟及び都市經濟の如きを使用せり。彼の假定する所の三段階即ち個人經濟、過渡經濟、社會經濟は、其究竟の意義如何と顧るに、家族經濟、都市經濟、國民經濟と等しき制度及び状態を考ふるものなり。而して最後に彼は斷言して曰、科學的に有效なる經濟組織系統は一定の經驗的發展時期(歐洲中世時代及び近世時代)のみを基礎とせざる可らずと、而して彼はこの時期の模型的經營形式を手工業(彼は舊農民經營及び商業經營をもこの中に一括せり)及び資本主義的企業と認めたり。これ等の所謂經驗的時代なるものは實に根本的に余及び「ピエール」の分類より採り來れるものとす。

三、さて吾人は本原論の隨處に所謂經濟時期分類に關し説述したる所をこゝに反覆せざるべし。たゞ吾人は幾分これを詳述せんとするに過ぎず。この分類は經濟的社會化の本質より出發するもの。而して該社會的の本質には二重の事項あり。

(イ)吾人は經濟的協働團體が漸次にその地盤と人口とを増大することを觀察す。而して吾人はこの繼時段階系列の模型的統計體貌を約そ下の如く述ぶることを